

平成 25 年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」 選定取組

つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築

—人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—



事業報告書

平成 25 年 10 月～平成 26 年 12 月

長崎大学

長崎純心大学

目 次

Contents

ごあいさつ	2
-------------	---

事業概要

事業背景	7
目 的	8

実施計画書

平成 25 年度事業実施計画	11
平成 26 年度事業実施計画	12

教 育

1. コース受入目標・履修者数	15
2. 「医と社会」実習報告	17
3. NICE キャンパス長崎	41
4. 教養ゼミナール	53
5. 医学ゼミ	59
6. 初期臨床研修	60
7. 大学院教育	61
8. ICT を活用した医学教育	63

研 究

◆長崎大学	69
◆長崎純心大学	79

行 事

◆長崎大学	87
◆長崎純心大学	109

そ の 他

1. シミュレーター 一覧	141
2. ホームページ	144
3. ロゴマーク	146
4. スタッフ名簿	147



◆ごあいさつ

事業推進責任者 長崎大学医学部長 下川 功



今年度から授業や実習が開始された。長崎大学医学部学生の「医と社会」における実習や長崎純心大学学生との共修も、参加した学生、指導にあたった方々両方から評判がよいと聞いている。来年は、正規のカリキュラムにも入る予定である。

我々の世代は、医学部在学中に高齢者の施設を訪問するようなことはなかったし、まして、介護福祉士や社会福祉士を目指す学生との共修もなかった。医療からの視点ばかりで、高齢者、障害者の生活モデルなど考えも及ばなかった。

この未来医療研究人材養成拠点形成事業では、高齢者の生活を理解し、医療と福祉、介護を連結させ、高齢者の生活を守ることができる総合診療医の養成を目指している。しかし、同時に、介護・社会福祉士、看護師などコメディカルスタッフを目指す学生と早期に共修することによって、プロフェッショナルとしてのお互いの理解を深め、よりよい地域包括ケアシステムを構築することが重要である。

高齢者の介護や在宅ケアは、言葉でいうほど簡単なことではないだろう。

しかし、学生の共修する姿をみていると、力を結集できれば決して不可能なことではないと感じている。

高齢社会の問題点が医療・介護費の視点から議論されることが多いが、もう一つ重要なことは教育ということなのではないだろうか。

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター長 永田 康浩



長崎大学が長崎純心大学と連携して取り組む平成 25 年度文部科学省「未来医療研究人材養成拠点形成事業」「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 一人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成」の平成 26 年度の活動をここにまとめて皆様にご報告いたします。

本年度はまず、地域包括ケアシステムのフィールドを教育資源とする医学教育体制の整備に取り掛かりました。これまで長崎大学医学部で行ってきた地域体験型学習を、大学と地域の現場とが連携を高めつつ、社会の変化に応じた教育プログラムを形作ることにより力を注ぎました。「医療」や「介護」の現場が医

学生に刺激を与えることは確かでありますが、先々にわたりこれを意味あるものとするためには継続と工夫も必要と考えています。

今回、地域包括ケアシステムにおいて欠くことのできない「福祉」の視点を植え付ける教育のために求めた長崎純心大学との連携は、少しずつ形が見えてきたように思われます。今年度の教育プログラムを契機とした両大学の学生同士の活動などは、「医療」と「福祉」の融合を教育の場からボトムアップするものと期待します。同時に、今後は将来の多職種連携に結びつくよう学部、学科、大学を超えた共修の機会をさらに増やす必要性を感じています。また、長崎純心大学との連携は教育にとどまらず、両大学の強みを生かして地域包括ケアシステムに関わる研究についても発展させなければなりません。

学外に医学教育の現場を求める動きは今後も加速すると思われますが、これまでの実習教育に限らず、様々なかたちでご協力頂いた現場の専門職、医師会、自治体の方々に心より感謝申し上げます。教育の主役は学習者であり、本プロジェクトの成果はその学習者の活躍が社会の繁栄へ貢献することで示されるものです。しかし、その過程において地域が密接に教育に関わることで地域における医療と福祉の成長も同時に叶っていくものと信じて、次年度以降も前進していきたいと思っております。引き続き皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

長崎純心大学 医療・福祉連携センター長 潮谷 有二



長崎純心大学医療・福祉連携センターは、長崎大学医学部と連携して文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」を実施するため平成25年10月に設立されました。本センターでは、住み慣れた地域で尊厳を保持し、自分らしい生活を継続することができるように、高齢者をはじめとする地域住民の保健医療の向上と福祉の増進を包括的に支援する「地域包括ケア」体制の推進に関する理論的かつ実証的な調査研究を行っています。

このような研究を進めていく背景には、諸外国に類を見ないわが国の少子高齢化の進行があります。特に、団塊の世代（約800万人）が75歳以上となる2025年を目途に、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が目指されており、第186回通常国会においては、医療法、介護保険法等の関係法律について所要の整備等を行うために「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」が採決されました。これを受けて、医療と介護サービスとを一体的に供給する地域包括ケアシステムが急速に整備される状況にあります。また、地域包括ケアシステムの構築にあたっては、行政分野、医療分野、福祉分野といった、いわゆる専門職間の連携にとどまることなく、地域住民との有機的な連携システムを確立する必要があります。そして、このためには、多様な地域特性を踏まえて地域住民が有する医療・福祉ニーズを的確に把握し、適切に対応することができる地域包括ケアを担う人材を養成・確保することが急務となっております。

“知恵と奉仕”を建学の精神とする長崎純心大学の福祉教育には、60年近くの歴史があります。この間、長崎純心大学では、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、保育士などの国家資格を取得し、専門職倫理と福祉に関する専門知識と技術を有する実践力の高い優秀な福祉人材を養成してきました。そして、その多くが長崎県内をはじめ、九州圏内の福祉現場で活躍しております。

これらの実績を踏まえて本センターが構想する地域包括ケアシステムは、その対象を単に高齢者に限定するのではなく、生活の主体者である地域住民を中心に地域の福祉を創造するために、地域住民が生活と福祉の増進を図る主体者となり、年齢や障がいの有無に関わらず、様々な生きづらさを抱え、何らかの支援を必要とする人々を包摂する住民主体の支援システムとしての機能を具備したものです。

このため、本センターでは、調査研究を通して得られた学術的な知見を広く長崎の地に還元する事を通して、地域住民による主体的な支え合いと相まって、誰もが必要な時に適切な医療や介護・福祉サービスを利用しつつ、安心して住み慣れた地域で生活を継続することができる地域包括ケアシステムの構築と発展に寄与していかなければならないと考えております。

2

事業概要



◆事業背景

長崎からの挑戦

長崎県は、2035年における老年人口割合が将来見通しでは全国で5番目に多く、後期老年人口割合も7番目に多いと推計されている。県全域には離島や半島が多く、また長崎市内が山に囲まれ急峻な坂が多い特殊事情もあり、医療・介護サービスの提供が困難である。このような状況で、超高齢社会を迎える中、多様な疾患を抱えた高齢者を全人的に診る医療の充実、および地域で高齢者を包括的にケアするシステムの充実が強く社会から求められている。

しかしながら、このシステムの中で大きな役割を果たすべき医師の育成については十分とは言えない。これは、医学教育において地域包括ケアシステムについての系統立てた教育と実習が行われていないことが一因と考えられる。今後は、生活モデルの視点から医療とケアのアプローチができ、さらに福祉・介護職と良好な連携がとれる医療人の育成が望まれる。

経験と実績を未来の医療人育成へ

・離島・へき地医療での教育経験

平成16年より全国初となる自治体からの寄付講座「離島・へき地医療学講座」を開設。全国に先駆けて地域医療教育を展開し、離島における学生実習に地域包括ケアフィールドを活用してきた。

・長崎で活動している地域包括ケアシステム

長崎在宅 Dr. ネット

P-net（長崎薬剤師在宅医療研究会）

長崎県訪問看護ステーション

長崎市包括ケアまちなかラウンジ

長崎市斜面研究会

長崎県基幹型認知症疾患医療センター

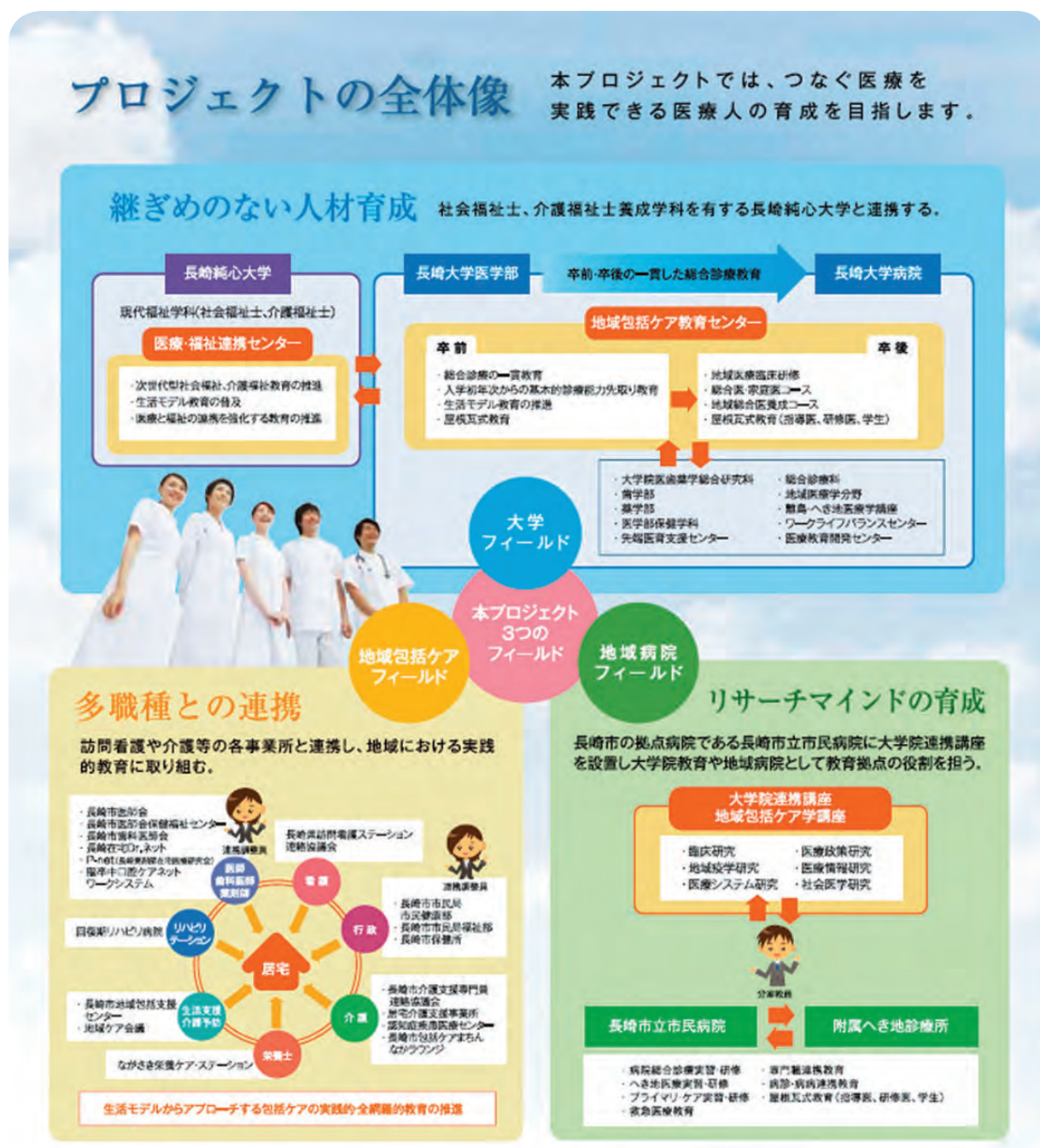
地域包括支援センター

長崎県栄養士会（ながさき栄養ケア・ステーション） etc.

◆ 目的

本事業は平成 25 年度、文部科学省 GP (Good Practice)「未来医療研究人材養成拠点形成事業－リサーチマインドを持った総合診療医の養成－」として、将来にわたって安心して医療を受けられる環境を構築するため、地域の医療機関や市町村と連携しながら、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医を養成する事を目的に実施する。

この GP において、長崎大学と長崎純心大学は連携し、地域包括ケアシステムを理解し、今後実践できる医師の人材育成と、超高齢社会に伴う諸問題を研究する医師を継続的に輩出する仕組みの構築を目指す。



3

実施計画書



◆平成 25 年度事業実施計画

9月	本事業推進のための関連専門職種連合結成（長崎大学・長崎純心大学）
9月	大学院連携講座設立準備に着手（長崎大学）
9月	教育支援・情報共有のためのサーバー設置（長崎大学）
9月	遠隔授業・会議のためのネットワーク環境整備（長崎大学）
9月	本事業教職員の募集開始（長崎大学・長崎純心大学）
10月	地域包括ケア教育センター、医療・福祉連携センター設置（長崎大学・長崎純心大学）
10月	長崎市立市民病院に長崎大学分室設置（長崎大学）
10月	教育実施・支援のための教職員配置（長崎大学・長崎純心大学）
10月	地域包括ケアシステムの課題分析のための調査（長崎大学）
11月	教育推進・アクティブラーニングのための教育環境整備（長崎大学）
11月	地域における教育資源活用のための調査（長崎大学）
11月	次年度カリキュラム再編に参画（長崎大学）
12月	本事業の周知・協力依頼のためのパンフレット配布（長崎大学）
12月	ネットワーク構築のためのメーリングリスト等の整備（長崎大学）
12月	本事業の公表および推進のためのホームページ立ち上げ（長崎大学）
1月	長崎地域包括ケア教育推進委員会開催（長崎大学・長崎純心大学）
1月	教員の国内視察（長崎大学・長崎純心大学）
1月	共修科目 NICE キャンパス科目設定（長崎大学）
1月	地域包括ケアシステムの課題分析のための研修会議開催（長崎純心大学）
2月	キックオフシンポジウムの開催（長崎大学・長崎純心大学）
3月	長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会開催（長崎大学・長崎純心大学）
3月	地域包括ケアシステムの課題分析結果公表（長崎純心大学）

◆平成 26 年度事業実施計画

4月	教育・研究記録のためのデータベース作成（長崎大学）
4月	共修科目 NICE キャンパス科目受講者募集開始（長崎大学・長崎純心大学）
4月	地域包括ケア実習導入のための次年度カリキュラム大幅改編参画（長崎大学）
4月	共修科目 NICE キャンパス科目新規開講（長崎大学）
4月	卒後臨床研修に地域包括ケア科目導入（長崎大学）
4月	選択型臨床実習に地域包括ケア実習導入（長崎大学）
4月～ 3月	教員の国内視察、地域包括ケアシステムに関する学会等への参加 （長崎大学・長崎純心大学）
5月	大学院連携講座地域包括ケア学講座開講 （長崎大学・長崎みなとメディカルセンター市民病院）
6月	長崎大学医学部医学科・保健学科、歯学部、薬学部、長崎純心大学現代福祉学科の共 修拡大のための会議開催（長崎大学・長崎純心大学）
7月	長崎地域包括ケア教育推進委員会開催（長崎大学・長崎純心大学）
7月 ・ 1月	フォーラム・研究会の開催（年2回）、シンポジウム、FD、SD の開催（年1回）（長崎大学・ 長崎純心大学）
7月	大学院入試（10月入学）（長崎大学）
8月	集中セミナーの開催（長崎大学・長崎純心大学）
8月	教員海外視察（ドイツ）（長崎大学・長崎純心大学）
9月	地域医療ゼミに地域包括ケア関連授業導入（長崎大学）
10月	長崎地域包括ケア教育評価委員会を設立する（長崎大学・長崎純心大学）
12月	長崎地域包括ケア教育推進委員会開催（長崎大学・長崎純心大学）
1月	長崎地域包括ケア教育評価委員会開催（長崎大学・長崎純心大学）
2月	長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会開催（長崎大学・長崎純心大学）

4

教

育

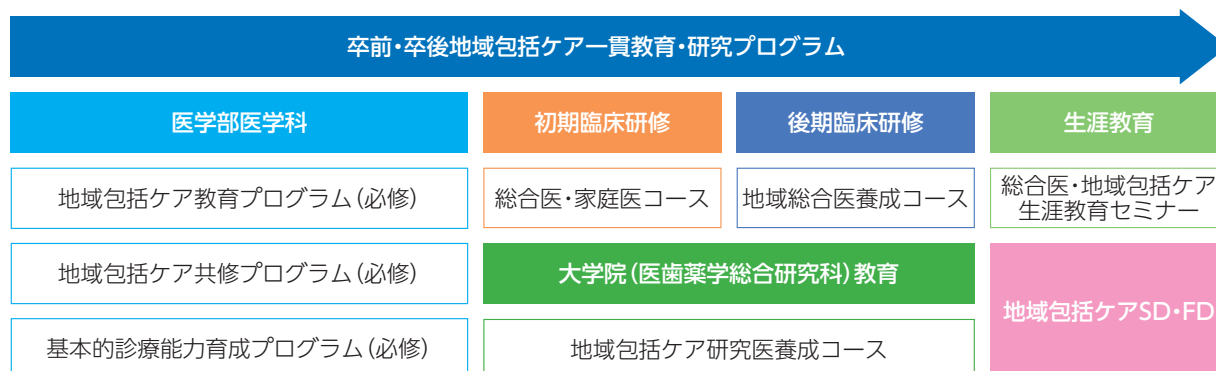


1. コース受入目標・履修者数

継ぎめのない医療人育成

長崎大学は今後、地域医療機関・市町村・多職種と連携して幅広い視点で患者を診る総合診療医を育てることを目的に、卒前・卒後一貫教育システムを構築する。

卒前は地域ケア実習を含め、地域包括ケア教育を全医学生が受講し、医療・福祉系の共修や地域実習の中で多職種連携の重要性を学び、さらに卒後の臨床研究や生涯教育に繋げ、総合的診療能力やマネジメント能力の養成を図る。



地域包括ケア教育プログラム(必修)

対象者 医学生1～6年生、現代福祉学科生1～4年生
 修業期間 6年
 教育内容 〈必修科目〉
 医と社会(医と暮らし等)
 臨床実習(地域ケア科目)
 〈選択科目〉
 高次臨床実習、地域医療ゼミ、医学ゼミ

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
医学生	0	0	500	544	620	620	620	2360
福祉学科生	0	0	30	0	30	30	30	120
計	0	0	530	544	650	650	650	2480

地域包括ケア共修プログラム(必修)

対象者 医学科生、保健学科看護学専攻学生・理学療法専攻学生・作業療法専攻学生、薬学生、歯学部生、介護福祉学生、社会福祉学生
 修業期間 2年
 教育内容 〈必修科目〉
 教養セミナー、医と社会
 〈選択科目〉
 NICE キャンパス長崎

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
医学生	0	0	0	17	240	240	240	720
他学科生	0	0	0	16	560	560	560	1560
福祉学科生	0	0	0	26	30	30	30	90
計	0	0	0	59	830	830	830	2490

基本的診療能力育成プログラム(必修)

対象者 医学生1～6年生
 修業期間 6年
 教育内容 〈必修科目〉
 医と社会、臨床実習
 〈選択科目〉
 高次臨床実習、地域医療ゼミ、医学ゼミ

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
医学生	0	0	660	544	660	660	660	2640
計	0	0	660	544	660	660	660	2640

初期臨床研修

対 象 者

修業期間

教育内容

初期臨床研修医
2年
〈必修科目〉
総合診療科、救命救急センター、
精神科、皮膚科、内科、整形外科、
小児科、地域医療、地域包括ケ
ア、マネジメント法・教育法
〈選択科目〉
産婦人科、保健・福祉行政

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
初期研修生	0	0	0	4	5	5	5	15
計	0	0	0	4	5	5	5	15

後期臨床研修

対 象 者

修業期間

教育内容

後期臨床研修医
2年
〈必修科目〉
総合診療科、救命救急センター、
精神科、皮膚科、内科、整形外科、
小児科、地域医療、地域包括ケ
ア、マネジメント法・教育法
〈選択科目〉
産婦人科、保健・福祉行政

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
後期研修生	0	0	0	0	5	5	5	15
計	0	0	0	0	5	5	5	15

大学院（医歯薬学総合研究科）教育

対 象 者

修業期間

教育内容

医歯薬学総合研究科医療科学専
攻大学院生
4年（博士課程）
〈共通科目〉
生命医療科学セミナー、生命医
療科学概論・生命医療科学特論
〈地域包括ケア研究医養成コースの科目〉
地域包括ケア学特論、地域包括
ケア演習、地域包括ケア学実習、
在宅・地域医療実習、離島・へき
地病実習、研究科が指定する地
域包括ケア関連科目、研究科が
開設する地域包括ケア関連科目
〈主科目〉
所属専攻が開設する授業科目

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
大学院生	0	0	2	0	2	2	2	8
計	0	0	2	0	2	2	2	8

生涯教育

対 象 者

修業期間

教育内容

一般医師
1年
〈共通科目〉
セミナー（地域医療学、地域福
祉学、地域保健学、地域介護学、
総合診療科学、家庭医療学、地
域リハビリテーション学、医療
倫理学、地域保健・福祉行政学等）

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
専門職	0	0	0	0	10	10	10	30
計	0	0	0	0	10	10	10	30

地域包括ケア教育 SD・FD

対 象 者

修業期間

教育内容

地域包括ケア関連専門職種
1年
〈必修科目〉
基本的教育理論、基本的教育手
法、コーチングの基礎、学生・
研修医教育に関わる問題点とそ
の解決法

対象者	H25年度		H26年度		H27年度	H28年度	H29年度	計
	受入目標	履修者数	受入目標	履修者数	受入目標	受入目標	受入目標	
専門職	0	0	20	－	20	20	20	80
計	0	0	20	－	20	20	20	80

2. 「医と社会」 実習報告

平成 26 年度より、地域包括ケア教育センター教員もカリキュラム再編に加わり、科目「医と社会」の 40%にあたる 48 コマを、当センターが担当することとなった。それに伴い、従来とは異なる診療能力育成先行型の新たな人材養成システムを導入した。

平成 26 年度時間割（医と社会）				
	期間	曜日	コマ数	地域包括 のコマ数
1 年前期	4 月 8 日 ～ 7 月 15 日	火	35	15
1 年後期	—	—	—	—
2 年前期	—	—	—	—
2 年後期	9 月 24 日 ～ 12 月 24 日	水	32	17
3 年前期	4 月 3 日 ～ 7 月 2 日	水 (4 月は木曜日)	26	12
3 年後期	10 月 10 日 ～ 11 月 7 日	金	10	2
4 年前期	4 月 4 日 ～ 6 月 27 日	金	15	2
4 月後期	—	—	—	—
			118	48

* 主な授業内容 *

- 【1 年】 体験学習・実習・振り返り
- 【2 年】 体験学習・ロールプレイ・実習・振り返り
- 【3 年】 体験学習・ロールプレイ・実習・振り返り
- 【4 年】 模擬カンファレンス

* カリキュラム作成にあたって *

概略： 将来どのような医療現場へ進むに関わらず、医学生が身につけてほしい地域包括ケアに関する知識、態度、技能を明確にし、これらを習得するためのカリキュラムを作成した。

目標：

- I. 地域包括ケアシステムを理解し、他職種と円滑に連携ができる
- II. 医師としての真摯な姿勢と素養を習得する
- III. 総合的診療能力（医学的知識と技能）を身につける



教育方法（カリキュラム構成）：Spiral curriculum ※

知識・態度・技能の養成は施設実習等の実践経験 (early exposure) や臨床に即したグループワーク・シミュレーション実習を入学初年度から取り入れることで、モチベーションを刺激しながら満遍なく学べるよう構成した。そうすることで将来への展望をイメージしながら医学生としての必要な姿勢も早期から学ぶことが期待される。

※ I～III の各領域をらせん階段状に巡りながら、それぞれの到達目標に向かって、全領域をバランス良くレベルアップするカリキュラム構成。

カリキュラムの効果：

- 地域包括ケアを実践するにあたり、将来必要となる基本技術（本年度は、心電図、血圧測定、超音波検査等）を医学部入学初年度から学ぶことにより、解剖をはじめとした基礎医学や臨床医学により興味を持ち、後の学習や他科の授業および将来の診療がさらに深まる。
- 学外施設実習前後の授業により実習を充実させることができる。
- グループワークを多用することにより、学生自らイメージし、考える力を養う。

カリキュラムの特色：

- 1) 診療能力育成先行型システム・シミュレーターを用いた実技を中心とした授業
- 2) 現場に近い専門職の介入
- 3) 学外実習のフィードバック
- 4) 実習の細かなコーディネート
- 5) 実際の症例を用い、学生自らイメージし、考える授業
- 6) グループワークを多用した授業
- 7) ICT の活用

ワーキンググループを立ち上げ月 1 回カリキュラム作成のための会議を行っている。

地域包括ケア臨床実習ワーキンググループ

所属	職種	氏 名
地域包括ケア教育センター	教授	永田 康浩
地域医療学	教授	前田 隆浩
医歯薬学総合研究科 保健学専攻	教授	井口 茂
長崎市高齢者すこやか支援課	課長	南 涼子
長崎市医師会保健福祉センター	次長	陣野紀代美
長崎純心大学	准教授	宮野 澄男
地域医療学	助教	門田耕一郎
地域包括ケア教育センター	助教	相良(植木) 郁子
医歯薬学総合研究科 保健学専攻	助教	濱口 由子
地域包括ケア教育センター（長崎市役所）	連携調整員	門村由紀子
地域包括ケア教育センター（長崎市医師会）	連携調整員	濱田 恵子
地域包括ケア教育センター	事務	山崎 美香

《お年寄り体験実習》

お年寄り体験スーツを用いた疑似体験を通して高齢者の身体機能や心理状態を理解し、介助方法や患者（利用者）に対して医学生としてふさわしい態度・行動を修得した。

また、授業スライドに関しては、教育ツールである「ヒカルミライ iPortfolioMaker」からダウンロードできるようにしている。事前の e-learning 学習の導入（2年生のみ）も試みた。



体験スーツによるお年寄り体験（1～3年）



車椅子体験（2年）

《基本技術実習（超音波検査・血圧測定・心電図）》

診療器具を実際に操作し、診療技術を修得するにとどまらず、解剖学等の基礎医学や臨床医学への興味・意欲を促した。



腹部エコー実習（1～3年）



人体模型を用いて臓器を再確認。

フィジカルカード及び臓器シールを活用。



バイタルサイン測定実習（1～3年）



心電図実習（1・3年）

《医療面接⇒ロールプレイ（2年）》

医療面接では、学生同士で身体の不調を面接し合い、その様子を記録しフィードバックをし合った。また、ロールプレイでは、在宅医療をテーマに医師役、患者・家族役にわかれ、それぞれの立場に立って考えコミュニケーション技法について学ぶとともに、在宅医療に必要な、患者・利用者の介護のニーズについて考えを深めた。



医療面接の様子

ロールプレイの様子



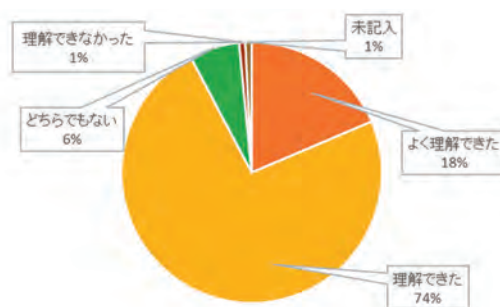
専門職者（保健師・介護支援相談員）によるアドバイス



ベストプレイヤー賞・ベストオーディエンス賞受賞者

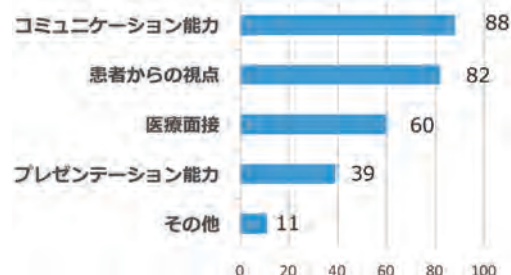
学生へのアンケート（抜粋）

患者・家族の在宅医療・介護ニーズについて、理解が深まった。



今回のロールプレイを体験・見学して、今後どのような学習の必要性があると感じましたか？（複数可）

学習の必要性について（複数回答）



- ・思いやり
- ・敬語の使い方
- ・患者さんとのコミュニケーション技術：話しやすい雰囲気づくり、自然な聞き出し方
- ・患者の不安を主に引き出す練習
- ・患者が住む地域の特徴、特性
- ・患者の視点だけでなく、家族や地域の人々の視点などさまざまな視点
- ・介護・看護の仕事を知るような勉強
- ・ユーモア
- ・発表の有無にこだわらず全員がロールプレイしたほうが良い（2件）
- ・家族からの視点
- ・医療（＝治療）と福祉（＝生活）を分けて考える視点
- ・介護制度や社会福祉士、児童福祉制度など、利用できる公共サービス（政策）のだいたいの知識

【2年】高齢者福祉施設・対象学生数 129 名 実習期間：1 日

* 実習の目的および目標 *

実習目的

高齢者福祉施設等での実習を通じて、利用者（高齢者、障がいを持つ方々）と接する際の基本的マナーや心構え、あるいはその対応の仕方を学び、医学生として行動する。さらに地域で求められている医療福祉施設、そこで働く専門職の役割を理解する。

到達目標

- 1) 利用者を中心に、どのような専門職と関係機関が関わり、連携を行っているのか、多職種連携（IPW）の実際を知る。
- 2) 利用者の日常生活に必要な支援について考えることができる。
- 3) 利用者やスタッフに対して、礼儀正しく良好なコミュニケーションを取ることができる。



実習協力施設（17 施設）	人数
介護老人保健施設 三原の園	5
医療法人 啓正会 トラバース長崎	10
医療法人 友愛会 にしきの里	5
恵の丘長崎原爆ホーム別館	5
介護老人保健施設 ナーシングケア横尾	8
介護老人福祉施設 プライエム横尾	4
介護療養型老人保健施設 恵愛荘	10
介護老人保健施設 恵仁荘	10
特別養護老人ホーム 天恵荘	10
養護老人ホーム 福寿園	5
盲養護老人ホーム 光明荘	3
介護老人保健施設 シンフォニー稲佐の森	10
介護老人保健施設 シンフォニー稲佐の森Ⅱ	10
特別養護老人ホーム 鶴舞苑	5
特別養護老人ホーム 鶴舞苑Ⅱ	10
特別養護老人ホーム 恵珠苑	10
社会福祉法人長崎市障害福祉センター	9

【3年】診療所・対象学生数 105 名 実習期間：1 日

※実習の目的および目標※

実習目的

医療の第一線である診療所で、患者と接する際の基本的マナーや心構え、あるいはその対応の仕方を学び、医学生として行動することができる。さらに地域で求められている医師や看護師等の医療専門職の役割を理解する。(シャドウイング※)

※医学教育におけるシャドウイング (Shadowing)

Shadowing には「人につきっきりで仕事を覚える」という意味があり、診療参加型臨床実習（5 年・6 年生）とは異なり、「見て学ぶ」、「そばにいて学ぶ」ことを主体とする実習である。地域医療の実践の場で学習することは学習意欲を高め、その後に行う診療参加型臨床実習の実質化につながることを期待する。大学では実習開始前の準備教育としてコミュニケーション学習、基本的臨床技能実習も行い、体系的な教育整備を目指す。

到達目標

1) 地域医療を担う医師としてのプロフェッショナリズムの涵養（かんよう）

1. 診療の実際を理解する
2. 地域の医療・保健・福祉の関わりを理解する
3. 地域医療への関心を持つ

2) 診療参加型臨床実習で医療チームの一員となる準備

実習協力施設（36 施設）					
医療法人江上耳鼻咽喉科医院	2	2	ちひろ内科クリニック	1	1
医療法人小島耳鼻咽喉科クリニック	2	3	Mittel たじま内科・消化器科	2	2
医療法人衆和会 長崎腎病院	3	4	おおつる内科医院	1	1
思案橋ツダ眼科	2	2	医療法人秀和会もりハートクリニック	2	2
中西内科	2	2	医療法人康仁会 林医院	1	—
医療法人社団健昌会 新里クリニック浦上	—	4	医療法人白髭内科医院	2	2
松元クリニック	1	1	石丸内科胃腸科医院	2	2
山根内科胃腸科医院	1	1	きのしたこどもクリニック	2	2
わたべクリニック	1	—	医療法人社団昭成会岩永医院	2	—
宮崎内科医院	1	—	医療法人緑風会みどりクリニック	2	2
医療法人恵会 光風台病院	3	—	医療法人衆和会長崎腎クリニック	2	2
医療法人出口外科医院	2	—	諸熊内科医院	—	2
山口整形外科医院	2	—	医療法人しらはま整形外科クリニック	2	2
医療法人さかもとクリニック	1	1	長崎宝在宅医療クリニック	2	2
石川内科クリニック	—	1	産婦人科宮村医院	1	1
医療法人谷川放射線科胃腸科医院	3	3	下田外科医院		
社会医療法人春回会 井上病院	2		ホーム・ホスピス中尾クリニック	2	2
油木坂クリニック	1	1	開生薬局 高田店		

診療雑話

医学部 3 年次「医と社会」地域包括ケア
早期体験学習に携わって

石丸 忠彦

1. はじめに

平成25年度文科省の未来医療研究人材養成拠点形成事業のプログラムに長崎大学が採択された。このプロジェクトの目的は、地域包括ケアを円滑に実践できる人材の育成と、超高齢化時代に対応出来る医師の養成である。地域包括ケアの初代教育センター長に昭和61年卒の永田康浩教授が就任した。米国スローンケタリング癌センターで癌免疫研究に従事しながら、医学教育の重要性を再認識されて帰国した。更に平成14年「臨床研修指導医講習会」(5日間)に参加され、医学教育技能を修得された。現在、教育センター長として、卒業、卒業後の一貫教育プログラムを推進されている。医学部低学年より医療現場を体験する目的で、6月4日、11日に学外実習が行われた。診療所3施設、病院4施設が参加した。

2. 当院での実習目標

筆者も大学病院と関連病院での勤務医時代に、学生教育と研修医の指導に少なからず携わって来た。内科学の講義や、大学を退院後も5、6年生を対象とした臨床講義を担当させられた。以前、「医学教育の為のワークショップ」に参加する機会があった。文部省と厚生省の主催で7日間に亘り行われ、大学病院と研修病院の指導医がそれぞれ20名ずつ

参加した。現在は富士耐ワークショップと呼ばれ、昨年で39回を迎えている。これらの経験を活かして、当院での実習目標を考えた。学生4人より事前に送られて来た実習希望事項と合わせて当院の実習目標を以下のものとした。

- (1) 患者と接する基本的マナーと心構え
- (2) 医師と患者の良好な信頼関係
- (3) 高齢者患者への対応
- (4) 医師とパラメディカルとの連携
- (5) 地域医療における診療所の役割
- (6) 早い時期に患者に触れて (early exposure)、学習意欲を高める。

3. 当院で実施した実習内容

医師一人に対応すると、実習者側に空き時間が生じるので、スタッフ全員で対応する事にした。

(1)受付、医療事務の担当

早めの診察が必要な患者の振り分け（有熟者など）。保険診療、自費診療、一部負担金とは。患者に渡す書類（処方箋、診療費明細書、領収書など）の説明。学生から質問があり、社会保険と国民健康保険の違い、外注検査について説明した。

(2)ナースの担当

問診、バイタルサイン、採血、心電図をとる作業の見学。体験学習としては血圧測

定、検眼、問診をさせた。実習に適切な高齢者患者を選び、最近の身体症状を尋ねさせた。同伴した家族からも聴取させた。

(3)医師の担当

問診、診察と検査結果及び治療法の説明を通じて、患者と医師の良好な人間関係の作り方を示した。高齢者患者の対応は本実習の大きな目的の一つである。高齢者の特徴（一人で多くの疾患を抱えている。ADLの低下。聴覚、理解力の低下等）を理解させ、その対応について説明した。有所見者の診察（甲状腺の触診、腹部の聴診）。エコー（甲状腺、腹部）の供覧。カルテ記載の重要性について説明。

4. 学生の実習報告書（感想）

学生は、医療従事者の行動をよく観察していた。医学用語を適切に使用し、実習当日を思い出させる様な詳細な報告書であった。1400字の長文の感想文もあった。医師は患者を第一に考えて、良い信頼関係を築く事の重要性和高齢者の対応の仕方は印象に残った様だ。コメディカルの重要性、病診連携の必要性も理解出来た様だ。自分の健康に関心のある患者は、検査値の解釈を尋ねていた。「今日の治療薬：南江堂桑行」を購入した患者もいた。医療費が国により詳細に点数化されて

いるのを初めて知った学生もいた。開業医に対する評価が変わった様だ。開業医には風邪や急性胃腸炎等の患者が来院すると思っていた。実際は、糖尿病、高血圧、内分泌疾患等の慢性疾患が多かった。またレントゲン撮影装置、エコー、心電計があったのは意外だった様だ。診療所の役割はかかりつけ医として、専門性をもって地域医療に貢献しているのを実感してもらえた様だ。

5. おわりに

実習を引き受けてくれと、地域包括ケア教育センターの植木助教より依頼の電話がありました。引き受ける診療所が少なくなったとの事。当院はナース一人、医療事務二人（午後一人）とスタッフが少ない診療所です。全員で実習に当たりました。学生の感想文から判断すると学生教育に少しは貢献出来た様です。開業医の地域医療における重要性も理解してもらえた様です。今回で卒業しようと思っていたが、学生の報告書を読み、心境が変わりました。気力と体力があれば、来年も引き受けようと思っています。

最後に、学外実習にまだ参加していない開業医の先生方のご協力をお願いします。

（住吉班・内科）

診療雑話

定、検眼、問診をさせた。実習に適切な高齢者患者を選び、最近の身体症状を尋ねさせた。同伴した家族からも聴取させた。

(3)医師の担当

問診、診察と検査結果及び治療法の説明を通じて、患者と医師の良好な人間関係の作り方を示した。高齢者患者の対応は本実習の大きな目的の一つである。高齢者の特徴（一人で多くの疾患を抱えている。ADLの低下。聴覚、理解力の低下等）を理解させ、その対応について説明した。有所見者の診察（甲状腺の触診、腹部の聴診）。エコー（甲状腺、腹部）の供覧。カルテ記載の重要性について説明。

4. 学生の実習報告書（感想）

学生は、医療従事者の行動をよく観察していた。医学用語を適切に使用し、実習当日を思い出させる様な詳細な報告書であった。1400字の長文の感想文もあった。医師は患者を第一に考えて、良い信頼関係を築く事の重要性和高齢者の対応の仕方は印象に残った様だ。コメディカルの重要性、病診連携の必要性も理解出来た様だ。自分の健康に関心のある患者は、検査値の解釈を尋ねていた。「今日の治療薬：南江堂桑行」を購入した患者もいた。医療費が国により詳細に点数化されて

いるのを初めて知った学生もいた。開業医に対する評価が変わった様だ。開業医には風邪や急性胃腸炎等の患者が来院すると思っていた。実際は、糖尿病、高血圧、内分泌疾患等の慢性疾患が多かった。またレントゲン撮影装置、エコー、心電計があったのは意外だった様だ。診療所の役割はかかりつけ医として、専門性をもって地域医療に貢献しているのを実感してもらえた様だ。

5. おわりに

実習を引き受けてくれと、地域包括ケア教育センターの植木助教より依頼の電話がありました。引き受ける診療所が少なくなったとの事。当院はナース一人、医療事務二人（午後一人）とスタッフが少ない診療所です。全員で実習に当たりました。学生の感想文から判断すると学生教育に少しは貢献出来た様です。開業医の地域医療における重要性も理解してもらえた様です。今回で卒業しようと思っていたが、学生の報告書を読み、心境が変わりました。気力と体力があれば、来年も引き受けようと思っています。

最後に、学外実習にまだ参加していない開業医の先生方のご協力をお願いします。

（住吉班・内科）

医師会報に掲載された石丸内科医院 石丸 忠彦院長による当センターの実習に関する論文

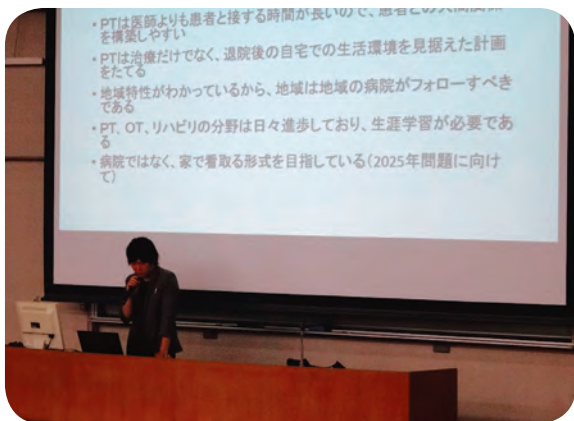
振り返り学習

【1年】実習施設ごとにグループで学んだことを話し合い、発表を行った。



話し合ったことをパワーポイントで作成

発表スライド



発表・質疑応答

実習を通して感じたこと、学んだこと

- ・病気を治療するだけでなく、患者さんを日常生活に復帰させるまでが病院側の責任であること。
- ・実習家に帰るにあたって、患者さん本人、その家族、病院側の要望の折り合いが難しい。
- ・マニュアルに沿ったリハビリテーションではなく、患者さん1人1人に合わせたものを行っている。
- ・高齢の入院患者さんのリハビリにおいて、入院前の生活状態に近づけることが大切であること。

多職種連携について

- ・院内
地域連携室<医師、看護師、SW(ソーシャルワーカー)>
転院・退院調整、各種制度の案内など
退院前の住環境調査<SW、PT、OT+医師、役所>
- ・院外
病院⇄診療(病診連携)
患者の情報共有(あじさいネット)



まとめ

【2年】実習で学んだことをグループごとにテーマ別にまとめてポスターを作成し、発表した。

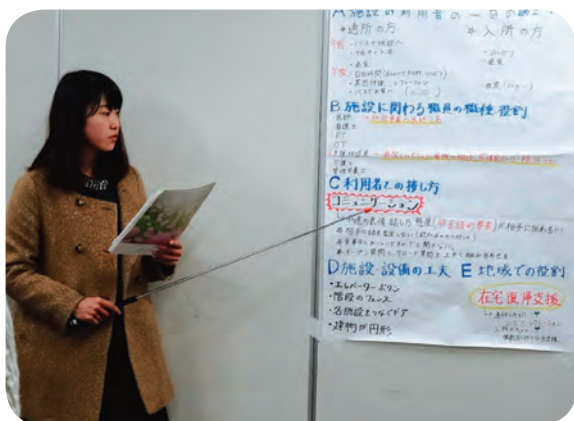
《テーマ》『利用者の1日の過ごし方・気持ち（生の意見）』

『施設に関わる職員の職種と役割』

『利用者との接し方（ケア・コミュニケーション）の工夫』

『施設・設備の工夫』

『地域での施設の役割（具体的な支援）』



【3年】『実習で訪れた診療所の良かったところ』をテーマにKJ法を用いたグループディスカッションを行いポスターを作成し、発表した。



ポスター作成



班の代表2名によるポスター発表



発表者以外の聴衆者から採点シールを貼ってもらう。

評価が高かったポスター 4 作品（テーマ別）



「建物・施設・システム」について



「スタッフ・多職種連携」について



「患者さんとの関係」について



「病院・診療所の医師」について

模擬カンファレンス（4年）

リハビリテーション施設・高齢者施設、診療所実習を経験している4年生に対しては、実際に退院後（在宅）支援が必要な3症例を提示し、模擬カンファレンスを行った。また発表後は専門職者（長崎市医師会保健福祉センター次長、保健学科教授）によるアドバイスを頂いた。

症例	入院時現症	画像検査所見	臨床	治療経過
患者：80歳、男性 主訴：右大腿部疼痛 既往歴：2型糖尿病、慢性腎臓病 現病歴：20年前より2型糖尿病が放置していたが、性粉瘤に罹患し、高血糖を指摘されたため入院	身体所見：意識清明、身長165cm、BMI21.4kg/m ² 、血圧HR73回/分、不整脈なし、貧血なし、黄疸なし、呼吸音異常なし、四肢筋力低下なし 認知機能低下あり 血液検査所見：WBC 6400/μl、CRP(空腹時)1.45mg/dl、HbA1c10.7%、尿酸値4.2mg/dl	右頭頂後頭葉に陳旧性びまん性脳萎縮。海馬・海馬傍回に強い萎縮。	#1. アルツハイマー型認知症 #2. 2型糖尿病 #3. 糖尿病腎症3期 #4. 慢性心房細動 #5. 右大腿部感染性粉瘤	#1. アルツハイマー型認知症 入院時より見当識障害・記憶力低下を認め、長谷川式簡易知能評価スケール(HDS-R)12点で認知機能低下を認めていた。頭部MRIにて陳旧性脳梗塞・海馬萎縮を認めアルツハイマー型認知症と診断。アリセプト内服を開始した。 #2. 2型糖尿病 糖毒性解除目的に強化インスリン療法を導入。その後、尿中CPR等の検査結果よりインスリン分泌が著明に低下していることが判明。BOT療法(基礎インスリン+経口血糖降下薬内服)により血糖コントロール良好となる。 #5. 感染性粉瘤 血糖コントロールおよび抗生剤内服加療にて改善。



専門職者によるアドバイス

実習の評価と感想

■授業前後での多職種への理解度■ (掲載学年 1・3 年生／実施学年 1～4 年生)

■施設実習の感想■ (掲載学年 2・3 年生／実施学年 1～3 年生)

■診療実技実習（診療の心得）に対する意識調査■
(掲載学年 1・3 年生／実施学年 1～4 年生)

診療の心得実習後の感想レポート（抜粋） (掲載学年・実施学年 1～3 年生)

今後「診療の心得」「地域包括ケアシステムについて」学びたいこと
(2 年生)

1
ごあいさつ

2
事業概要

3
実施計画書

4
教育

5
研究

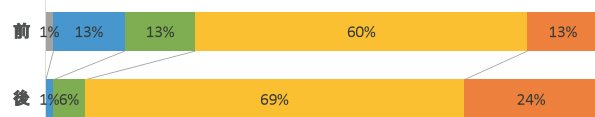
6
行事

7
その他

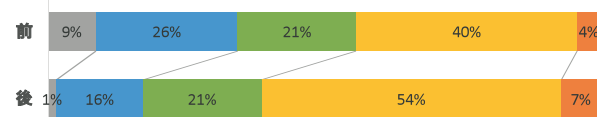
■授業前後での多職種への理解度変化■

(1年生)

Q1. 医師の役割について



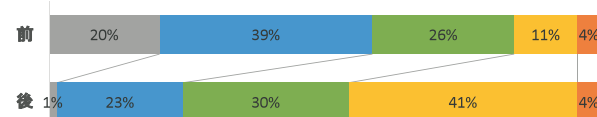
Q7. 介護福祉士の役割について



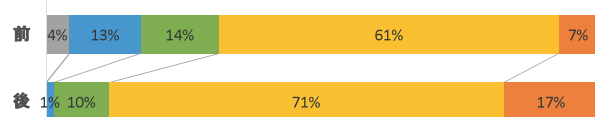
Q2. 歯科医師の役割について



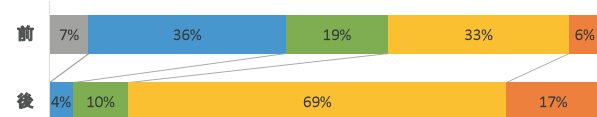
Q8. 社会福祉士の役割について



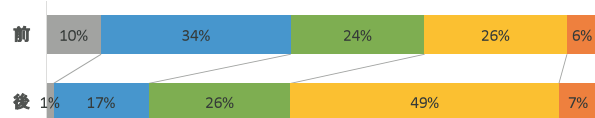
Q3. 看護師の役割について



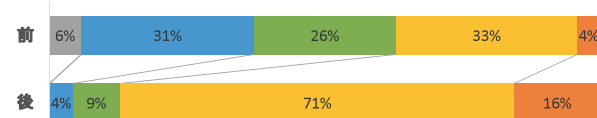
Q9. 理学療法士 (PT) の役割について



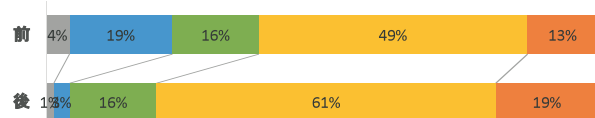
Q4. 保健師の役割について



Q10. 作業療法士 (OT) の役割について



Q5. 薬剤師の役割について



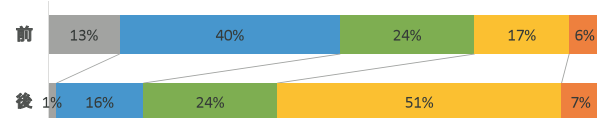
Q11. 言語聴覚士 (ST) の役割について



Q6. 栄養士の役割について



Q12. 介護支援専門員の役割について



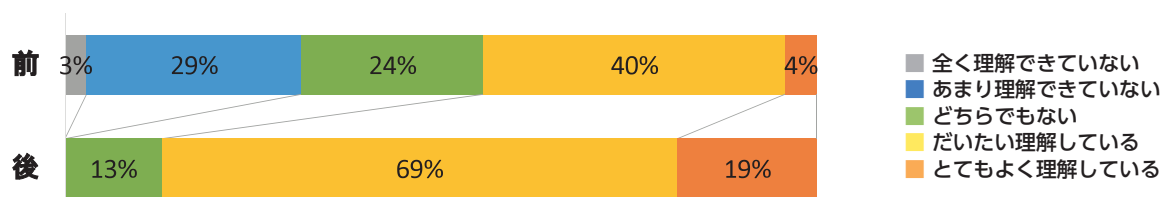
N=121、有効回答率 58%(70 名)

■ 全く理解できていない ■ あまり理解できていない ■ どちらでもない ■ だいたい理解している ■ とてもよく理解している

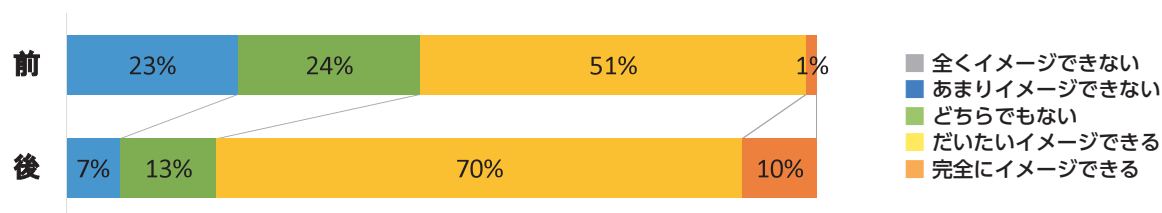
- 授業前アンケートでは医師・歯科医師・看護師・薬剤師・栄養士に関しては理解していると感じている学生が過半数であった。一方、それ以外の職種の役割に関して、半数以上の学生が理解しているとは言い難いという結果であった。
- 実習および授業後に行ったアンケートでは全職種〔医師・歯科医師・看護師・保健師・薬剤師・栄養士・介護福祉士・社会福祉士・理学療法士 (PT)・作業療法士 (OT)・言語聴覚士・ケアマネジャー〕の役割理解が向上していた。
- 授業 (リハビリ施設実習) 後、PT・OT への理解度が特に深まっていた (PT39⇒86%、OT37⇒87%)。一方、社会福祉士に関しては、授業後も理解していると回答した学生が少なかった。次年度以降の施設実習や講義で理解を深めていく。

■リハビリテーション施設の位置づけの理解について■

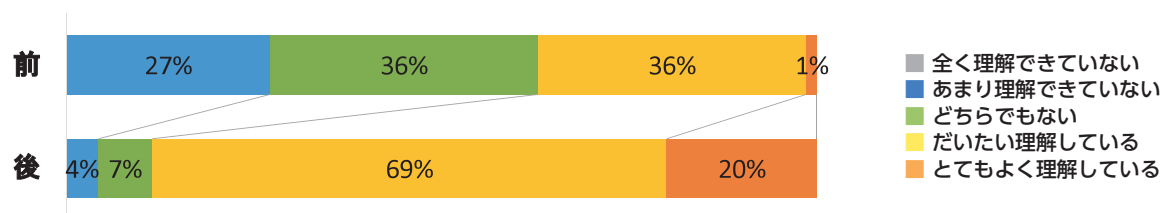
N=121、有効回答率 58% (70 名)



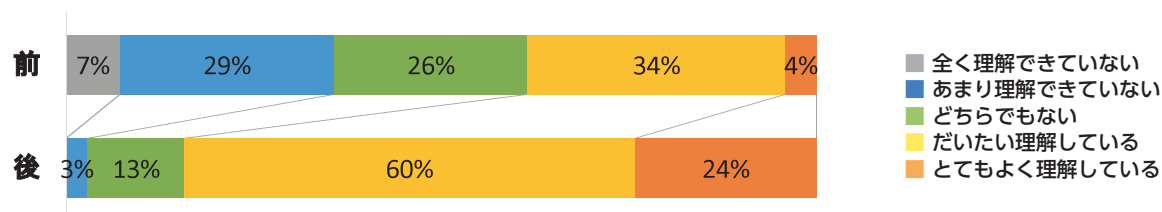
■高齢者の生活についてどのくらいイメージできるか■



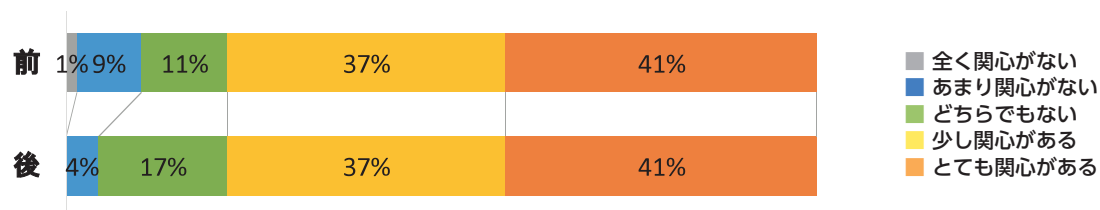
■患者の日常生活に必要な支援についての理解■



■多職種連携 (IPW) への理解について■



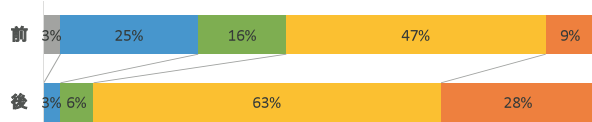
■地域医療への関心の有無■



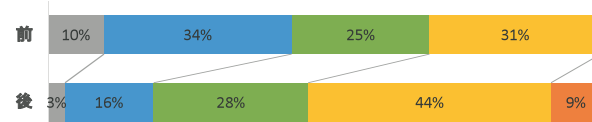
- ・授業・体験学習（リハビリ施設での実習）後、高齢者の日常生活や具体的な支援についてイメージができる学生が増えた。
- ・各職種への理解が深まったと共に、授業・体験学習（リハビリ施設での実習）後に多職種連携への理解が深まったと感じた学生が倍以上に増加した。(34 ⇒ 84%)
- ・地域医療への関心は授業前から高く、80% 近くあった。

(3年生)

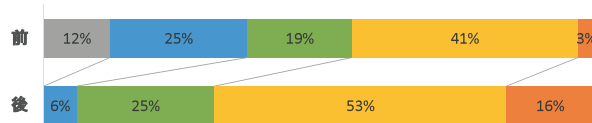
Q1. 医師の役割について



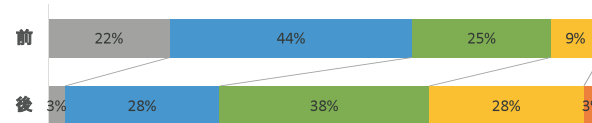
Q7. 介護福祉士の役割について



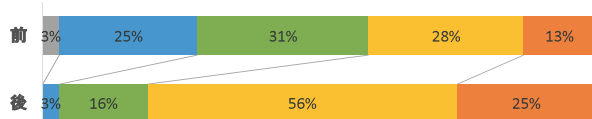
Q2. 歯科医師の役割について



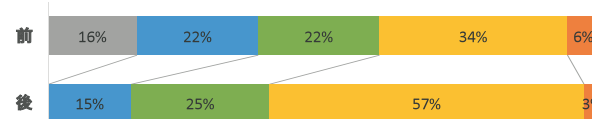
Q8. 社会福祉士の役割について



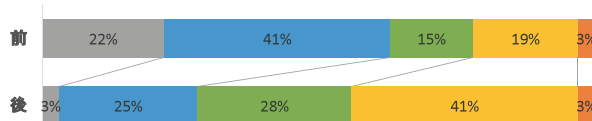
Q3. 看護師の役割について



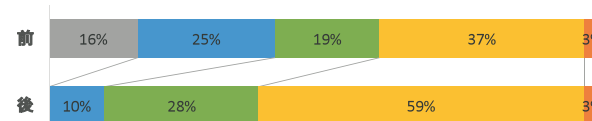
Q9. 理学療法士 (PT) の役割について



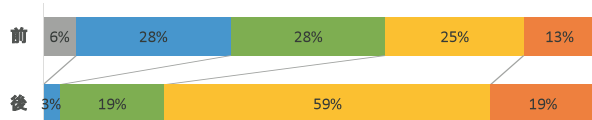
Q4. 保健師の役割について



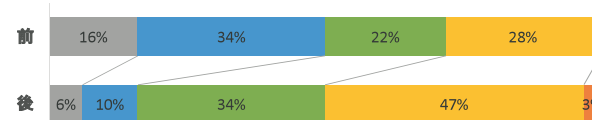
Q10. 作業療法士 (OT) の役割について



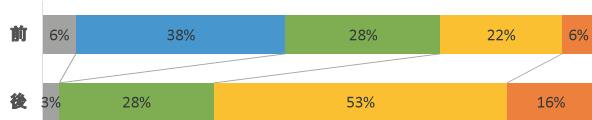
Q5. 薬剤師の役割について



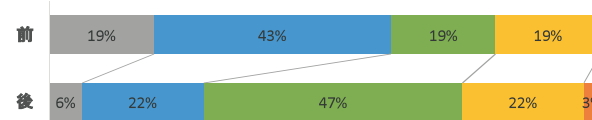
Q11. 言語聴覚士 (ST) の役割について



Q6. 栄養士の役割について



Q12. 介護支援専門員の役割について



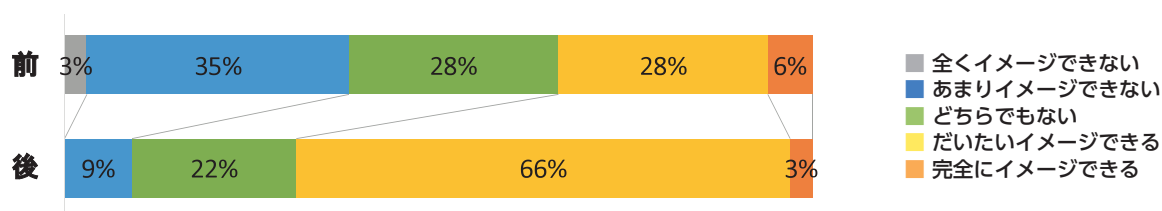
N=105、有効回答率 30%(32 名)

■ 全く理解できていない ■ あまり理解できていない ■ どちらでもない ■ だいたい理解している ■ とてもよく理解している

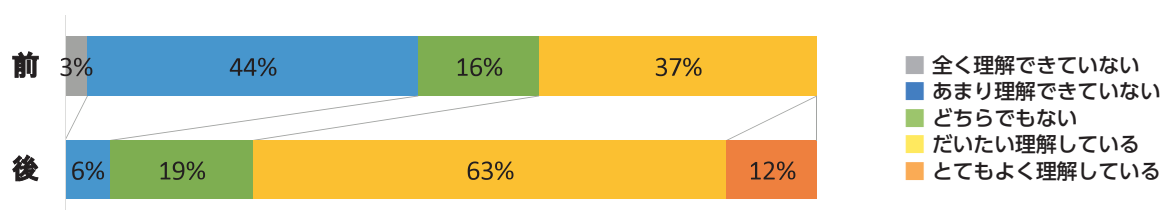
- ・授業前アンケートでは医師以外の職種の役割に関して、半数以上の学生が理解しているとは言い難い。(1年生よりも各職種への自分自身の理解度に不安を持っている学生が多い印象であった)
- ・実習および授業後に行ったアンケートでは全職種【医師・歯科医師・看護師・保健師・薬剤師・栄養士・介護福祉士・社会福祉士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・ケアマネージャー】の役割理解が向上していた。
- ・保健師・社会福祉士・言語聴覚士・ケアマネージャーに関しては、授業後も理解していると回答した学生が半数未満であったため、次年度以降に理解を深められるよう授業・実習の工夫をしたい。

■高齢者の生活についてどのくらいイメージできるか■

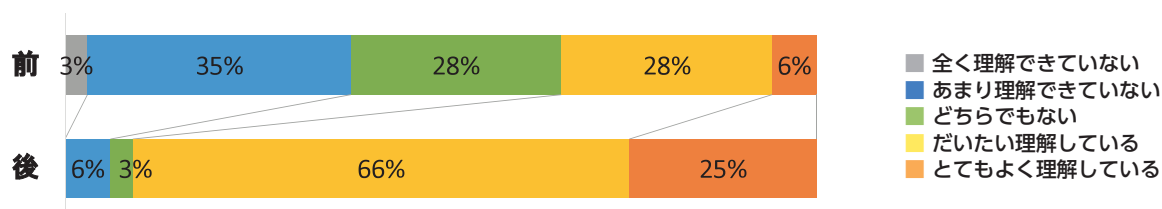
N=105、有効回答率 30% (32 名)



■患者の日常生活に必要な支援についての理解■



■多職種連携（IPW）の実際について■



■地域医療への関心の有無■

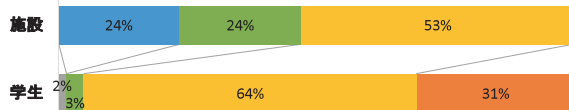


- ・授業前アンケートでは患者の日常生活や高齢者への具体的なイメージができていない学生が過半数であった。
- ・体験学習（診療所実習）やロールプレイ学習を行うことで、高齢者の生活をイメージできる学生が増加した。また、日常生活に必要な支援についての理解も深まった。
- ・実習・授業後に各職種への理解が深まったと共に、多職種連携の実際についても、理解が深まった学生が多数であった。

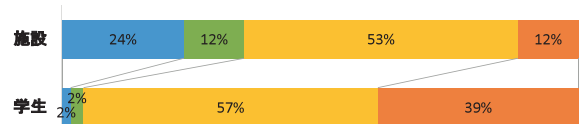
■施設実習の感想■

(2年生：高齢者福祉施設 VS 学生)

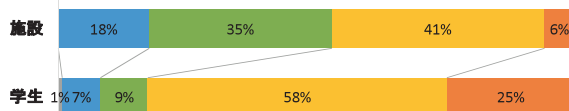
1. 地域の社会資源としての実習施設の位置づけと役割を理解することができた。



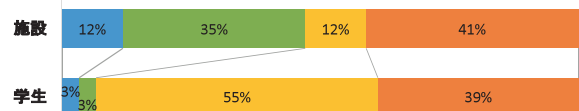
8. 適切な接遇、服装、身だしなみができた。



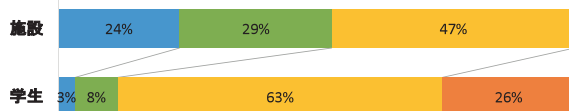
2. 今回の実習で他職種連携（IPW）の実際を知ることができた。



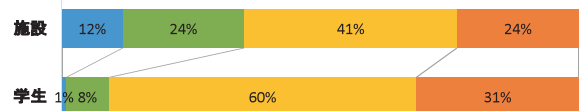
9. 規律正しく行動できた（時間や規則の厳守）。



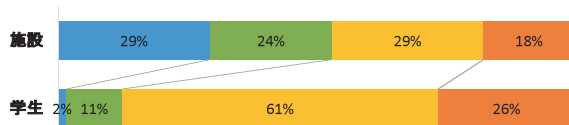
3. 地域の医療・保健・福祉と、医療専門職の役割を理解することができた。



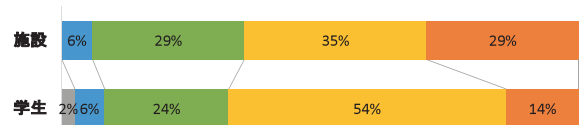
10. 利用者やスタッフに対し良好なコミュニケーションを取ることができた。



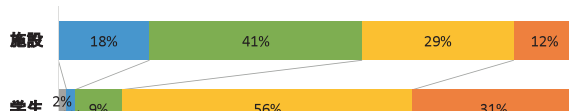
4. 医学生としての真摯な態度、行動をとることができた。



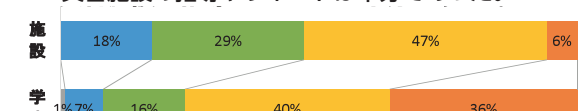
11. 大学のオリエンテーションやサポートは十分であった。



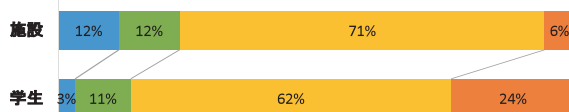
5. 地域医療・保健・福祉に関心を持つことができた。



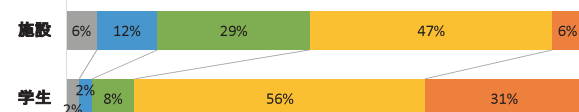
12. 施設の指導やサポートは十分できた。
実習施設の指導やサポートは十分であった。



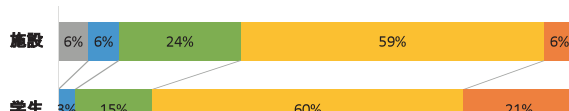
6. 不明な点や疑問点についてその場で質問したり、調べたりして解決できた。



13. 今回の実習に満足している。



7. 自主的に学習（実習）を行うことができた。



実習施設 N= 17、有効回答率 100%

学 生 N=121、有効回答率 100%

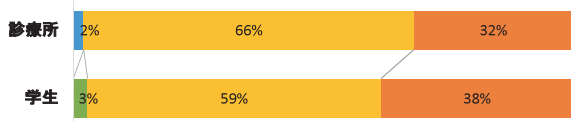
■ 全く思わない ■ 思わない ■ どちらでもない ■ 思う ■ かなり思う

- ・実習先より学生の態度に対する指摘が多かった。そのため、今後はオリエンテーションでの指導を強化していく。
- ・学生、実習先の両者から実習内容に関する戸惑いの声が聞かれた。実習前の施設と大学の打ち合わせ強化の必要性を感じた。
- ・学生の自己評価は高かった。学生から「実習施設、プログラムの充実を図ってほしい。」「各種スタッフの仕事内容を実際に見たい」等の要望があった。
- ・施設と学生の評価に乖離がみられた。今後、施設および学生両者の意見を取り入れ施設実習の充実および学習目標（到達目標）を学生が遂行できるようサポートしていく。

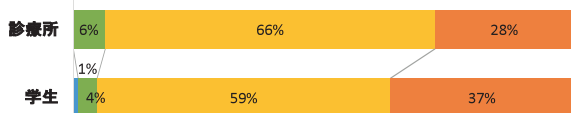
(3年生：診療所 VS 学生)

診療所：N=61、有効回答率87% (延べ47施設) 学 生：N=104、有効回答率100%

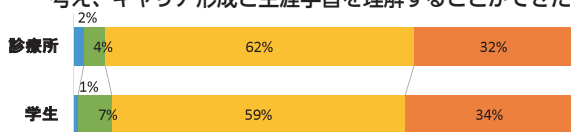
1. 診療所の実際に体験すると共に診療所の位置づけと役割を理解できた。



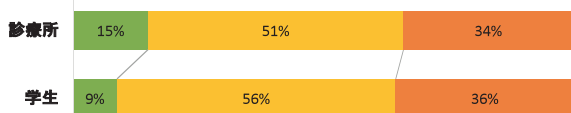
2. 患者の訴えや希望に対する医療専門職の対応を理解できた。



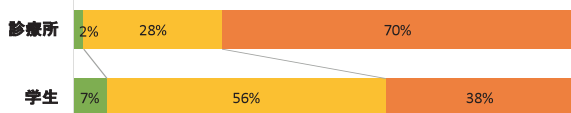
3. ロールモデルとなる診療所の医師と接し、医師の在り方を考え、キャリア形成と生涯学習を理解することができた。



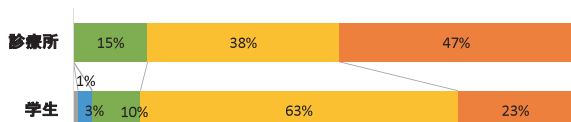
4. 地域の医療・保健・福祉と医療専門職の役割を理解することができた。



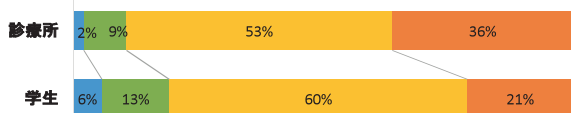
5. 医療現場で医学生としての真摯な態度、行動をとることができた。



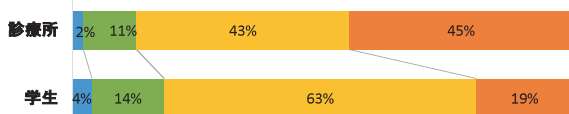
6. 地域医療へ関心を持つことができた。



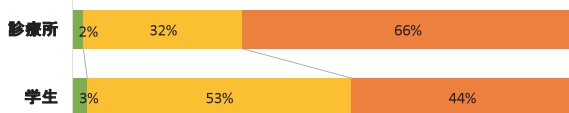
7. 不明な点や疑問点についてその場で質問したり、調べたりして解決できた。



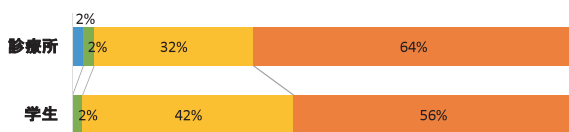
8. 自主的に学習（実習）を行うことができた。



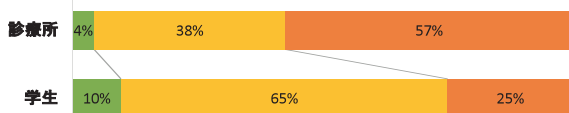
9. 適切な接遇、服装、身だしなみができた。



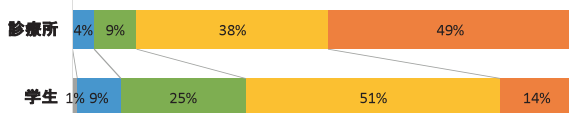
10. 規律正しく行動できた（時間や規則の厳守）。



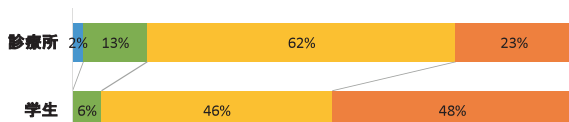
11. 患者やスタッフに対し、良好なコミュニケーションを取ることができた。



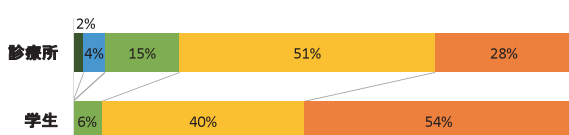
12. 大学のオリエンテーションやサポートは十分であった。



13. 実習施設の指導やサポートは十分であった。



14. 今回の実習に満足している。



■ 無回答 ■ 全く思わない ■ 思わない ■ どちらでもない ■ 思う ■ かなり思う

全質問項目において、診療所（実習先）・学生の両者とも評価は高いといえる。

診療所からの評価の方が、学生の自己評価より高いことに関しては、少人数で実習を行っていることや、地域医療の実践の場で医師と接することにより医学生としての意識が高くなったためだと考えられる。

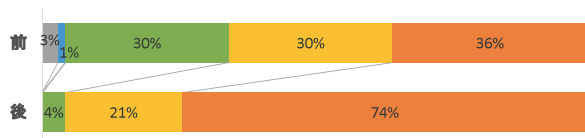
【学生からの感想】

- ・長崎においての往診の大切さを感じることができた。
- ・これまでの医と社会で学んだことをフルに生かして患者さんとお話した。足りないこともあったが、自分なりにうまくいったと思う。今までコミュニケーション能力が大事と言っていたが本当に大事であると身をもって痛感した。
- ・診療所の役割は地域によって異なり、医師もその役割に合わせて多職種と協力していかなければならないということを知り、地域医療というものに意識した。
- ・高齢者が増えると在宅医療を行う人が増えてくるが、単純に医師を増やせばいいのではなく、在宅医療の違いをきちんと理解し、多職種連携や病院機関との橋渡しを充実させていくなど、まだまだ課題が多いように感じた。
- ・血圧測定を行って、実際の患者に行うのと学生同士で行うのでは、緊張感や異常の可能性があることなど、かなり印象が違った。確実な検査手技を獲得していくことを今後の目標にしたい。

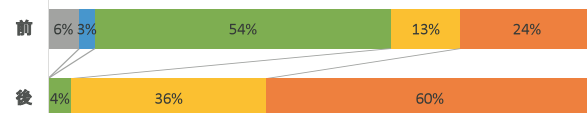
■診療実技実習（診療の心得）に対する意識調査■

（1年生）

超音波エコーを習得する必要性をどれくらい感じますか？



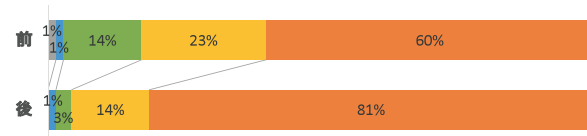
パルスオキシメーターを授業で使用する必要性をどれくらい感じますか？



血圧測定法を習得する必要性をどれくらい感じますか？



心電図実習の必要性をどれくらい感じますか？



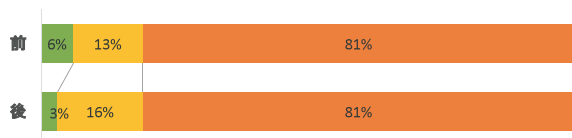
N=121、有効回答率 58%(70 名)

■ 全く必要ない ■ あまり必要ない ■ どちらでもない ■ ある程度必要である ■ とても必要である

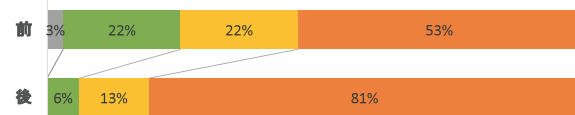
- ・超音波・血圧測定・心電図実習に関しては実習前から学習の必要性を感じている学生が過半数以上であった。
- ・授業〔学内外実習〕後、全ての active learning・診療の基礎技術習得の必要性が学生達に高まった。
- ・特に超音波と心電図に関しては、実習後に『とても必要である』と回答した学生が増加した。

（3年生）

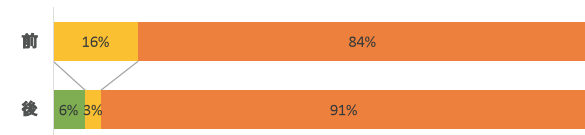
超音波エコーを習得する必要性をどれくらい感じますか？



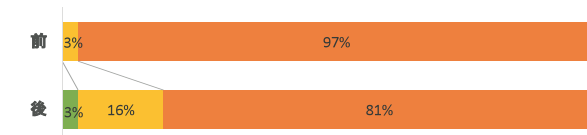
パルスオキシメーターを授業で使用する必要性をどれくらい感じますか？



血圧測定法を習得する必要性をどれくらい感じますか？



心電図実習の必要性をどれくらい感じますか？



N=105、有効回答率 30%(32 名)

■ 全く必要ない ■ あまり必要ない ■ どちらでもない ■ ある程度必要である ■ とても必要である

- ・実習前から上記学習の必要性を感じている学生が過半数以上であった。
- ・授業後、全ての active learning・診療の基礎技術習得の必要性が学生達に高まった。
- ・3年生に関しては授業前後のアンケートに回答した学生が 30% と回収率が低いいため今後アンケート等の取り方に関して工夫が必要である。

診療の心得実習後の感想・レポートより（抜粋）

■ 1年生

【超音波検査】

- 早期からこのような経験ができてとてもよかった。
- 初めて医療器具を用いた実習だったので、すごく楽しかった。
- 早く人体のリアルな動きを見てみたい。

【心電図】

- 今回は他の検査より心電図が一番印象に残って面白い授業だった。
- 医師だけでなく、看護師もできなければならない検査を、この時期に経験でき、何よりもモチベーションが上がった。

【血圧測定】

- 聴診器をつけてみると医者になった気分がした。
- 思っていたより難しかった。バイタルサインは医療の基本だと思うので、実際に体験できてよかった。

【お年寄り体験スーツ】

- 実習で高齢者と接する前に、体験出来てよかった。今回の感覚を思い出して丁寧な対応を心がけたい。
- トイレの手すりなど、バリアフリーの重要性がわかった。

■ 2年生

【超音波検査】

- 超音波検査は、2年前期の生理学の実習で一度体験していましたが、今回のようにじっくりと時間をかけて臓器を見ることはなかったので、よい経験となった。
- 少人数での実習であり、また先生も聞きやすい雰囲気を作ってくださったので、疑問に感じたことをその場で聞きやすく、また実際に医療現場で検査に慣れている先生が教えてくださったので、とてもわかりやすく満足することができました。
- 今回の超音波検査では、循環器についての興味もすごくわいたし、臓器の解剖学的なことももう少し勉強しないといけないと思った。
- 普段は教科書の写真でしか学べないので、もっとこういった実習を通して学ぶ機会がほしいと思いました。

【血圧測定】

- 私はこの実習をこの時期にできて本当に良かったと思っています。なぜならば、まだ基礎医学をやっている自分は、臨床で実際に使用されているのを見たり、体験したりする機会があまりなかったからです。
- 生理学実習で血圧測定を行っていた為スムーズに行うことができました。今回は実際に患者さんに対して行うことを意識して声掛けや聴診器を温めるなど、患者さんがリラックスできるように工夫ができました。

【お年寄り体験スーツ・車椅子】

- 普段の生活では自分たちは何不自由なくできている当たり前のことが高齢者の方々にとっては苦勞するものなんだと身をもって体験できたのがよかった。
- 身につける前は、体験スーツにすぎないから、あまりかわらないだろうと高をくくっていましたが、実際はかなりきつくて階段ののぼりおりも、介助者の存在をかなりありがたく思いました。車椅子の体験も想像以上に力が必要で、コツがいることが分かりました。福祉関係者の苦勞をおもんばかれる医者になりたいです。
- 是非一度あのスーツで長崎の住宅地のよくある坂を歩いてみたいと思った。
- 車椅子の体験が、自分にとっては新鮮なものでした。車椅子に乗っている人の気持ち、見ていられるであろう景色などを想像して、介助するということの重要性について、今回体験して良く学ばせてもらったと思います。

■3年生

【超音波検査】

- 以前、頸部と心臓をエコーで見せて頂いたことがあったが腹部を見せて頂いたのは初めてだった。エコーを理解するためには解剖学をしっかりと頭に入れておくことが必要だと再認識した。
- エコー像に対する興味と関心が高まったので、とてもためになる講義だった。心エコーを次はやってみたい。
- エコーはよく分からないというイメージだったけれど、面白い、勉強頑張ろうと思えた。
- テキストで見るよりも実感的に学習できたと思う。
- 解剖実習の復習にもなって楽しかったです。
- このような実習は極めて重要であると思った。

【心電図】

- 今までの心電図は記録されたものを見て判断していたが、今回の実習でどのように測定するのかを実際に確認することでより心電図がどのようなものなのかを理解することにつながったと感じた。
- 循環器を勉強するやる気が出た。

【血圧測定】

- 生理の実習でもしていたので、復習という感じであった。先週の病院実習においても、実際に患者さんの血圧を測らせていただいたが、うまく測定できず悔しい思いをした。この知識を忘れないためにも家に帰って復習していきたいと思います。

【お年寄り体験スーツ】

- 昨年の医と社会の実習の一つで、同じ班の人がお年寄り体験スーツを着る機会があったが、その時はまったく興味がなかった。しかし、実際に着てみてお年寄りの立場になってみると、普段はなんとも思わない階段や、坂などが急にきつく感じられた。
- 介助する側の体験は、ただ力まかせにするのではなくて、それぞれの動作にコツがあることを学んだ。

今後「診療の心得」「地域包括ケアシステム」について 学びたいこと（2年生）

【診療の心得について】

- 応急処置の仕方や、聴診、CT、MRI など他の診断方法とその結果の見方を学びたい。
- コミュニケーションの技術や基本的な言葉遣いを学びたい。
- 多職種連携のため、保健学科や薬学部・歯学部とも一緒に実習をしたい。

【地域包括ケアシステムについて】

- 様々な施設を見てみたい。児童養護施設や障害者支援施設等。
- 長崎以外の場所の地域包括ケアや海外の地域包括ケアについても知りたい。
- 医療者は地域住民のニーズをどのように聞き出していくべきか。地域包括ケアシステムの中での医師の役割とは。
- 学生のうちに現場の方と関わる機会を持ち、多職種間連携のための具体的な工夫を学びたい。

3. NICE キャンパス長崎（共修科目）

長崎大学と長崎純心大学が連携し、**共修科目**である NICE キャンパス長崎の科目を 15 コマ設定。学生時よりキャリアデザインについて他職種学生と共に学ぶことにより、互いをよく理解し、尊重できる専門職、職種を越えて価値観を共有できる人材の育成を目指す。

科 目 名	「地域から世界へ輝く女性たちとそのサポート」 今、地域・世界の最前線の現場で活躍する先輩方を中心に、多方面からの講義を聞き、Vision をもつ大切さ・キャリアデザイン・ワークライフバランスについて考える講義。
開講場所	長崎大学薬学部
開講期間	平成 26 年 4 月 9 日～平成 26 年 7 月 16 日
開講時間	16:30 ～ 18:00 毎週水曜
対象学年	1 年次以上
単 位	2 単位

受講生

	学部・学科	人数
〈長崎大学〉	薬学部・薬科学科 2 年	1 名
	医学部・医学科 1 年	13 名
	歯学部・歯学科 1 年	1 名
	教育学部・小学校教育コース 1 年	4 名
	環境科学部・環境科学科 1 年	2 名
	多文化社会学部・多文化社会学科 1 年	1 名
	小 計	22 名
〈長崎純心大学〉	人文学部・現代福祉学科 4 年	9 名
	人文学部・現代福祉学科 3 年	9 名
	人文学部・人間心理学科 3 年	2 名
	人文学部・人間心理学科 2 年	6 名
	小 計	26 名
	合 計	48 名

〈カリキュラム〉

4/ 9	「地域」「女性」そして「輝き」について —プロローグ—	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授
4/16	調査研究を通じた地域社会とのつながり	林田 直美	長崎大学原爆後障害医療研究所 講師
4/23	ワークライフバランスが築く働く人の未来	伊東 昌子	長崎大学病院メディカル・ワークライ フバランスセンター センター長
4/30	プロとして海外医療援助活動へ参加する意味とは	黒崎 伸子	特定非営利活動法人国境なき医師団 日本 会長
5/ 7	人のいのちを繋ぐこと～臓器移植って何だろう～	竹田 昭子	長崎県臓器移植コーディネーター
5/14	「カエルの星」をめざして～我が家編～	南 恵樹	長崎みなとメディカルセンター 市民病院 外科医
5/21	発達障害児の理解と対応～マスコミ報道との闘い～	川原ゆかり	長崎短期大学 保育学科 教授
5/28	“男も女も自分らしく生きる” ～男女共同参画社会の実現に向けて～	梅津 圭子	長崎県男女共同参画推進センター長
6/ 4	キャリア・プランをデザインしよう ～崩壊した終身雇用制度Ⅰ～	浜 民夫	一般社団法人若者自立支援長崎 ネットワーク代表理事
6/11	キャリア・プランをデザインしよう ～崩壊した終身雇用制度Ⅱ～	浜 民夫	一般社団法人若者自立支援長崎 ネットワーク代表理事
6/18	看護師におけるキャリアアップ～男性看護師編～	原 健太郎 本田 和也	長崎医療センター 看護部
6/25	女性医師のキャリアアッププランの提案	安日 一郎	長崎医療センター 産婦人科 部長
7/ 2	魅力あるキャリアデザインを描くために ～介護福祉士編～	中道 聖子	社会福祉法人日輪会特別養護老人 ホームかたふち村 アドバイザー
7/ 9	魅力あるキャリアデザインを描くために ～医療ソーシャルワーカー編～	宮川 江利	長崎みなとメディカルセンター 市民病院 ソーシャルワーカー
7/16	総合討論—エピローグ—	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 教授

「NICEキャンパス長崎」は、平成13年度からスタートした単位
互換制度で長崎県内全ての大学、短期大学及び高等専門学校が参加。

「NICE」の名称は、Nagasaki Intercollegiate (大学間) Credit (単
位) Exchange (互換) の頭文字。

単位互換制度は、各大学等が提供している授業科目（コーディネ
ート科目、教養科目、専門科目）の中から、希望する科目を履修
し、科目開設大学で単位を修得すれば所属大学の単位として認定さ
れる制度である。



〈受講生の感想〉

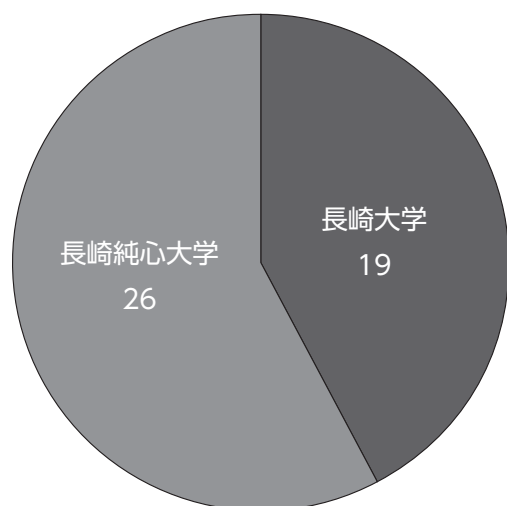
一部抜粋

- この講義を通して自分の将来についてより現実的に考えるようになった。(医学部 1 年)
- 15 回講義を受けて自分の視野がすごく広がったと思う。これを今後の進路選択に役立てたい。(環境科学部 1 年)
- 様々な先生の職種、体験、ライフスタイルについて聞くことができ、将来のワークライフバランスについて考える参考になった。(現代福祉学科 3 年)
- 他大学、他学部の人とディスカッションする時間があり有意義だったし、刺激を受けた。(医学部 1 年)
- 普段知ることのできない知識（医療や移植、キャリアデザインなど）を得ることができとても良い経験になった。(教育学部 1 年)
- 15 回の講義を通し、将来に対して自分がどのように考えているのか再確認することができた。(人間心理学科 2 年)



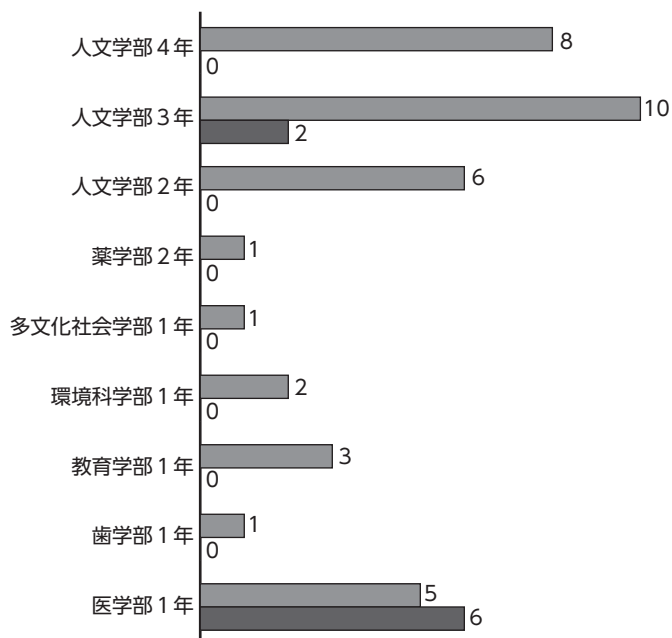
(受講前) NICE キャンパス長崎受講生アンケート

受講生内訳 (n = 45)



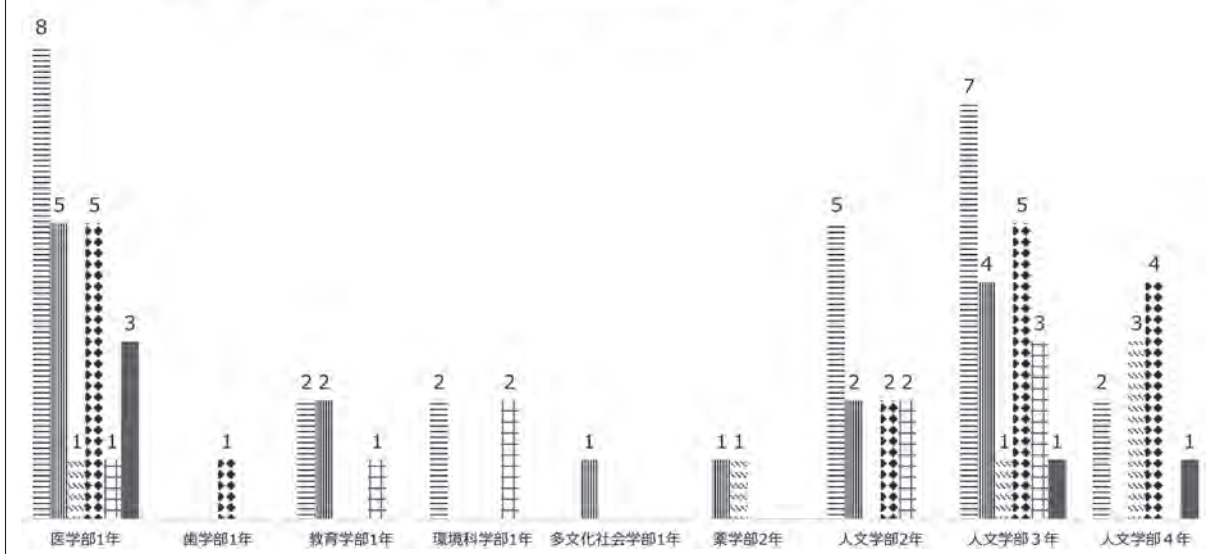
学部・学年別男女比

■ 女性 ■ 男性



この講義を受講しようと思ったきっかけは？ (複数回答)

＝ タイトルがおもしろそうだったから ■ visionについて考えてみたかった ≡ 興味をひく講師がいたから
 ≡ 地域医療に興味があったから H 単位がとりやすそうだったから ■ その他



意識調査 (n=45)

将来の目標や vision を持っていますか？	ワークライフバランスという言葉を知っていますか？
■ いいえ ■ はい 人文学部 4年 1 7 人文学部 3年 3 9 人文学部 2年 3 3 薬学部 2年 0 1 多文化社会学部 1年 0 1 環境科学部 1年 0 2 教育学部 1年 0 3 歯学部 1年 0 1 医学部 1年 1 10	■ いいえ ■ はい 人文学部 4年 1 7 人文学部 3年 4 8 人文学部 2年 4 2 薬学部 2年 1 0 多文化社会学部 1年 1 0 環境科学部 1年 2 0 教育学部 1年 0 3 歯学部 1年 1 0 医学部 1年 6 5
将来こんな人になりたい、と思いつける人物や理想はありますか？	将来のワークライフバランス (仕事と家庭の両立) について考えたことがありますか？
■ いいえ ■ はい 人文学部 4年 3 5 人文学部 3年 1 11 人文学部 2年 3 3 薬学部 2年 1 0 多文化社会学部 1年 1 0 環境科学部 1年 0 2 教育学部 1年 0 3 歯学部 1年 0 1 医学部 1年 2 9	■ いいえ ■ はい 人文学部 4年 2 6 人文学部 3年 2 10 人文学部 2年 2 4 薬学部 2年 1 0 多文化社会学部 1年 1 0 環境科学部 1年 2 0 教育学部 1年 1 2 歯学部 1年 0 1 医学部 1年 4 7

1
ごあいさつ

2
事業概要

3
実施計画書

4
教育

5
研究

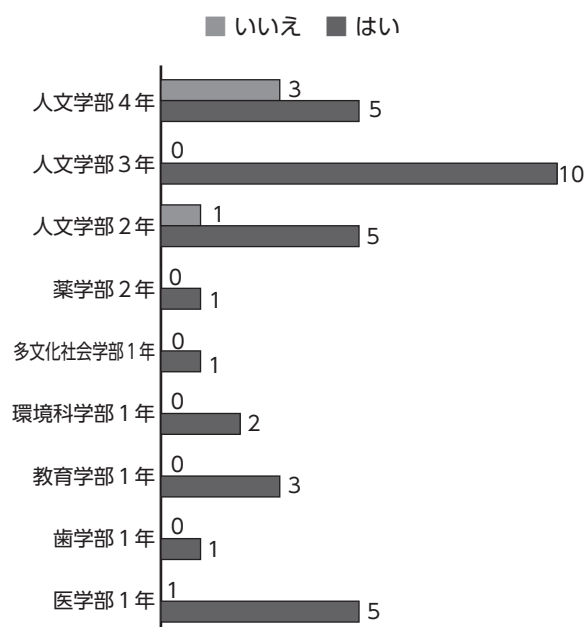
6
行事

7
その他

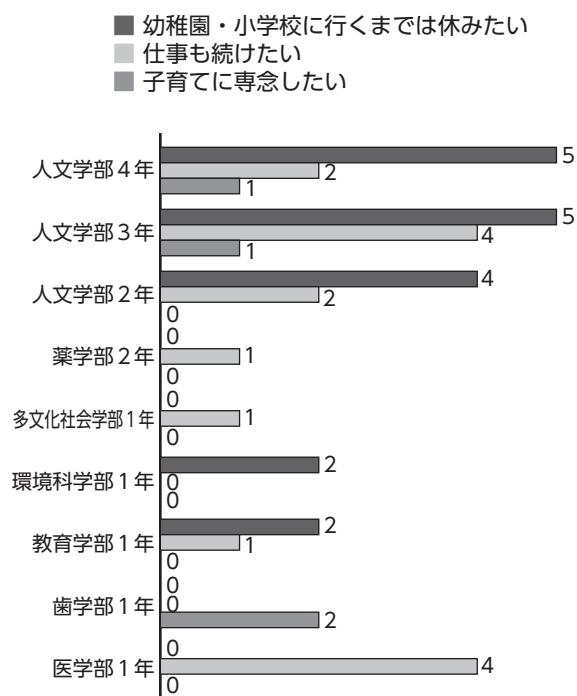
女性が仕事を継続する事に困難があると聞いたり 考えたりした事がありますか？	
■ いいえ ■ はい 人文学部 4 年 0 8 人文学部 3 年 2 10 人文学部 2 年 1 5 薬学部 2 年 0 1 多文化社会学部 1 年 0 1 環境科学部 1 年 0 2 教育学部 1 年 0 3 歯学部 1 年 0 1 医学部 1 年 0 11	
男子学生（n = 8）	
妻には家庭にいてほしいと思いますか？	妻には子育てに専念してほしいと思いますか？
■ いいえ ■ はい 人文学部 3 年 0 2 医学部 1 年 2 4	■ いいえ ■ はい 人文学部 3 年 1 1 医学部 1 年 1 5

女子学生（n = 37）

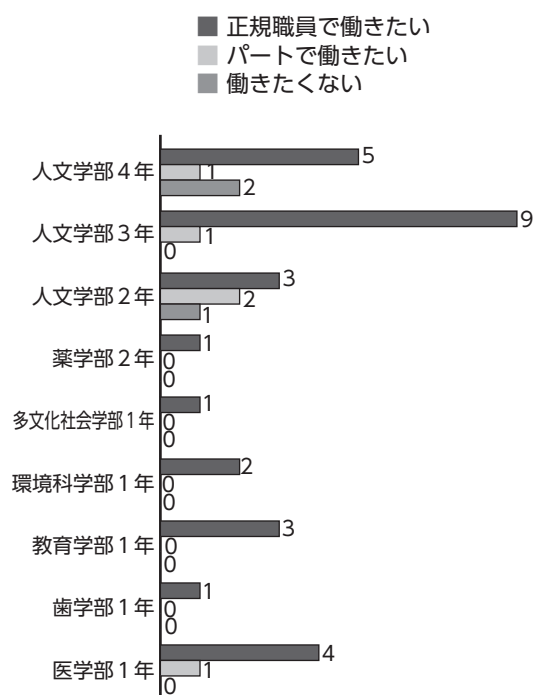
結婚後も仕事を続けたいですか？



子どもができた後も仕事を続けたいですか？

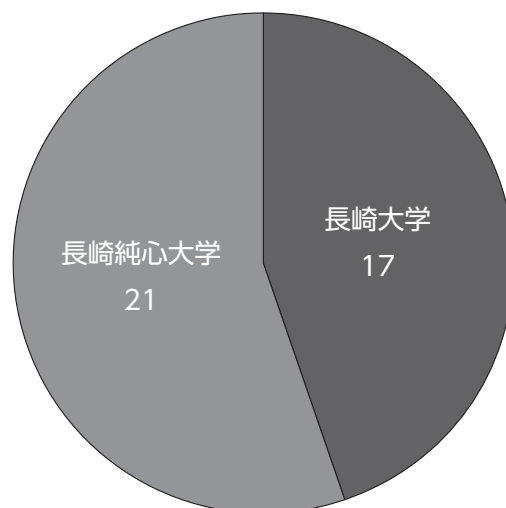


結婚・子どもができた後の働き方について教えてください。



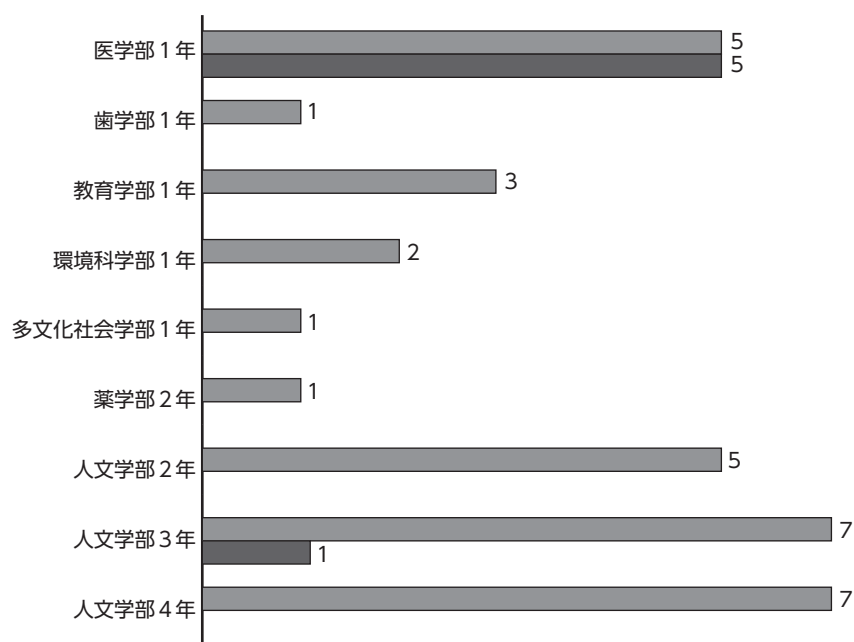
(受講後) NICE キャンパス長崎受講生アンケート

学生内訳 (n = 38)

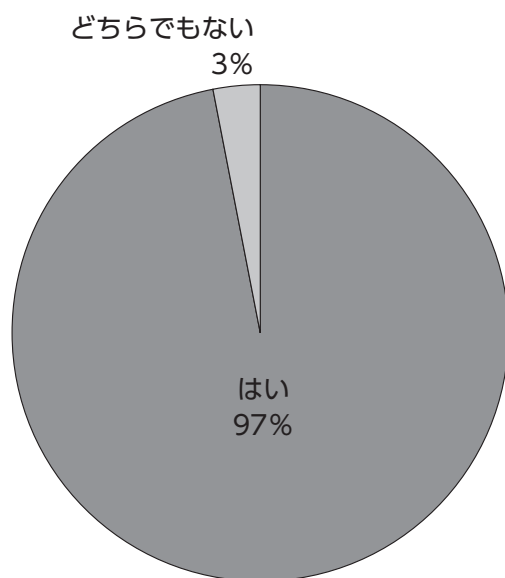


学部・学年別男女比

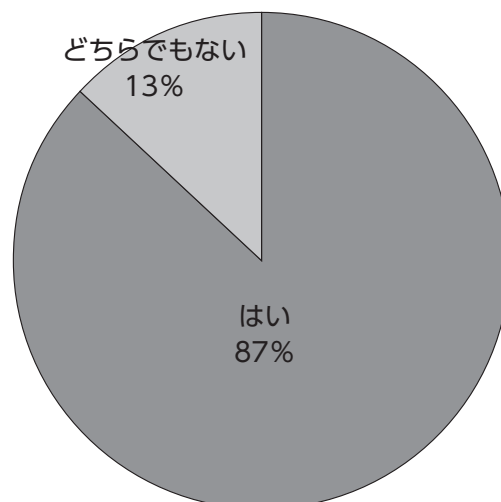
■ 女性 ■ 男性



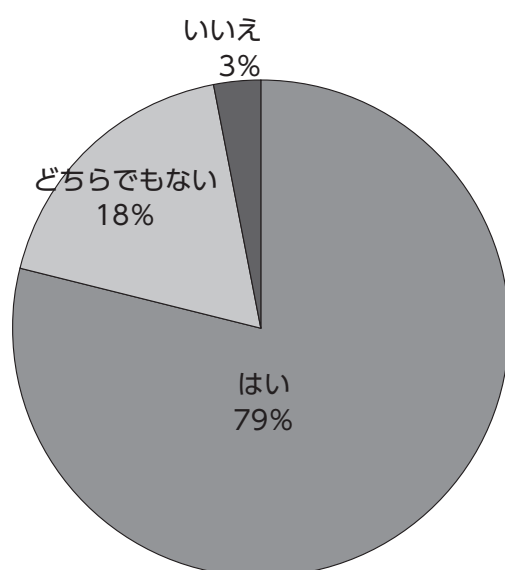
全体を通してこの講義を受講してよかったですか？



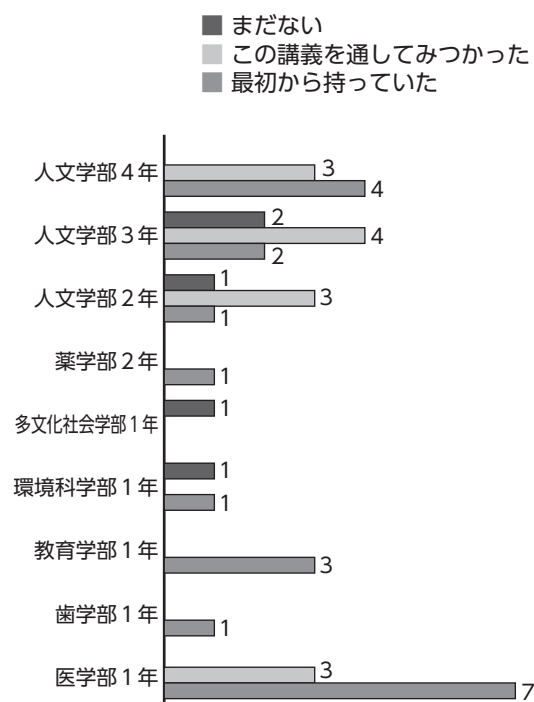
後輩や友達にこの講義をすすめたいですか？



先輩の経験を聞く講義をもっと増やしてほしいですか？



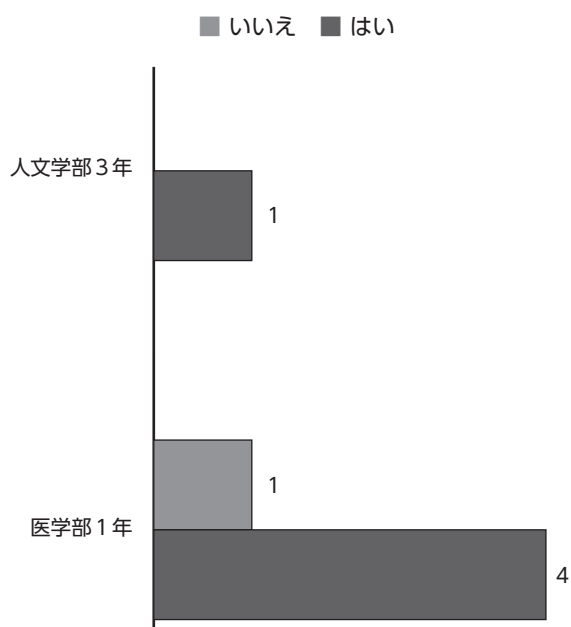
将来の目標や vision をもっていますか？



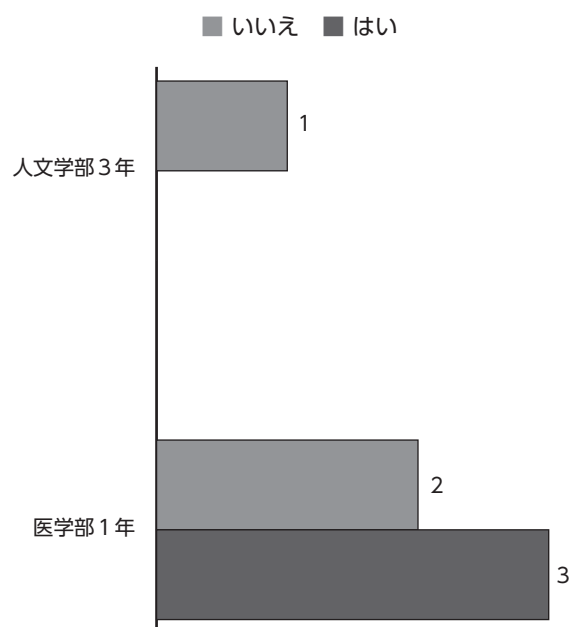
将来こんな人になりたい、と思い描ける人物や理想はありますか？	この講義を通して将来の目標や vision に近づくヒントが見つけれましたか？																																																															
■ まだない ■ この講義を通してみつかった ■ 最初から持っていた <table><tr><td>人文学部 4 年</td><td>1</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>人文学部 3 年</td><td>1</td><td>4</td><td>3</td></tr><tr><td>人文学部 2 年</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td></tr><tr><td>薬学部 2 年</td><td>1</td><td></td><td></td></tr><tr><td>多文化社会学部 1 年</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>環境科学部 1 年</td><td>1</td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>教育学部 1 年</td><td></td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>歯学部 1 年</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>医学部 1 年</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td></tr></table>	人文学部 4 年	1	3	3	人文学部 3 年	1	4	3	人文学部 2 年	2	2	1	薬学部 2 年	1			多文化社会学部 1 年		1		環境科学部 1 年	1	1		教育学部 1 年		1	2	歯学部 1 年		1		医学部 1 年	3	3	4	■ いいえ ■ どちらでもない ■ はい <table><tr><td>人文学部 4 年</td><td>1</td><td>6</td></tr><tr><td>人文学部 3 年</td><td>2</td><td>6</td></tr><tr><td>人文学部 2 年</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>薬学部 2 年</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>多文化社会学部 1 年</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>環境科学部 1 年</td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>教育学部 1 年</td><td></td><td>3</td></tr><tr><td>歯学部 1 年</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>医学部 1 年</td><td></td><td>10</td></tr></table>	人文学部 4 年	1	6	人文学部 3 年	2	6	人文学部 2 年	1	4	薬学部 2 年		1	多文化社会学部 1 年		1	環境科学部 1 年		2	教育学部 1 年		3	歯学部 1 年		1	医学部 1 年		10
人文学部 4 年	1	3	3																																																													
人文学部 3 年	1	4	3																																																													
人文学部 2 年	2	2	1																																																													
薬学部 2 年	1																																																															
多文化社会学部 1 年		1																																																														
環境科学部 1 年	1	1																																																														
教育学部 1 年		1	2																																																													
歯学部 1 年		1																																																														
医学部 1 年	3	3	4																																																													
人文学部 4 年	1	6																																																														
人文学部 3 年	2	6																																																														
人文学部 2 年	1	4																																																														
薬学部 2 年		1																																																														
多文化社会学部 1 年		1																																																														
環境科学部 1 年		2																																																														
教育学部 1 年		3																																																														
歯学部 1 年		1																																																														
医学部 1 年		10																																																														
ワークライフバランスについて理解できましたか？	仕事を継続する事が困難なときの対処法・相談先など解決方法を探れそうですか？																																																															
■ いいえ ■ どちらでもない ■ はい <table><tr><td>人文学部 4 年</td><td></td><td>7</td></tr><tr><td>人文学部 3 年</td><td>1</td><td>7</td></tr><tr><td>人文学部 2 年</td><td>1</td><td>4</td></tr><tr><td>薬学部 2 年</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>多文化社会学部 1 年</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>環境科学部 1 年</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>教育学部 1 年</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>歯学部 1 年</td><td></td><td>1</td></tr><tr><td>医学部 1 年</td><td></td><td>10</td></tr></table>	人文学部 4 年		7	人文学部 3 年	1	7	人文学部 2 年	1	4	薬学部 2 年		1	多文化社会学部 1 年		1	環境科学部 1 年	1	1	教育学部 1 年	1	2	歯学部 1 年		1	医学部 1 年		10	■ いいえ ■ どちらでもない ■ はい <table><tr><td>人文学部 4 年</td><td>1</td><td>6</td></tr><tr><td>人文学部 3 年</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>人文学部 2 年</td><td>1</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td>薬学部 2 年</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>多文化社会学部 1 年</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>環境科学部 1 年</td><td></td><td></td><td>2</td></tr><tr><td>教育学部 1 年</td><td></td><td></td><td>3</td></tr><tr><td>歯学部 1 年</td><td></td><td>1</td><td></td></tr><tr><td>医学部 1 年</td><td></td><td></td><td>10</td></tr></table>	人文学部 4 年	1	6	人文学部 3 年	1	3	4	人文学部 2 年	1	1	3	薬学部 2 年		1		多文化社会学部 1 年		1		環境科学部 1 年			2	教育学部 1 年			3	歯学部 1 年		1		医学部 1 年			10	
人文学部 4 年		7																																																														
人文学部 3 年	1	7																																																														
人文学部 2 年	1	4																																																														
薬学部 2 年		1																																																														
多文化社会学部 1 年		1																																																														
環境科学部 1 年	1	1																																																														
教育学部 1 年	1	2																																																														
歯学部 1 年		1																																																														
医学部 1 年		10																																																														
人文学部 4 年	1	6																																																														
人文学部 3 年	1	3	4																																																													
人文学部 2 年	1	1	3																																																													
薬学部 2 年		1																																																														
多文化社会学部 1 年		1																																																														
環境科学部 1 年			2																																																													
教育学部 1 年			3																																																													
歯学部 1 年		1																																																														
医学部 1 年			10																																																													

男子学生 (n = 6)

妻には家庭にいて欲しいと思いますか？

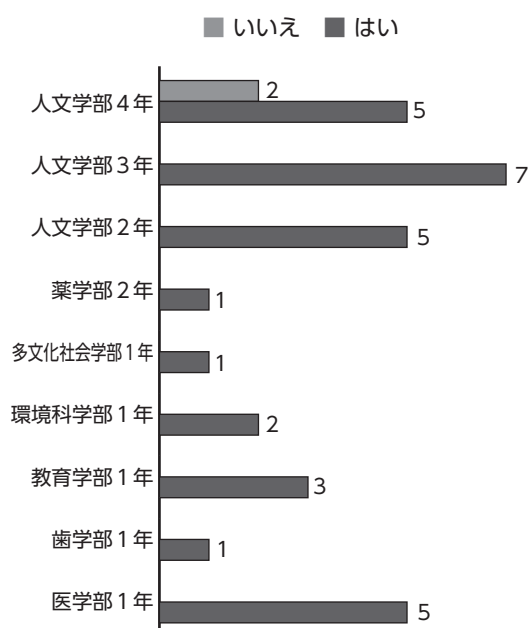


妻には子育てに専念してほしいと思いますか？

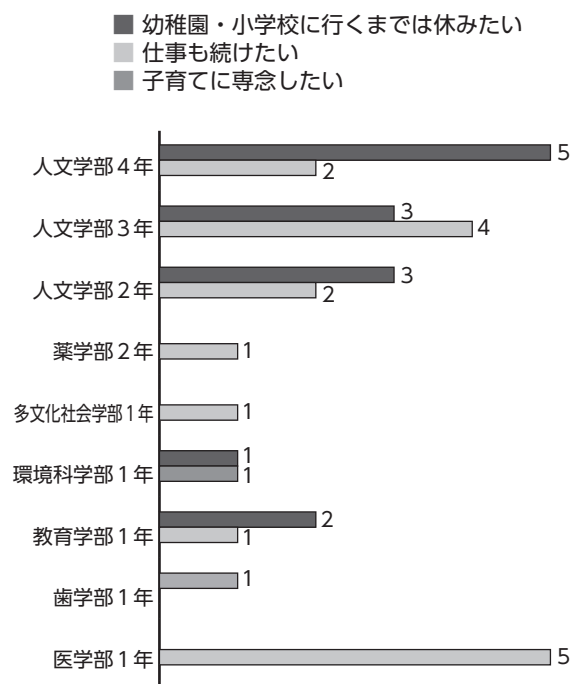


女子学生 (n = 32)

結婚後も仕事を続けたいですか？



子供ができたあとも仕事を続けたいですか？



4. 教養ゼミナール

医学部（医学科・保健学科）・歯学部・薬学部（薬学科・薬科学科）の1年生による共修形式のゼミ

多様な学科の学生との共同作業を通して、チームワークを養い、多職種連携能力につなげる事を目的とした授業である。自ら興味を持ったテーマに対し、主体的に情報収集および考察を行う姿勢を学び、理解を深め、他者が理解しやすく、興味を抱くようなプレゼンテーションについて考え、実践する。

開講場所 長崎大学医学部
開講期間 平成 26 年 4 月 8 日～平成 26 年 7 月 25 日
開講時間 16:30 ～ 18:00 毎週火曜
対象学年 1 年次
単 位 2 単位

今年度より新入生は全員ノートパソコンの所有が義務付けられた。そこでゼミの前半では、今後の学生生活で多用する可能性の高い PowerPoint に慣れることを目的に、自己紹介スライドを作成し、プレゼンテーションを行った。

後半では、医療関係の題材に関して皆で調べて理解する作業を行った。教員側からいくつかテーマを提示し、学生が相談した結果「緩和医療」をテーマにすることとなった。作業に必要な基礎知識を教員の側から提供しつつ、インターネットで手軽に得られる情報などを利用しながら、テーマに関する知識をまとめていった。最終的に PowerPoint のスライドにまとめ、全体の発表会でプレゼンテーションした。初回から学生同士打ち解けるのが早く、ゼミの雰囲気は終始和気あいあいとしており、皆で協力し合いながら作業を進めていく風景が多く見られた。

当センターでの教育は「多職種連携」を強調しているが、それに限らず現代の医療界は多くの場面で「チーム医療」の形が望まれている。自己紹介スライドを通して互いの理解に努め、グループワークを通じて協力し合うプロセスは、チーム医療の現場に近いものがあると考えられる。今回のゼミがその疑似体験となり、今後それぞれの実習を行う際に姿勢として生かされてくれることを願ってやまない。

学部学科	人数
医学部医学科	4 名
医学部保健学科	3 名
歯学部	1 名
薬学部薬学科	1 名
薬学部薬科学科	2 名

2014 年度テーマ 「癌と緩和ケア」 全体発表スライド

癌と緩和ケア

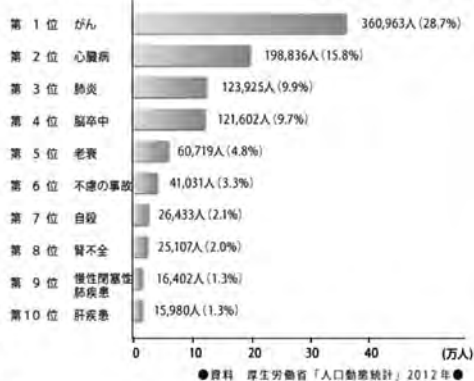
○清水雄一 ○清水透 ○宿輪尚孝 佐藤佑作 岳下みずき 田中琢里
山下賢裕 長井宗介 杉山達哉 世良田聖 田嶋泰造
教員：松坂輝亮 牟田久美子（地域包括ケア教育センター）

がん患者の現状について

- ・ 日本人の死因
- ・ がんとは
- ・ がんになる可能性

●日本人の死因

（平成24年死に数 1,256,359人）

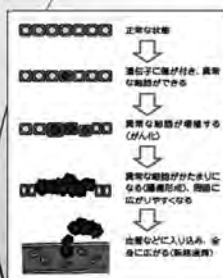


■ がんができる仕組み

人間の体は、多くの細胞からできています。体には、傷ついた遺伝子を修復したり、異常な細胞の増殖を抑えたり、取り除く仕組みがあります。しかし、異常な細胞が監視の目をすり抜け、無制限にふえて別の部位に転移するなどして、体を弱らせてしまうことがあります。それが、がんという病気です。

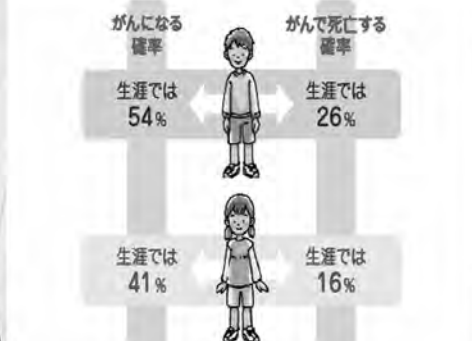
■ 予防できるけれど完全には防げない

がんは、禁煙や食生活の見直し、運動不足の解消などによって、「なりにくくする（予防する）」ことができる病気です。
しかし、それらを心掛けていても、がんは「ならないようにする」ことはできません。



出典：国立がん研究センターがん対策情報センター

がんになる可能性



緩和ケアの概念

- 緩和ケアの歴史
- WHOの定義と現在の緩和ケアの考え方

緩和ケアの歴史

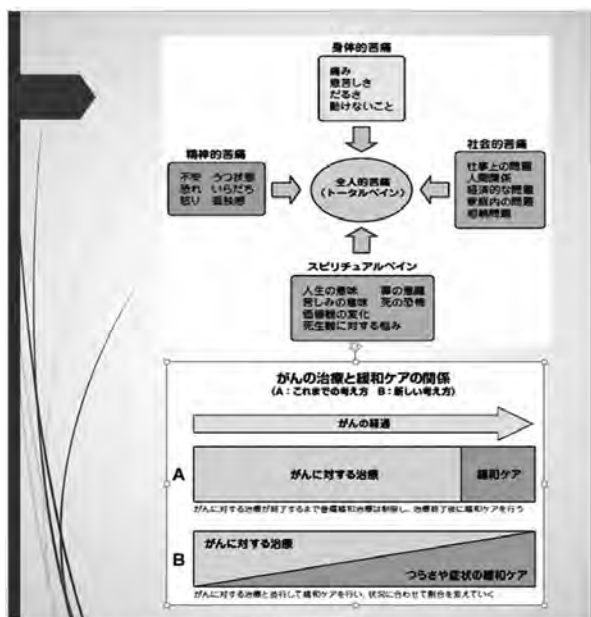
- 1950年代にアメリカやイギリスで提唱された考え方で、人が死に向かう終末期の過程を理解し、医療のみでなく人間的に過ごすことの重要性が説かれた。(ターミナルケア)
- 1970年代にイギリスで始まったホスピスでの実践を踏まえて提唱された考え方で、死に向かう人への全人的アプローチの必要性が説かれた。(ホスピスケア)
- 1980年代にカナダで提唱された考え方で、ホスピスケアの考え方を受け継ぎ、国や社会の違いを超えて人が死に向かう過程に焦点をあて、積極的なケアの必要性が説かれた。後にWHOがその概念を定式化した。

→ 緩和ケアへ！

WHOの定義と現在の緩和ケアの考え方

緩和ケアとは、治療を目的とした治療が有効でなくなった患者に対する積極的な全人的ケアである。痛みやその他の症状のコントロール、精神的、社会的、そして霊的問題の解決が最も重要な課題となる。緩和ケア目標は、患者とその家族にとってできる限り可能な最高のQOLを実現することである。末期だけでなく、もっと早い病期の患者に対しても治療と同時に適用すべき点がある。(1990年)

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題に直面している患者とその家族に対して、痛みやその他の身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな問題を早期に発見し、的確なアセスメントと対処(治療・処置)を行うことによって、苦しみを予防し、和らげることで、クオリティ・オブ・ライフを改善するアプローチである。(2002年)



緩和ケアにおける チーム医療の実践



活動の拠点はどこか

- 緩和ケア病棟
- 在宅ケア

長崎県内 緩和ケア病棟のある病院

- 聖フランシスコ病院 長崎県長崎市小峰町9-20
- 出島病院 長崎県長崎市出島町12-23
- 南野病院 長崎県大村市東三城町33
- 千住病院 長崎県佐世保市宮地町5-5

どのような活動内容か

- 患者さんやご家族に、心のカウンセリングを含めたさまざまなケアをチームで行う。
- 痛みや、そのほかの苦痛となる症状を緩和する。
- 生命を重んじ、自然な流れの中での死を尊重する。
- 死を早めることも、いたずらに遅らせることもしない。
- 死が訪れるまで、患者さんが自分らしく生きていけるように支える。
- 患者さんの治療時から、患者さんと死別した後も、ご家族を支える。
- 生活の質（クオリティオブライフ：QOL）を向上させ、前向きに生きるちからを支える。
- がん治療の初期段階から、外科手術、化学療法、放射線療法などと連携しながら、緩和ケアを行う。

感想

- がんが意外に身近なものだということが分かった
- 緩和ケアが楽に死なせるという治療ではなく、最後までいい人生を歩んでいかせようという治療であるということが分かった
- 緩和ケアにおいてもチーム医療が重要であると分かった。
- 定期的にカンファレンスを行うなど緩和ケアチーム内でのコミュニケーションを図るなどの努力が必要になると思った
- チーム医療をより良いものとするためにも自分の専門分野を深めるだけではなく、ほかの職種の理解も必要であると改めて思った。



教養ゼミナールを通しての感想（一部抜粋）

- 今回の教養ゼミナールでは「緩和ケアと地域医療」について詳しく学習した。緩和ケア自体は病気を治すためのものではなく、患者さんの苦痛を和らげるものであったので、最初は少し内容に抵抗があったが、歯学部や薬学部の人たちと協力しながら楽しく学ぶことができた。（医学部医学科）
- 普段なら共に学ぶ機会のない異なる学部・学科の人とも一緒に進め、話し合ったりして、協力することができた。（医学部保健学科）
- 班ごとにすべき仕事を分担することで自分のすべき役割を理解し、実行する能力が身についた。（歯学部歯学科）
- 最初の頃は他の学部・学科の学生と話をするのに不安や緊張があったが、一つのことに意見を出し合いながら発表スライドを作成していくうちに楽しく感じた。（医学部医学科）
- 医師・看護師・理学療法士・薬剤師・歯科医師になる人の考えを同時に聞くことができ、今後様々な場面で活かす事ができると感じた。（医学部保健学科）
- 他職種とのコミュニケーションを取ることができとても有意義だった。（医学部保健学科）
- 他学部・他学科の学生との交流ができたのは、非常にいい機会だった。2.3年後また、このグループで教養ゼミナールを行うことも面白いと思う。（薬学部薬科学科）
- 今回、「がんと緩和ケア」というテーマを調べていくにあたり、緩和ケアが終末期ではなく、治療開始と同時に進められていくものだということを知り、今までの自分の認識とは違って驚いた。（薬学部薬科学科）



5. 医学ゼミ

必修選択の科目であり、10名前後の少人数教育を行う。自らが特に学習したい分野を選択し、その分野についてコアとなる教科内容を越えて特定の内容を深く掘り下げる学習を行う。当該分野の医学・科学に対する探求心・問題解決能力の育成と、より深い理解を目指す。

開講期間 平成26年10月3日～平成27年1月23日
開講時間 毎週金曜 8:50～10:20
対象学年 2年次（医学科生）
単 位 1単位
受講生 8名

ゼミテーマ 医師になるってどんなこと？ー包括医療事始めー

目的 医師として患者治療の意義を知り、これに関わる医療資源と社会資源について認識させる。

内容 最先端医療のゴールは患者さんの社会復帰である。疾病を患った患者が、医療機関で治療を受け、社会に復帰するまでに、どれだけの医療資源、社会資源を要するかを認識・理解し、これに関わる基礎医学、臨床医学、社会医学について考察する。
PBL形式の授業。
講義と平行して、在宅医療実習に毎週2名ずつ参加。



6. 初期臨床研修 総合医・家庭医コース

離島・へき地での研修や、在宅医療・訪問看護ステーション・地域包括支援センター・地域ケア会議における研修を通し、患者を幅広い視点で診ることができ、多職種と協調できる医師の育成を目指す。



コース選択者を対象とした
地域医療カンファランスの様子

コース登録者数：家庭医・総合医コース4名登録（初期研修医1年次）

参加学会

- 第5回日本プライマリ・ケア連合学会 学術大会
会期 平成26年5月10日～5月11日
- 日本プライマリ・ケア連合学会 秋季生涯教育セミナー
会期 平成26年11月8日～11月9日

（参加者感想）

1日目は、講演形式で、特に地域病院で活躍する総合内科医がどう病院や地域に貢献していくべきなのかを具体的に理解できました。2日目は、選択形式のワークショップで研究についてのワークショップと胸部X線についてのワークショップに参加しました。研究については、今まで臨床研究について興味は持ってもどうすれば良いのか全くわからなかったのですが、このワークショップで実際に研究テーマを設定して研究方法を擬似的に立ててみることで研究についてイメージができ、より身近なものへと思えました。胸部X線についてのワークショップでは講義を受け、実際に読影していくものであり非常にわかりやすかったです。講師の方が普段使っている教科書の筆者であり、そのことも嬉しかったです。

また、地域病院での総合医の働き方には感銘をうけました。今までに考えていた働きかたより具体的に示されたようでした。総合医に必要な診断力、そして診断のノウハウを後輩や他人に教えることができるまで自分の血肉にできるよう、今後勉強していきたいと感じるセミナーでした。

講演・講義・ワークショップとかなり密度が濃い2日間で会場では充実した心地よい疲労感がありました。機会があればぜひまた参加したいです。



7. 大学院教育

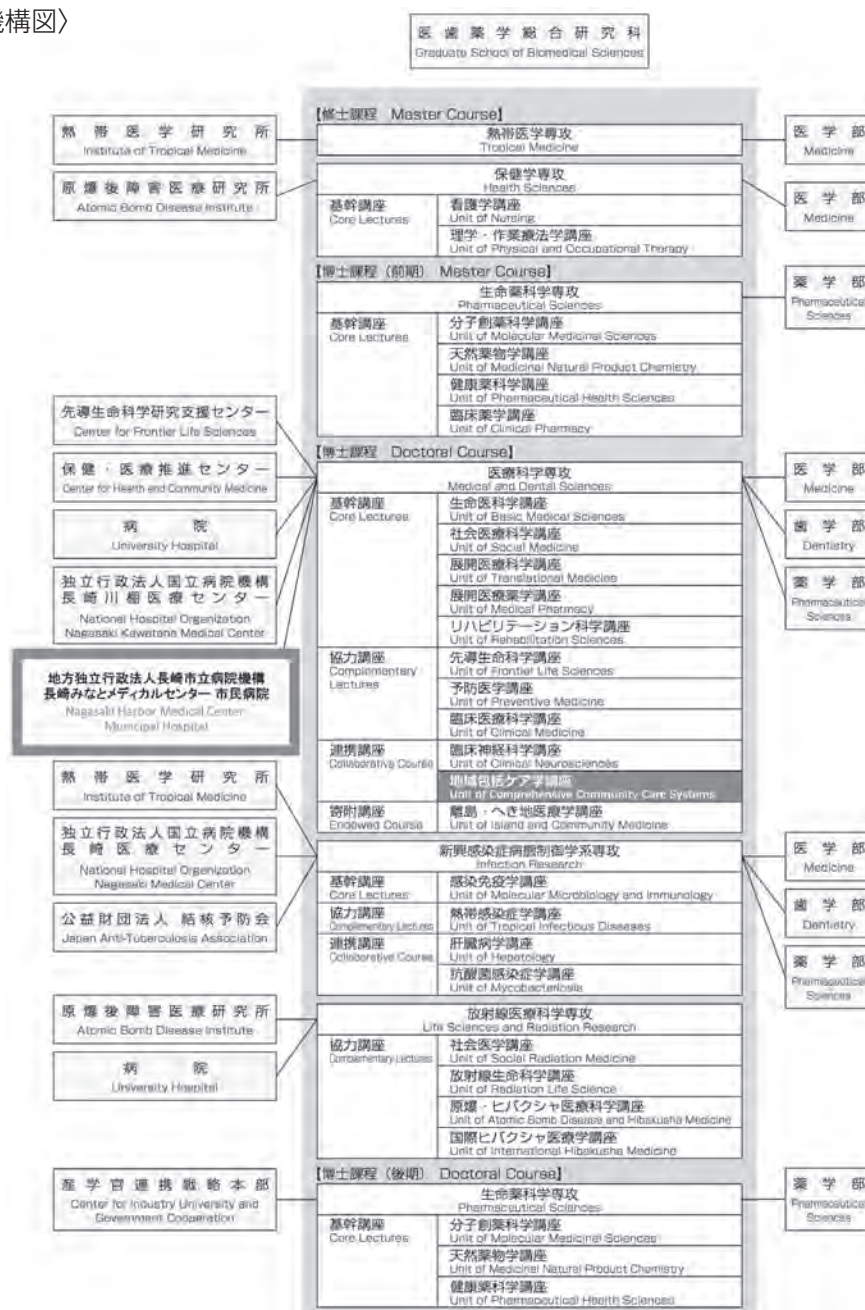
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 医療科学専攻

地域包括ケア学講座 地域包括ケア学分野 地域包括ケア研究医養成コース

長崎の中核病院である長崎みなとメディカルセンター 市民病院に大学院連携講座を設置し、地域包括ケア学講座を開設したことにより平成 26 年度からの大学院生受け入れ態勢が整った。地域に密着した病床を有する病院へ連携講座を設置することにより、高度機能病院と地域、双方のニーズを踏まえた教育・研究・政策提言などが期待されている。また、地域フィールドに近い場所で研究を行うことで、地域の実情に基づいた研究が推進され、超高齢社会における諸課題の実質的解決へ向けた成果を期待する。

平成 26 年 4 月 1 日連携講座設置

〈機構図〉



〈修業年数〉
4 年（博士課程）

〈主たる研究内容〉
①地域包括ケアシステム研究
②地域医療政策研究
③地域包括ケアネットワークシステムに関する研究
④プライマリケアに関する研究

〈最低修得単位数〉

講座等区分		修得単位数	備考
共 通 科 目	生命医療科学セミナー	2 単位	必修
	生命医療科学概論	1 単位以上	選択必修
	生命医療科学特論		
コース科目	地域包括ケア学特論	3	選択必修 7 単位以上
	地域包括ケア学演習	2	
	地域包括ケア学実習	2	
	在宅・地域医療実習	1	
	離島・へき地病院実習	2	
	研究科が指定する地域包括ケア関連科目	8 単位以上	選択
	研究科が開設する地域包括ケア関連科目	4 単位以上	選択
主 科 目	所属専攻が開設する授業科目	10 単位以上	選択
合 計		32 単位以上	

8. ICT を活用した医学教育

長崎大学医学部の1年～6年生全員へタブレット端末を貸与した。

ICTベースの教育用オンラインシステム「ヒカルミライ」を開発したことにより、医学部生のみならず、地域包括ケア関連の授業を履修する他学部や他大学の学生が、学内外から授業に必要な資料のダウンロードやレポートの提出等を行うことが可能となった。また、地域包括ケア関連施設での実習においても、到達目標の設定・実習記録・評価にICTを用いることで、施設との連絡体制強化や、円滑な実習運営を目指している。



本事業ホームページ

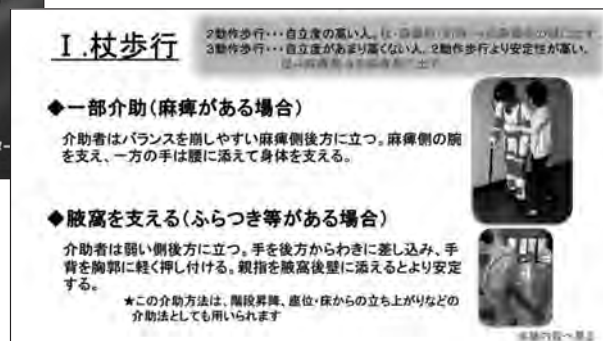
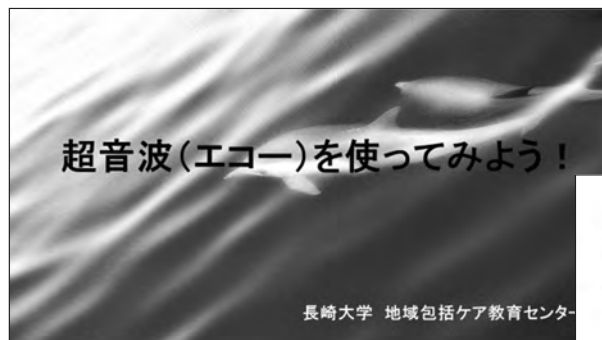
学生の自己学習や実習記録、教員の教育補助ツールおよび評価、地域の実習指導者との教育情報の共有等、様々な場面で活用している。



授業資料のダウンロード、実習に関するアンケートの実施

iPad mini を活用し、以下のことを行った。

①実習要領配布 ②実習の評価（目標達成度・実習態度・満足度等） ③授業の予習・復習



授業評価回収率

1 年生 : 100%

3 年生 : 99%

4 年生 : 94%

臨床実習評価システム

介護と在宅医療(0/3 達成)

介護と在宅医療の基本を学ぶ。	-	未達成
介護の定義と種類を説明できる。	-	未達成
日常生活動作<ADL>(排泄、摂食、入浴)の介護と環境整備の要点を概説できる。	-	未達成
在宅医療(酸素療法、栄養療法、透析療法を含む)を概説できる。	-	未達成

臨床実習

診療の基本(3/9 達成)

問題志向型システムと臨床診断推論		
基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる。	👍	達成
得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出できる。	-	未達成
病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。	👍	達成

リハビリテーション(4/7 達成)

介護と在宅医療(3/3 達成)

臨床実習

診療の基本(3/9 達成)

診療法(12/17 達成)

基本的臨床手技(1/1 達成)

地域医療臨床実習(5/5 達成)



5

研

究



長崎大学

卒前教育充実のための長崎大学医学生へのアンケート調査

背景：

現在、国を挙げて“女性の力”の活用が叫ばれている。2014年の医師国家試験の合格者の女性の割合は3割を超えた。一方で女性医師の就業率は36歳で最低となるM字カーブとして知られている。これは多くの女性医師が妊娠出産を機に職務継続が困難となっている事が示唆される。このため学会、行政、大学、病院等様々な方面からライフステージに応じた女性医師の就労支援の取り組みが薦められている。

女性医師が仕事を継続するうえで、職場環境を整備するだけで良いだろうか？ 妊娠・出産は計画的にできることが多く、ある程度の将来設計を考え、起こるべきイベントに備えておくと、対処しやすいのではないだろうか。ワークライフバランスやキャリア・プランニングは高校までの教育で十分とは言えず、大学における卒前教育の役割は重要であると考え。近年、色々な大学で、ワークライフバランスやキャリア・プランニングなどについて考える授業が企画されるようになってきたが、授業の時間数などいまだ十分とは言えない。

さて、目標をもつ事がモチベーション向上につながることに異論はない。目標・理想の人物をもつと、どうやったらその人物に近づけるか、その方法をより具体的に考えるのではないだろうか。それは医学生においても同じであり、理想の医師像をもつ事はより将来の事を考え、女性も男性も医師を継続するための動機づけにつながるのではないだろうか。そこで我々は“理想の医師像を持っている学生は、将来について具体的に考え、キャリア・プランニングについて具体的に考えている”と仮説を立てた。

目的：

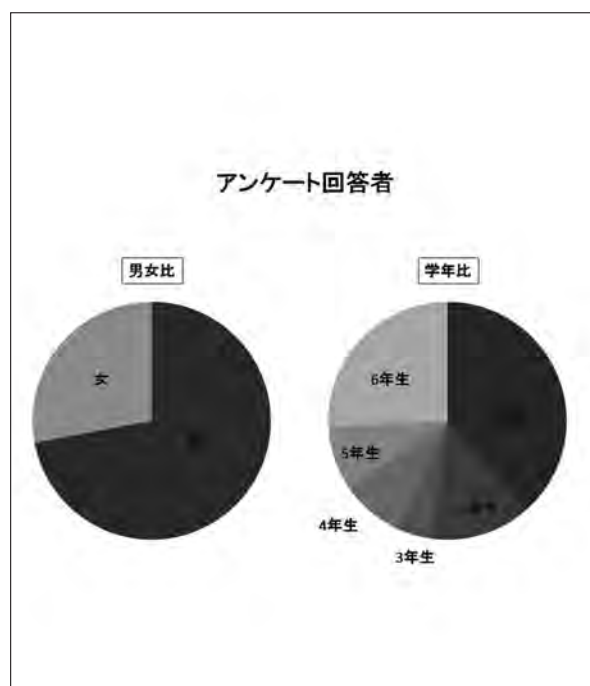
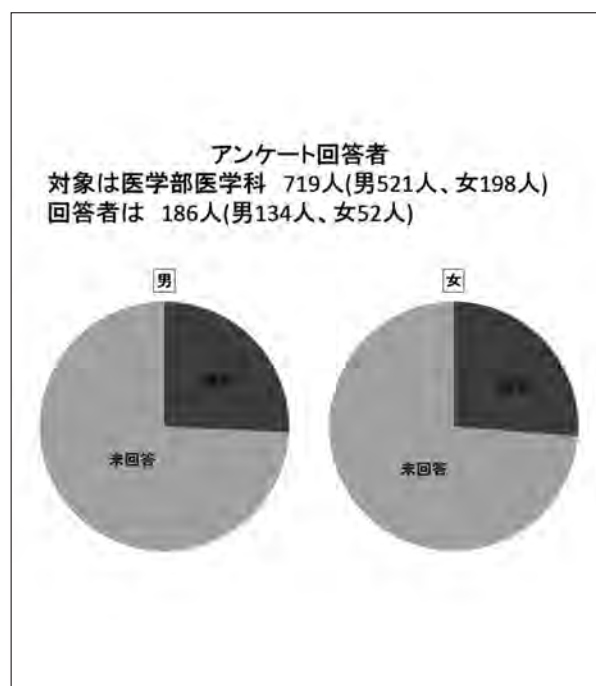
医学生がもつワークライフバランスやキャリア・プランニングに関する意識とニーズを調査し、仮説を検定する。この結果をもとに仕事継続への意欲を抱くための教育の役割について考察する。

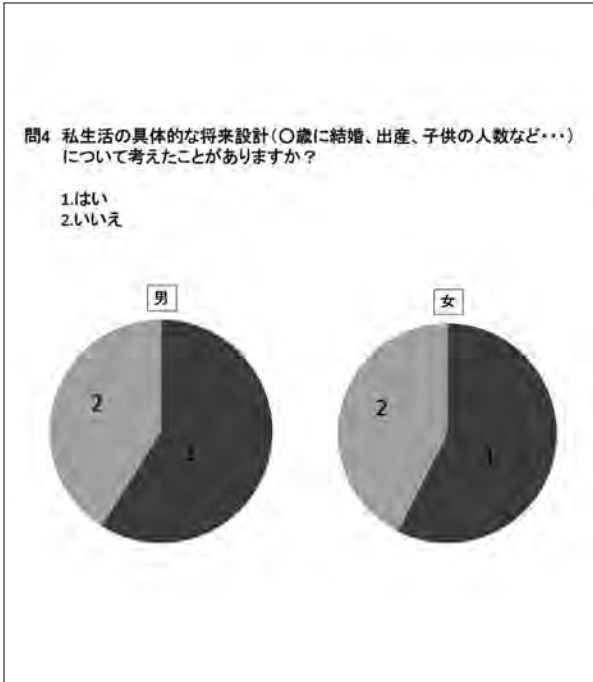
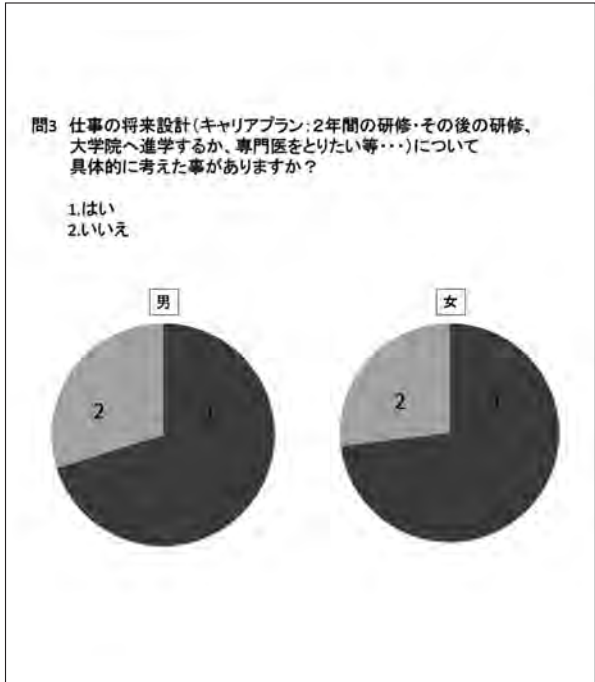
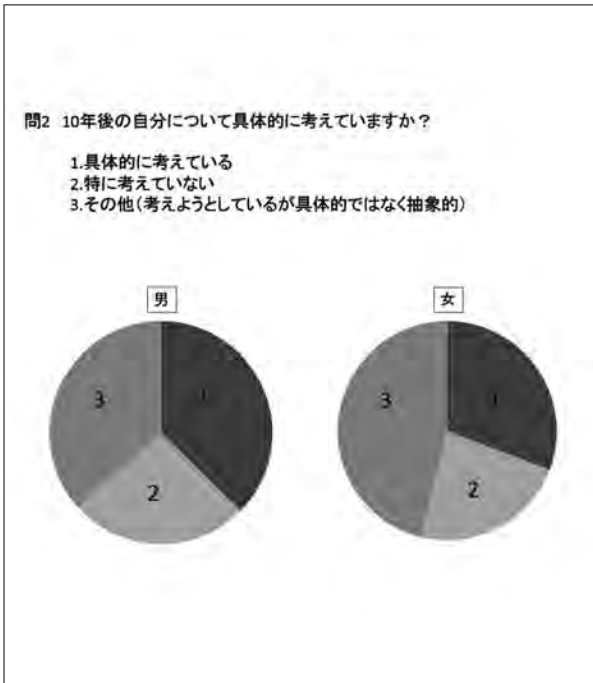
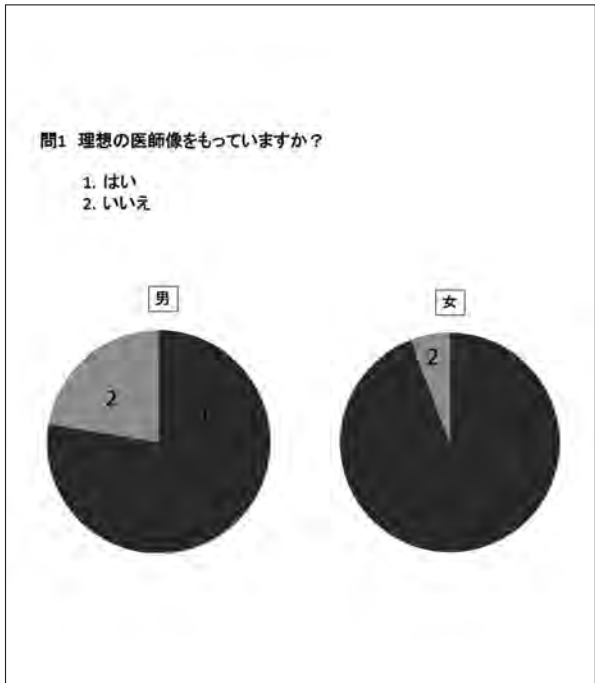
方法：

対象は長崎大学医学部医学科1年生から6年生までの718人とした。方法は2014年7月28日から8月10日まで任意・無記名によるアンケート調査をインターネットを利用して行った。

統計解析はχ²乗検定を用いた。

結果：





理想の医師像の有無

	理想の医師像 あり	理想の医師像 なし	p値
10年後の自分について具体的に 考えたことがありますか？			
あり	61	5	0.008
なし・抽象的	92	78	
仕事の将来設計について具体的 に考えたことがありますか？			
あり	118	14	0.0002
なし	35	19	
私生活の将来設計について具体 的に考えたことがありますか？			
あり	91	6	<0.0001
なし	62	27	

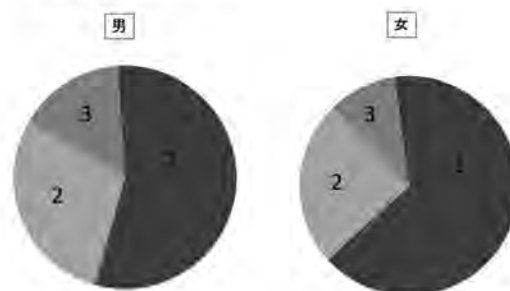
理想の医師像がある学生は、10年後の自分や、
仕事・私生活のプランを考えている割合が高かった。

問5-1 (男女比較)

理想の医師像をもっていますか？

はいと答えた人、いつ頃から理想の医師像をもっていますか？

1. 高校生の時から
2. 医学部入学当初から
3. 臨床実習が始まってから
4. その他

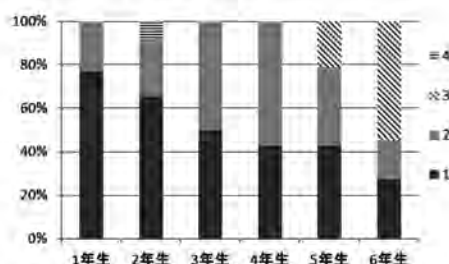


問5-1 (学年比較)

理想の医師像をもっていますか？

はいと答えた人、いつ頃から理想の医師像をもっていますか？

1. 高校生の時から
2. 医学部入学当初から
3. 臨床実習が始まってから
4. その他

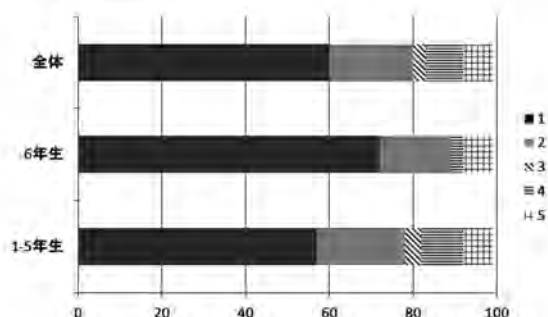


理想の医師像は変わる。
特に臨床実習を体験すると、実際に接した先生から
大きな影響を受けるのではないかな？

問5-2 理想の医師像をもっていますか？

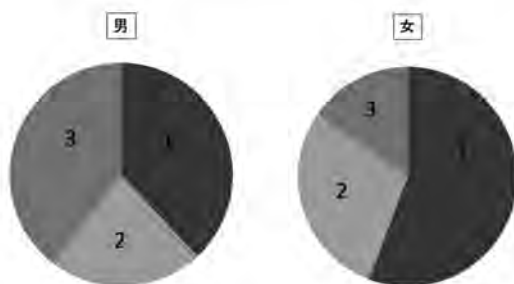
はいと答えた人、その医師像の元となっている人はいますか？

1. 身近な人(父・母・知り合いの医師)
2. 著名な医師
3. 歴史上の人物
4. 小説・ドラマに出てくる人物
5. その他



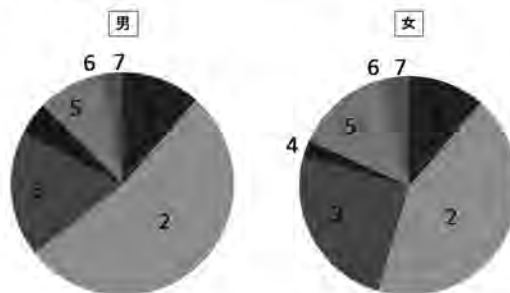
問6-1 ワークライフバランス(WLB)について知っていますか？

- 1.名前も内容も知っている
- 2.聞いたことはあるが内容は知らない
- 3.名前も内容も知らない



問6-2 WLBについて知っていますか？
上記で1または2と答えた人、どこで知りましたか？

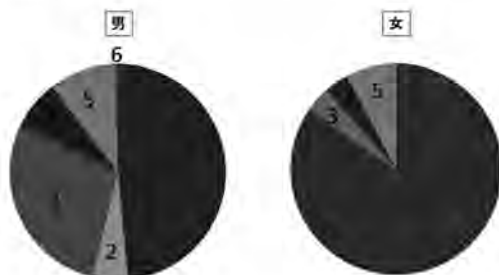
- 1.高校の授業
- 2.大学の授業
- 3.伊東先生の授業
- 4.先輩の話
- 5.テレビ、インターネット
- 6.長崎大学のHP
- 7.その他



7割以上の学生が大学の授業でワークライフバランスを知る。

問7 将来希望する夫婦の働き方は次のどれですか？

- 1.共働きで家事・育児は夫婦で分担
- 2.共働きで家事・育児は主にどちらか一方が担当
- 3.夫のみ働き妻が家事・育児に専念、妻のみが働き夫が育児・家事に専念
- 4.結婚する気はない、考えた事がない
- 5.働けるor働きたい方が働き、家にいたいほうが家にいる
- 6.その他



(男子学生への質問)

問8 育児中の妻には育児休暇(出産後1年経過した後の休業)以上に休職してでも子育てに専念してほしいと思いますか？

- 1.思う
- 2.思わない
- 3.わからない



- (女子学生への質問)
問9 出産・育児休暇(出産後1年経過した後の休業)後の働き方についてお尋ねします。いつまで休業したいですか？
- 1.仕事を辞めたい 3.子供が就学するまで休みたい
2.子どもが3歳まで仕事を休みたい 4.休みたくない



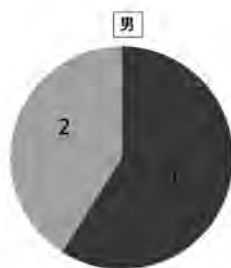
- 問10 仕事と家庭の両立に不安を感じますか？

- 1.はい
2.いいえ



- 問11 仕事や私生活などの将来設計に関して考える機会が欲しいですか？

- 1.はい
2.いいえ



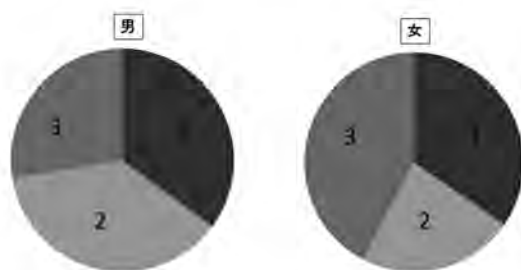
- 問12 仕事や私生活などの将来設計に関して考える機会が欲しいですか？
はいと答えた人、どういった機会が望ましいですか？

- 1.講演会 3.先輩医師との親睦会
2.授業 4.その他



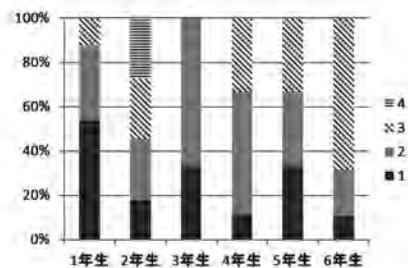
問13-1 将来設計に関しての授業が必要だと思いますか？

- 1.はい
2.いいえ
3.わからない



問13-2 はいと答えた人、授業は何年生の時にいった方がよいと思いますか？

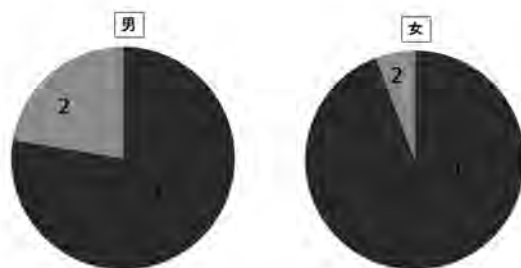
- 1.1-2年生
2.臨床実習前
3.臨床実習後
4.その他



1年生は1-2年生の時期、3-4年生は臨床実習前、
6年生は臨床実習後と現在授業を受けたいと考えている。

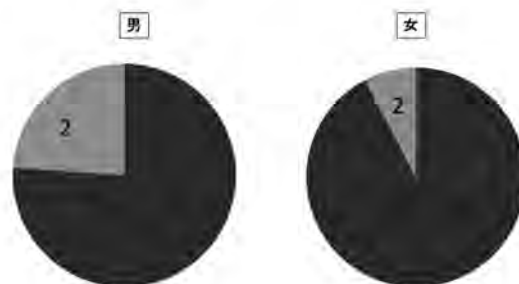
問14 将来設計や目標を持つことは、
医師の離職を防ぐ効果があると思いますか？

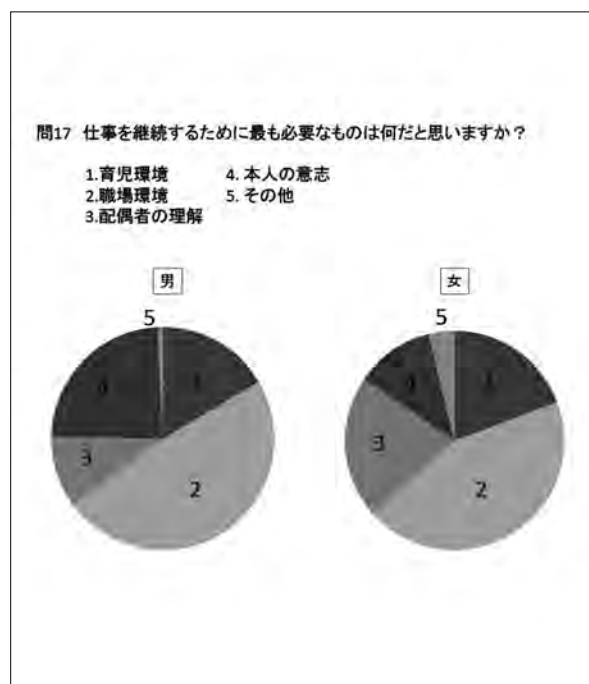
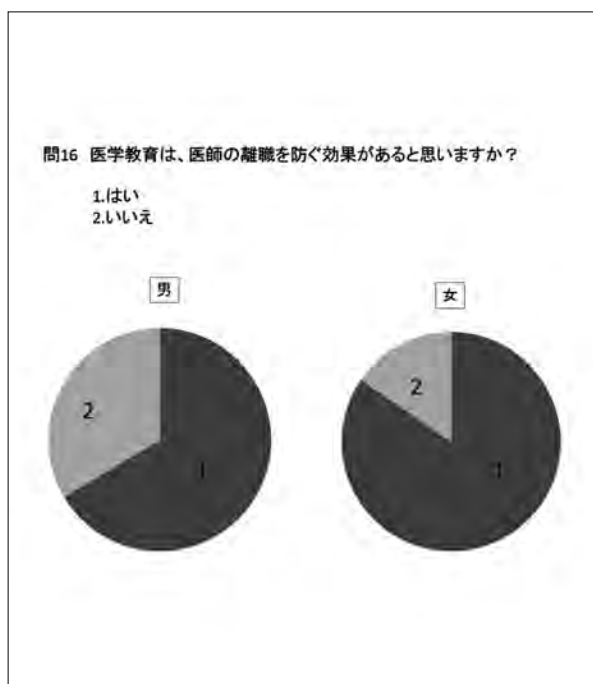
- 1.はい
2.いいえ



問15 目標の医師(ロールモデル)を知ることは、
医師の離職を防ぐ効果があると思いますか？

- 1.はい
2.いいえ





考察：

我々の仮説通り、理想の医師像をもっている学生は、持たない学生と比べ、10年後の自分の姿について具体的に考え、仕事や私生活についてのプランを考えている割合が有意に高かった。理想の医師像の元となっている人物は、身近な人の回答が多かった。また理想の医師像は変遷することがうかがわれた。

ワークライフバランスに関して、大学の授業で初めて知った学生が7割程度存在し、大学での授業の大切さがうかがわれる。また、将来の仕事と家庭の両立について不安を持っている学生が男女問わず多く、将来について先輩医師などに相談したいと考えていた。

東京女子医大の上田らの報告¹⁾では、女子医学生は将来の妊娠出産や家庭への生活に対しすでに不安を持ち、離職容認群は離職非容認群と比べ、より妻母役割を重視し仕事と家庭の両立不安が高かった。我々の調査でも男女を問わず将来への不安を持っており、早期にサポートする必要性があると考えられる。山口らの報告²⁾では、「結婚後の仕事継続」意志が弱い女子学生は「医師職への興味」が低く、卒前教育の重要性を挙げていた。キャリア継続には使命感・責任感を重視する医師が多いと報告もあり、我々指導者は特に臨床実習を通し、学生に vision や理想の医師像を描けるような指導を考えたい。

結論：

男女に関わらず医師を継続する意欲を育むには学部早期よりキャリアデザインに関する能動的教育の機会を創出し、そこにロールモデルとして指導者は積極的に関わるべきである。

参考文献：

- 1) 上田嘉代子ら、女子医学生のライフデザイン展望とキャリア継続意識調査。
医学教育 2010. 41(4):245-254
- 2) 山口治隆ら、女子医学生の「結婚後仕事を継続する意思」と「医師という職業への興味」との関連。
日本プライマリ・ケア連合学会誌 2014. 37(1):16-21

5

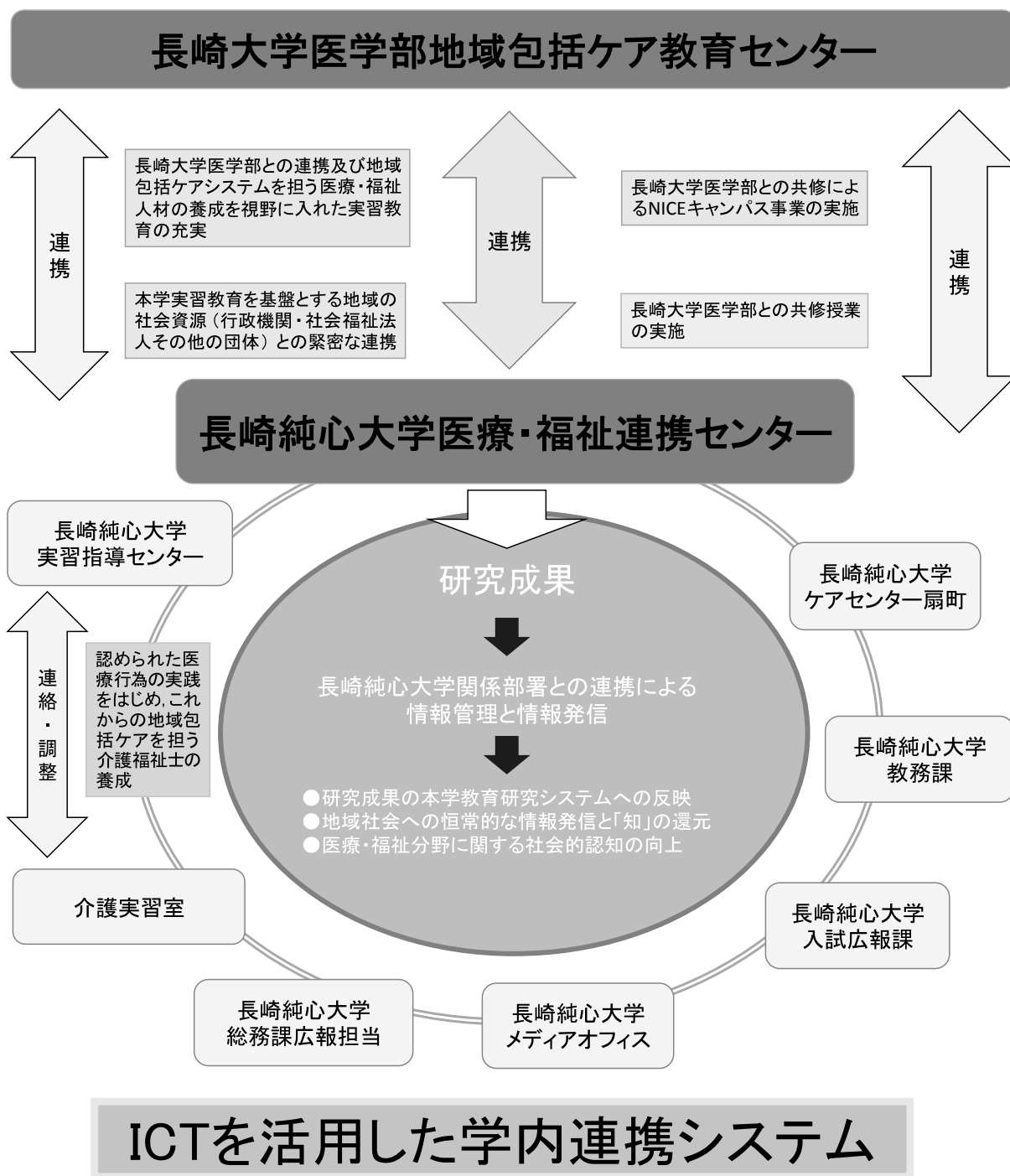
研

究



長崎純心大学

長崎純心大学における「未来医療研究人材養成拠点形成事業」実施体制



全国調査

(1) 調査の目的

平成 23 年の介護保険法の改正以降、団塊世代が 75 歳以上になる 2025 (平成 37) 年を見据えた「地域包括ケアシステム」の整備が、全国の市町村において進められている。このような状況の中で、地域住民の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行うことにより、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援することを目的とする地域包括支援センターには、地域包括ケアシステムにおける中核的な役割が求められている。



長崎市桜馬場地域包括支援センター

ところで、地域包括支援センターに関する全国規模での調査研究として公表されているものとしては、厚生労働省の老人保健健康増進等事業の助成を受けて三菱総合研究所が平成 22 年度、平成 23 年度及び平成 24 年度に実施した調査結果や、同補助事業を受けて全国社会福祉協議会及び全国地域包括・在宅介護支援センター協議会が平成 22 年度に実施した調査結果しか存在していないのが現状である。

しかし、上記の調査研究等は、全国の地域包括支援センターを対象としており、経年比較が可能となる貴重な実証データではあるが、その内容については、記述的かつ概括的であり、変数間の詳細な関係については言及されていない。

そこで、長崎純心大学医療・福祉連携センターでは、地域包括支援センターの現状と課題を明らかにするため必要となる基礎資料を収集するとともに、地域包括ケアシステムにおける地域包括支援センターの役割と可能性を実証的に析出することを目的に、全国の地域包括支援センターを対象とする質問紙を用いた悉皆調査を実施することにした。

(2) 調査票作成

調査票の作成に当たっては、先行研究として位置づけることができる三菱総合研究所（2013）による『地域包括支援センターにおける業務実態や機能のあり方に関する調査研究事業報告書』の内容を分析し、その結果をふまえて調査票案を作成し、調査対象者として想定した地域包括支援センターの社会福祉士2名に対し、プレテストを3回実施した。

- 第1回プレテスト 平成25年12月21日（土）11:00～17:00
- 第2回プレテスト 平成26年1月10日（金）18:30～20:30
- 第3回プレテスト 平成26年1月18日（土）18:30～20:30

●プレテスト協力者

永富 幸美（長崎市桜馬場地域包括支援センター 社会福祉士）
嶺 尚江（長崎市戸町・土井首地域包括支援センター 社会福祉士）

このように、調査票案の検討・修正を繰り返し行い、調査票としての精度を高めるように努め、最終的に調査に用いる主たる項目を以下に示すとおりとした。なお、実際の調査票は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。（<http://www.n-junshin.ac.jp/study/research/>）

（調査項目）

- 地域包括支援センターの設置主体（問1）
- 職員の配置状況（問2）
- 介護予防プラン数（問3）
- 相談件数（問4）
- 職員研修の状況（問5から問7）
- 定期的な会議やミーティングの状況（問8）
- 広報活動（問9）
- 関係機関等との連携状況（問10から問14）
- 地域ケア会議の状況（問15）
- 啓発活動（問16）
- 業務の状況（問17から問22）
- 地域包括ケアに関する自由記述（問23）
- 職場環境（問24）
- 基本属性（問25）
- 調査結果の送付について（問26、問27）

(3) 調査方法

調査方法は、自計式の郵送調査であり、調査期間は、平成 26 年 2 月 6 日（木）に調査票を発送し、2 月末日を調査票回収の締め切り日とした。併せて、本調査の周知と円滑な実施を図るため、地域包括支援センターを所管する市区町村主管課に対しても調査票のサンプルと調査協力依頼文の発送を行った。

- 平成 26 年 2 月 6 日（木）調査票発送
保険者（全市区町村）宛て 1,917 市区町村
地域包括支援センター宛て 4,834 センター
- 平成 26 年 2 月 28 日（金）調査票締め切り

この結果、平成 26 年 4 月 9 日（水）時点で全国 1,217 か所の地域包括支援センターから回答を得た（回収率 25.2%）。

(4) 調査実施における倫理的配慮

調査の実施に伴う倫理的配慮として、調査依頼文及び調査票の表紙に回答について厳重に秘密を守って統計処理を行い、センター名及び個人のプライバシーが外部に漏洩することはない旨を記すとともに、エディティング作業、コーディング作業、データ入力作業を通して、調査対象者や調査対象となった地域包括支援センターを特定することができないように必要に応じて、以下のように文章のマスキングを行った。

704	医師1名、民生委員1名、NPO代表1名、看護師1名、介護支援専門員2名、障害者施設管理者2名、ソーシャルワーカー2名、
705	地域包括支援センターの職員2人、介護支援専門員1人、民生委員1人、町内会役員2人、近隣住民1人など
706	市役所の職員1人、地域包括支援センターの職員4人社会福祉協議会職員3人、●●総合振興局1人、民生委員1人、町内会5人
707	市役所の職員1人、障害部門の市役所職員1人、地域包括支援センター職員2人、介護支援専門員1人、民生委員1人、自治会役
708	地域包括支援センターの職員5人、地域密着型サービス3人、福祉事務所職員1人、自治連絡会1人、警察2人、老人会1人、消
1174	記入例にプラスして民生委員1名、地域の中の本人とかかわりの深い住民1名～2名、警察1名、学校（地域に大学があるためそ
1175	役場福祉課職員（2～3人）、地域包括支援センター職員（3人）、社会福祉協議会職員（2～3名）、介護支援専門員10名
1176	●●市医師会1名、●●市歯科医師会1名、●●市薬剤師会1名、●●市民生・児童委員協議会3名、●●市地区福祉委員会3名、
1177	888
1178	地域包括支援センターの職員3人、民生委員2人、地域住民30人、自治会役員1人
1179	地域包括支援センター5人、町職員4人、在宅介護支援センター3人、認知症疾患医療センター1人、介護支援専門員1人（事例類
1180	888
1181	地域包括支援センター4人、市2人、居宅（12事業所より、1、2名ずつ）、ヘルパー3人、訪問看護1人、有料ホーム2人、グルー

マスキングされたデータ

(5) 集計方法

回収した調査票の集計にあたっては、エディティング作業とコーディング作業に係るガイドラインを作成し、当該ガイドラインに基づき、エディティングやコーディング作業を行い、その後、データの入力を行った。なお、エディティングからデータ入力までの作業については、非標本誤差を抑制するために、社会調査に関する一定のトレーニングを受けたことがある長崎純心大学人文学部生及び大学院生(延べ309人)が、原則として2人1組によるクロスチェックを行いながら作業することにした。



次に、入力されたデータに対して、ロジカルチェックをはじめ、入力ミスがないかを確認するためのデータクリーニングとその結果に基づくデータの修正を2回行い、無回答が顕著なケースを除く1,206件を分析対象とした。



調査結果の集計には、IBM SPSS Statistics 22を用いて、各種変数の度数分布(回答者数や該当者数)、比率、平均等の統計量の算出を行った。なお、本調査は郵送調査法による自計式の調査のため、質問項目によっては無回答が多く回答の分布に大きな偏りがある質問項目も少なくなく、分析結果に用いられている統計量の解釈については十分注意する必要があるということを指摘しておきたい。

1
ごあいさつ

(6) 調査結果

「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」から得られた各種変数の記述統計量等及び自由記述の分析については、以下の4報告として『純心現代福祉研究 第18号』に所収している。



- 3
実施計画書
- 4
教育
- 5
研究
- 報告Ⅰ「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要」
 - 報告Ⅱ「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要－地域ケア会議の主たる構成員に関する自由記述の分析－」
 - 報告Ⅲ「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要－地域ケア会議の開催要件に関する自由記述の分析－」
 - 報告Ⅳ「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要－地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析－」

6
行事

併せて、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページにも掲載している。

7
その他

【平成25年度 全国調査結果】

- ・「地域包括支援センターに関する全国調査の概要」(PDF)
- ・「地域ケア会議の主たる構成員に関する自由記述の分析」(PDF)
- ・「地域ケア会議の開催要件に関する自由記述の分析」(PDF)
- ・「地域包括ケアの推進要件に関する自由記述の分析」(PDF)

(<http://www.n-junshin.ac.jp/study/research/>)

6

行

事



長崎大学

平成 26 年 1 月 31 日	文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業 「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」 合同公開フォーラム
平成 26 年 2 月 15 日	つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 ～人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成～ キックオフシンポジウム
平成 26 年 2 月 27 日	平成 25 年度 下五島地区離島医療教育研究会
平成 26 年 3 月 6 日	平成 25 年度 上五島地区離島医療教育研究会
平成 26 年 3 月 24 日	平成 25 年度 第 1 回長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会
平成 26 年 3 月 31 日	平成 25 年度 第 1 回長崎地域包括ケア教育推進委員会
平成 26 年 5 月 29 日	平成 26 年度 対馬地区離島医療研究会
平成 26 年 5 月 16 日	第 4 回 長崎地域医療フォーラム
平成 26 年 7 月 11 日	長崎大学関連病院長会議
平成 26 年 7 月 18・19 日	第 46 回 日本医学教育学会大会 in Wakayama
平成 26 年 7 月 24 日	平成 26 年度 第 1 回長崎地域包括ケア教育推進委員会
平成 26 年 8 月 5 日	長崎大学地域医療連携センターオープンカンファレンス
平成 26 年 8 月 22～24 日	第 2 回 長崎地域医療セミナー in GOTO
平成 26 年 9 月 25 日	平成 26 年度 第 1 回長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会
平成 26 年 12 月 19 日	平成 26 年度 第 2 回長崎地域包括ケア教育推進委員会

1
ごあいさつ2
事業概要3
実施計画書4
教育5
研究6
行事7
その他

1. シンポジウム

キックオフシンポジウム

つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築—人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—キックオフシンポジウムには長崎県内の多くの関係機関から合計 104 名の参加があった。本事業の内容説明や取り組み内容の情報発信を行うことができ本事業の公表・普及につなげることができた。

内 容

開催日時：平成 26 年 2 月 15 日（土）16:00～18:00

会 場：ホテルニュー長崎

16:00

開会

挨拶

長崎大学医学部長

長崎純心大学長

文部科学省高等教育局医学教育課長

下川 功

片岡千鶴子

袖山 禎之

16:30

事業内容の説明

長崎大学地域包括ケア教育センター長

長崎市での取り組み紹介

長崎市包括ケアまちなかラウンジ主幹

永田 康浩

小川富美子

17:00

特別講演

『超高齢社会における地域包括ケアシステムの構築 ～医療・介護を中心として～』

公立みつぎ総合病院 名誉院長・特別顧問 山口 昇 先生

18:00

閉会

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業
「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」
つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築
—人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—
キックオフシンポジウム
日時 平成26年2月15日(土) 16時～18時 会場 ホテルニュー長崎
長崎市大黒町14番5号 TEL 095-826-8000(代)

つなぐ医療
～地域の臨床現場へと誘う道標～

本事業の目的は、将来の超高齢化社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医の養成です。
本シンポジウムでは、プロジェクトの事業内容紹介と長崎市における「地域包括ケア」の取り組みについて紹介します。
また特別講演として、我が国の地域包括ケアシステムの草分けである、公立みつぎ総合病院 名誉院長 山口昇先生を特別講演にお招きしました。
多くの皆様のご参加をお待ちしております。

シンポジウム参加者 計 104 名

長崎県医師会	2
長崎市医師会	4
長崎県	6
長崎市	4
長崎県薬剤師会	1
長崎県栄養士会	1
長崎県看護協会	1
長崎県言語聴覚士会	1
長崎県作業療法士会	1
長崎みなとメディカルセンター 市民病院	4
市中病院（歯科薬局含む）	10
リハビリテーション病院	14
高齢者施設	1
地域包括支援センター	3
訪問看護ステーション	2
長崎県立大学	3
長崎純心大学	10
長崎大学	33
演者	3
計	104



地域関係者向けアンケート集計結果

参加者へのアンケートを実施し、本事業に望まれていることや、学生を受け入れるにあたっての不安点等が明確になった。

I. 参加者の特性

Table1. Characteristics 参加者背景[N=49]

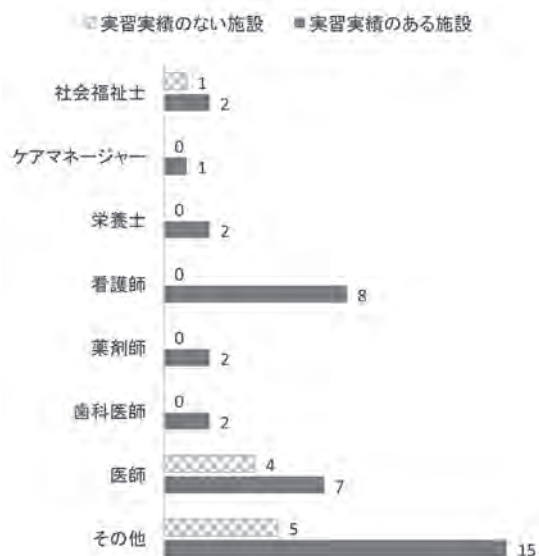
所属	実習受け入れ実績の有無	
	あり[n=39]	なし[n=10]
在宅支援診療所	0	1
一般診療所	0	1
病院	19	2
高齢者施設	0	1
地域包括支援センター	2	0
市町村	1	0
地方自治体	2	3
教育機関	10	0
その他	5	2
職種		
医師	7	4
歯科医師	2	0
薬剤師	2	0
看護師	8	0
栄養士	2	0
ケアマネージャー	1	0
社会福祉士	2	1
その他*	15	5
性別		
女性	18	1
男性	16	8
未回答	5	1
年齢		
30代	12	1
40代	8	1
50代	6	3
60代以上	8	4
未回答	5	1
平均経験年数[SD]		
	21.0 [SD 10.2]	28.0 [DS 12.4]

*その他内訳:教育職、行政職、事務職、保健師、OT、PT、ST、臨床心理士

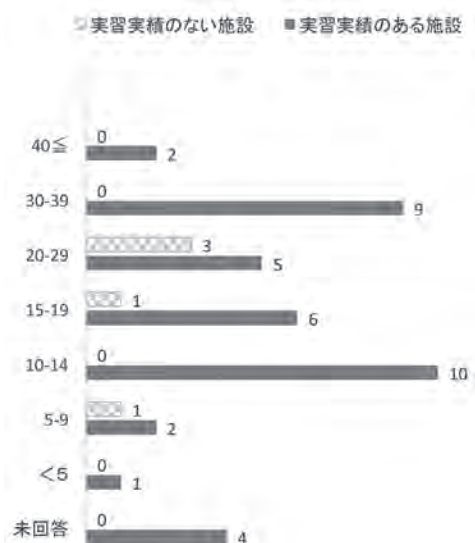
所属施設

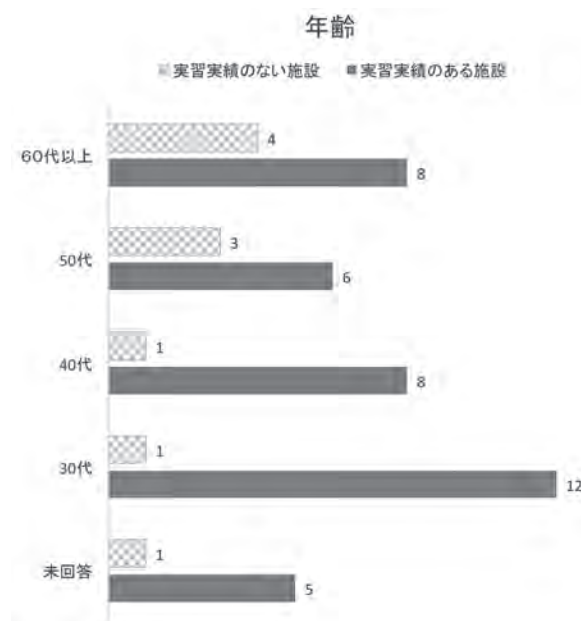
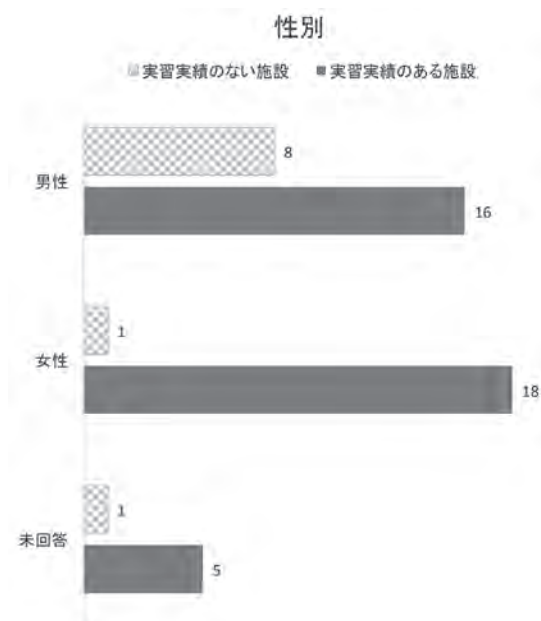


職種

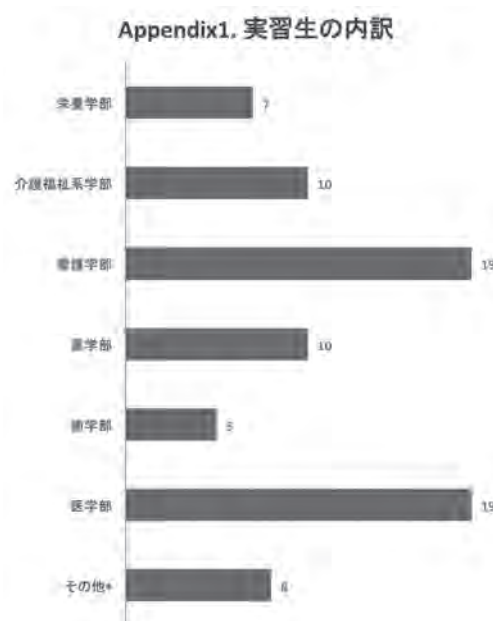
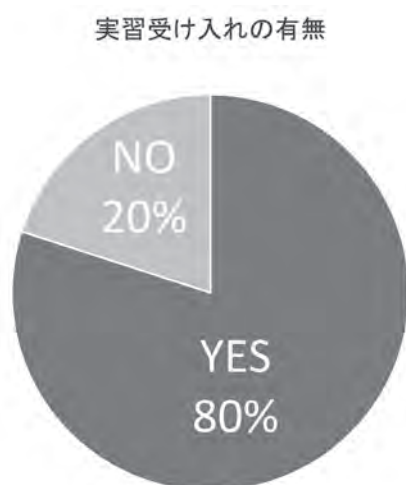


職務経験年数

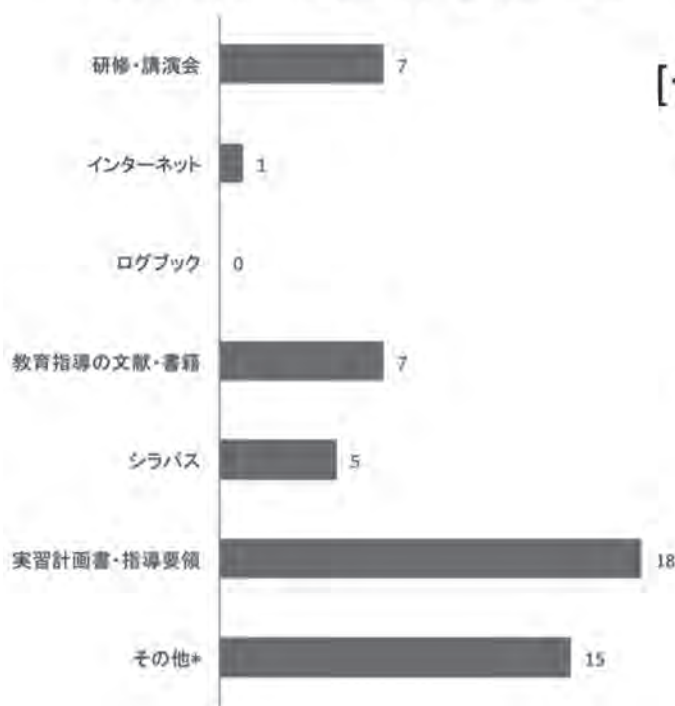




Ⅱ. 地域包括ケア教育に関すること



Appendix2. 活用している教育資源

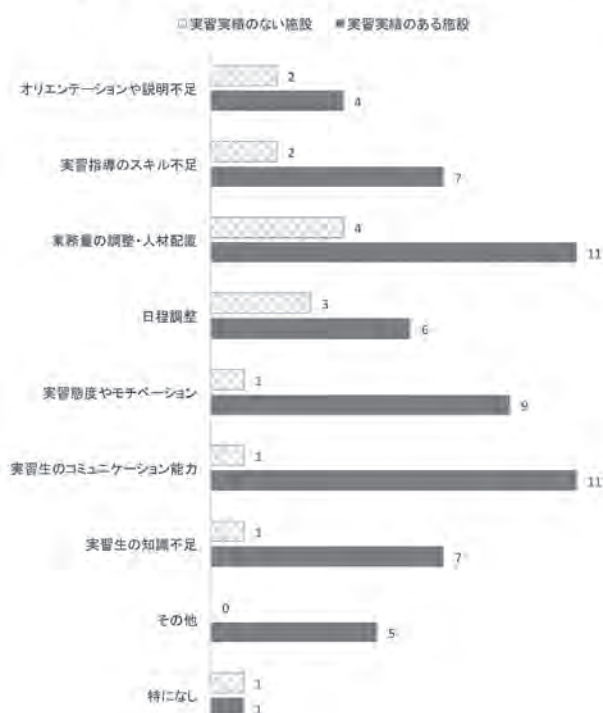


[その他詳細]

- － 院内における教育方針やマニュアル
- － 担当教員の巡回指導
- － 専門職に関する文献
- － 学生からのレポート(何に興味をもてたのか、何を知ることができたのかを理解することができる)

教育実習に関する地域の意見（1）

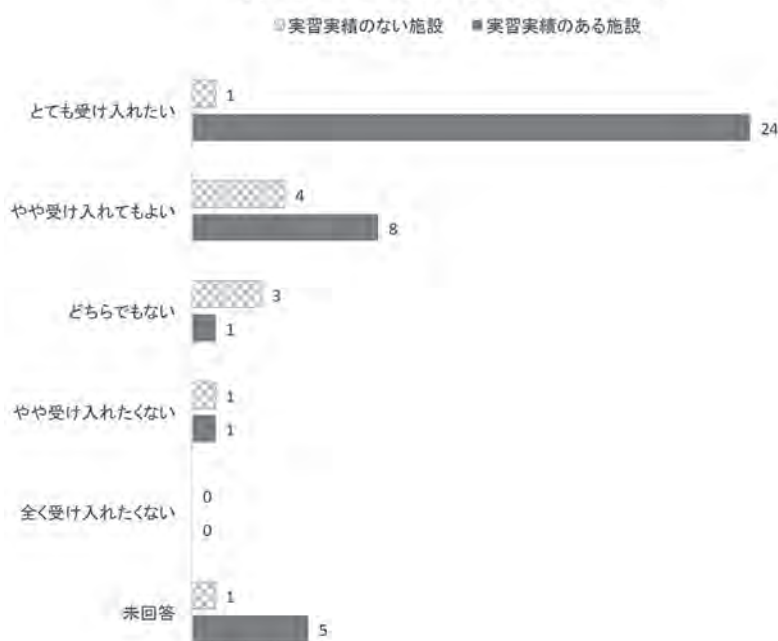
Appendix3. 実習受け入れの問題点



[その他詳細]

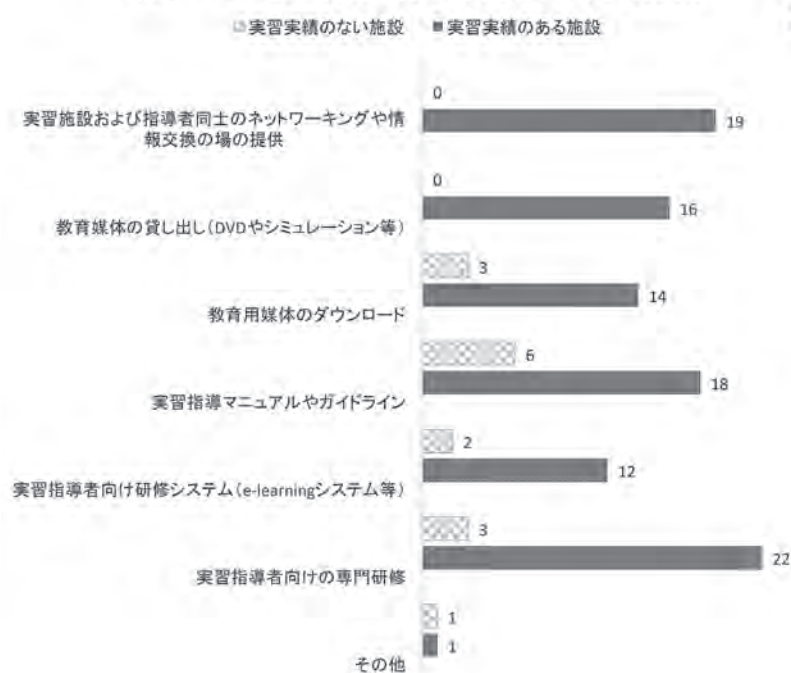
- － 教科書や文献を探し必要な情報を得ず、インターネットで検索したものをPCでまとめ内容の理解がないまま形だけ完成してしまうこと。
- － 宿泊施設
- － 栄養士の病院実習において、卒後の就職先として病院を希望しない学生への指導は受け入れが困難なことが多い。
- － 学生の問題もあるが、教育する側、臨床の指導者、現場のスタッフの問題が大きいように思う。
- － 学生の実習態度によって受け入れ側の対応も変わる。より良い実習のためには学生のモチベーションが大事である。

Appendix4. 今後の受け入れについて



教育実習に関する地域の意見（2）

Appendix5. 学生実習であれば良いと思う教育資源



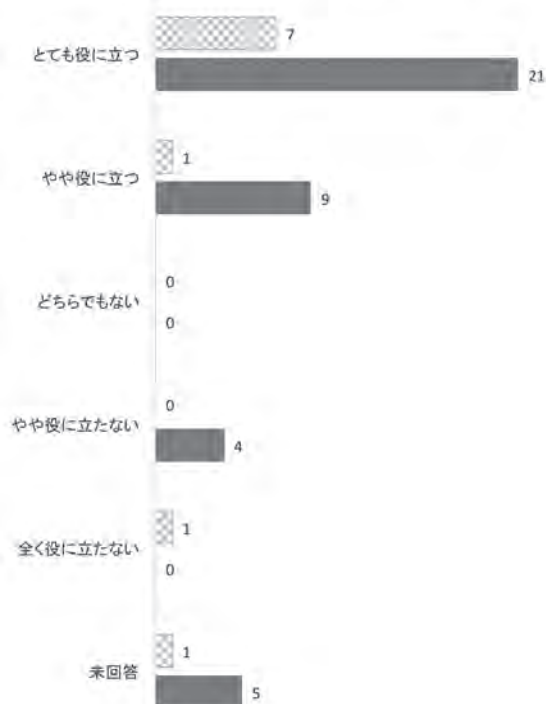
（その他詳細）

- － 遠隔診療では望ましくない(ネットを使ったりすること), きちんと対面で診療すべき.

Ⅲ. シンポジウムの評価

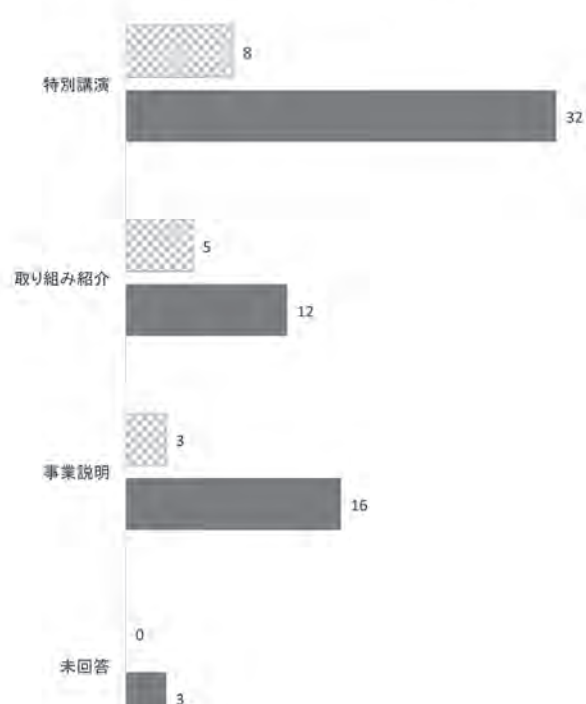
Appendix6. シンポジウムの評価

■ 実習実績のない施設 ■ 実習実績のある施設



Appendix7. 役に立ったコンテンツ

■ 実習実績のない施設 ■ 実習実績のある施設



〈センターに寄せられた意見〉

- 地域包括ケアへの取り組みを知ることができた。
- 長崎大学・長崎市医師会の取り組みを知ることができた。
- 大変勉強になりました。
- リハビリの視点も含んでほしい。
- 学生や住民の斬新なアイデアを盛り込みながら専門的な視点を持ち、取り組むために「まちななかラウンジ」は大きな役割を持つと考えた。
- 連携が大切なら、リハビリテーションを単に機能改善の手段と取らず、自立支援ということを理解してほしい。
- PT・OT・ST という名称を明記してほしい（パンフレット等）。
- 山口先生の講演が素晴らしかった。

2. 学 会

文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業

「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」合同公開フォーラム

日 時 : 平成 26 年 1 月 31 日 (金)
会 場 : 筑波大学東京キャンパス文京校舎

本フォーラムでは、将来の超高齢社会における地域包括ケアシステムに対応できるリサーチマインドを持った優れた総合診療医等を養成することを目的に選定された 15 大学におけるプロジェクト内容を紹介し、情報交換するとともに、本事業への期待される役割と今後の展望についてパネルディスカッションが行われた。

第一部においては特別講演として文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室長の手島英雄様より、本事業背景や各プロジェクトに対して期待することなど講演が行われた。

第二部においては、15 大学の事業取組に関して、ポスター発表が行われ、当センターでは助教の牟田久美子先生が代表で発表した。各大学の取組み内容はいずれも興味深い内容で、本事業の情報交換の場としてもとても有意義な時間であった。

第三部においては、「本事業に期待される役割と今後の展望」と題して、シンポジウムが行われ、シンポジストの先生方による貴重な講演とその後に行われたパネルディスカッションでは、総合診療医の重要性と、その育成・輩出に対する取り組みへの期待、地域・社会から望むこと等、各方面からのご意見を聞くことができ、改めて、本事業に対する社会の期待を感じた。



発表者
地域包括ケア教育センター
助教 牟田久美子先生

安心のゆくえ

社会保障制度改革の現場から

地域包括ケアシステムの課題

■ 5 ■

「電気毛布が少し熱いので、スイッチを切った方がいかもしれませんね」。2月中旬、茨城県桜川市の大和クリニックで研修中の細井崇弘医師（28）は80代のパーキンソン病の女性に話し掛けた。女性はほとんど動けないため、床ずれを防ぐクッションの位置も確かめた。この日は看護師、筑波大付属病院の浜野淳医師（37）と共に、この女性も含め4人の患者を訪問した。

担う医師の養成に力

在宅医療

本格的に学べる場所はなかった。高齢者の生活を支える医師を育てるには、きめ細かい配慮と臨機応変な対応を教える場は必要だ」と話す。

高齢化が進むと、認知症になったり、高血圧症や糖尿病など複数の慢性疾患をかかえたりする患者が増える。在宅の高齢者を医療と介護が連携して支える「地域包括ケアシステム」を機能させるには、横断的な広い知識を持つ医師が必要だ。政

府は2025年までに医師数を現在より3万〜4万人増やし、32万〜33万人とする目標を掲げているが、在宅医療を担う医師を養成する取り組みは始まったばかりだ。

大学の医学部を管轄する文部科学省は、13年度から筑波大や新潟大など15大学で、在宅医療を担う医師を育てるモデル事業を始めた。

地域医療に力を入れる長崎大では、教育センターをつくり、すべての医学部生が幅広い能力を身につけられるよう低学年から指導。長崎市内を中心に、地域の病院や介護施設とも連携しながら、卒業後も継続して経験を



細井崇弘医師④に助言する筑波大付属病院の浜野淳医師⑤＝2月、茨城県桜川市

療では、医師や看護師、ケアマネジャーら医療、介護の関係者がお互いの専門知識を生かしながらチームとして患者や家族を支援するのが重要だと、12年度から在宅医

療を推進する指導者の研修を都道府県単位で始めた。13年度には、地域の看護師や薬剤師などさまざまな職種へも研修の対象を広げた。

医療関係者の間でも「高齢社会に対応できる医師の養成が必要」という機運が高まっている。厚労省の「専門医の在り方に関する検討会」で「総合診療医」新設が決まり、17年度から研修が始まる。

仕組みづくりを担当する日本専門医制評価・認定機構の池田康夫理事長は「医療界はこれまで縦割りでは考えがらなかった。厚労省や文科省、学会といったそれぞれの利害を超えて、将来必要な医師を育てなければならぬ」と話す。詳細はまた検討段階だ。

（おわり）

第 46 回日本医学教育学会大会 in Wakayama

日 時：平成 26 年 7 月 18 日（金）～ 19 日（土）

会 場：和歌山県立医科大学紀三井キャンパス

発表形式：一般演題ポスター

発表テーマ：「長崎大学地域包括ケア教育センターにおける新たな臨床実習教育の試み」

抄録

「長崎大学地域包括ケア教育センターにおける 新たな臨床実習教育の試み」

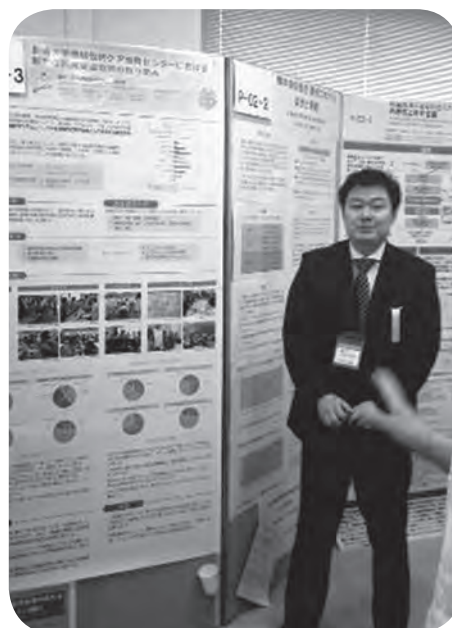
The role of our center of comprehensive community
care education on clinical practice

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター、*先端医育支援センター、**地域医療学分野
松坂雄亮、植木郁子、濱口由子、牟田久美子、石居公之、
久芳さやか、安武 亨*、前田隆浩**、永田康浩

近年、医学教育においては卒前から臨床現場で実践教育を行うことの重要性が強調されている。

長崎大学では、平成 25 年度の文部科学省企画「未来医療研究人材養成拠点形成事業」による「つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築 一人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成」が動き出した。本事業遂行のため設立された長崎大学地域包括ケア教育センター（以下センター）では、地域包括ケアフィールドで活躍できる人材の育成を目指し、初期から他大学および地域と協力して多職種連携教育を推進している。また同時に総合診療能力の育成に結びつく教育プログラム、および教育ツールの開発も手掛けている。

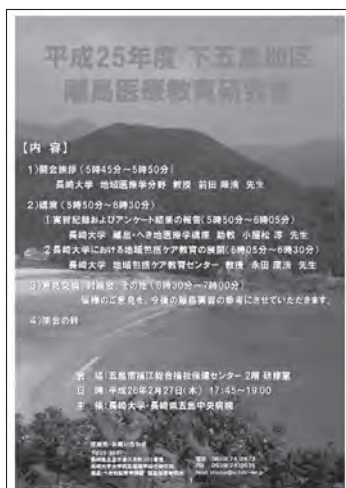
長崎大学医学部では、学部教育の初期から臨床現場に赴いて医学教育効果を高めること目指し、これまでも地域で活動する医療従事者による講演や診療所・施設などでの学外実習を主体とする「医と社会」を 1 年次から 4 年次にかけて行い、医療現場との接点を意識した教育を進めてきた。しかしながら、平成 26 年 2 月にセンターが実習施設を対象に行ったアンケート調査では、学内で習得した臨床技能が臨床実習現場で活かされていない実態が伺われた。そこで、専門診療科の教育に先立ちセンター主導による早期臨床教育として、平成 26 年度より基本的臨床技能に加え超音波検査などの実践的臨床教育を行うこととした。今回は、センターの取組みを含めて、「医と社会」における臨床実習の新たな取り組みについて紹介する。



発表者
地域包括ケア教育センター
助教 松坂 雄亮先生

3. セミナー・研究会

平成 25 年度 下五島地区 離島医療教育研究会



日 時：平成 26 年 2 月 27 日（木）17:45～19:00

場 所：五島市福江総合福祉保健センター 2 階 研修室

内 容：①実習記録およびアンケート結果の報告

長崎大学離島・へき地医療学講座 助教 小屋松 淳先生

②長崎大学における地域包括ケア教育の展開

長崎大学地域包括ケア教育センター 教授 永田 康浩先生

主 催：長崎大学、長崎県五島中央病院

参加者：36 名



平成 25 年度 上五島地区 離島医療教育研究会



日 時：平成 26 年 3 月 6 日（木） 17:30 ～ 19:00

場 所：長崎県上五島病院 3 階 会議室

内 容：①実習記録およびアンケート結果の報告

長崎大学離島・へき地医療学講座 助教 小屋松 淳先生

②長崎大学における地域包括ケア教育の展開

長崎大学地域包括ケア教育センター 教授 永田 康浩先生

③上五島における地域包括ケアの新たな取り組み

長崎県病院企業団長崎県上五島病院 院長 八坂 貴宏先生

主 催：長崎大学、長崎県上五島病院

参加者：37 名



平成 26 年度 対馬地区 離島医療教育研究会

日 時：平成 26 年 5 月 29 日（木） 18:30 ～ 20:00

場 所：長崎県対馬いづはら病院 2 階 大会議室

内 容：実習記録およびアンケート結果の報告

長崎大学離島・へき地医療学講座 助教 小屋松 淳先生

講演 座長：長崎県対馬いづはら病院 院長 川上 眞寿弘先生

①福岡大学の医学教育について

福岡大学 医学部教育計画部 教授 出石 宗仁先生

②長崎純心大学医療・福祉連携センターにおける地域包括ケアへの取り組み

長崎純心大学 医療・福祉連携センター 准教授 宮野 澄男先生

③長崎大学における地域包括ケア教育の展開 - 離島に学ぶ未来の医療 -

長崎大学 地域包括ケア教育センター 教授 永田 康浩先生

主 催：長崎大学、長崎純心大学医療・福祉連携センター

長崎県中対馬病院、長崎県対馬いづはら病院、対馬市

参加者：57 名

**平成26年度 対馬地区
離島医療教育研究会**

1) 開会挨拶および医療における最近の話題について
長崎大学 地域医療学分野 教授 前田 隆浩 先生

2) 実習記録およびアンケート結果の報告
長崎大学 離島・へき地医療学講座 助教 小屋松 淳 先生

3) 意見交換、討論会
皆様のご意見を、今後の離島医療保健実習の参考にいたします。

4) 講演(7時20分 開始予定)
座長：長崎県対馬いづはら病院 院長 川上 眞寿弘 先生

①福岡大学の医学教育について
福岡大学 医学部教育計画部 教授 出石 宗仁 先生

②長崎純心大学医療・福祉連携センターにおける
地域包括ケアへの取り組み
長崎純心大学 医療・福祉連携センター 准教授 宮野 澄男 先生

③長崎大学における地域包括ケア教育の展開
- 離島に学ぶ未来の医療 -
長崎大学 地域包括ケア教育センター 教授 永田 康浩 先生

5) 閉会の辞

会 場：対馬いづはら病院 大会議室
日 時：平成26年5月29日(木) 18:30～
主 催：長崎大学・長崎純心大学医療・福祉連携センター
長崎県中対馬病院・長崎県対馬いづはら病院・対馬市

連絡先・お問い合わせ 〒853-8691 長崎県五島市吉久木町205番地
長崎大学大学院医学部総合研究科
離島・へき地医療学講座 離島医療研究所
電話 0959 (74)2673 FAX 0959 (74) 2635
Email: ritouken@vc.fctv-net.jp

第4回長崎地域医療フォーラム

日 時：平成 26 年 5 月 16 日（金） 18:00 ～

場 所：長崎大学医学部良順会館 2 階ボードインホール

内 容：「これからの地域医療教育について～次世代地域医療人を育てるために～」

Opening remarks

長崎大学医学部医学科 先端医育支援センター 教授 安武 亨 先生

座 長：長崎大学大学院 地域医療学分野 教授 前田 隆浩 先生

(1) 「地域医療実習、いつ行えばいいの？ 今でしょ！～学生に合わせた地域医療実習～」

鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 地域医療学分野 教授 大脇 哲洋 先生

座 長：長崎大学大学院 地域包括ケア教育センター 教授 永田 康浩 先生

(2) 「地域で総合診療医を育てたい」

垂水市立医療センター垂水中央病院 病院長 安部 智 先生

主 催：長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 地域医療学分野

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター

参加者：66 名

第4回 長崎地域医療フォーラム

「これからの地域医療教育について
～次世代地域医療人を育てるために～」

地域医療を取り巻く環境が大きく変化する中、地域医療の現場で行う実践教育の重要性が指摘されています。長崎大学では、地域中核病院と島嶼で学ぶ地域包括医療教育に力を入れてまいりました。この度、地域医療教育をさらに充実させるため、下記の通り第4回長崎地域医療フォーラムを開催いたします。ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、地域医療教育の御担当者をはじめ、多数のご出席を賜りますようお願い申し上げます。

日時/5月16日(金)18:00～ 会場/長崎大学医学部 良順会館2F ボードインホール

Opening remarks
長崎大学医学部医学科 先端医育支援センター 教授 安武 亨 先生

座長 | 長崎大学大学院 地域医療学分野 教授 前田 隆浩 先生
(1) 「地域医療実習、いつ行えばいいの？ 今でしょ！
～学生に合わせた地域医療実習～」
鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 地域医療学分野 教授 大脇 哲洋 先生

座長 | 長崎大学大学院 地域包括ケア教育センター 教授 永田 康浩 先生
(2) 「地域で総合診療医を育てたい」
垂水市立医療センター 垂水中央病院 病院長 安部 智 先生

【問い合わせ先】
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療学分野
TEL: 095-819-7189 FAX: 095-819-7189
e-mail: crminfo@ml.nagasaki-u.ac.jp

主催 | 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 地域医療学分野 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター



第2回長崎地域医療セミナー in GOTO

日 時：平成26年8月22日（金）～8月24日（日）
 場 所：五島市富江町公民館3階ホール
 主 催：長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会
 共 催：五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院、長崎純心大学医療・福祉連携センター
 協力施設：にのさかクリニック、五島市伊福貴診療所、五島市黄島出張診療所、長崎県富江病院、
 徳州会グループ、福岡青洲会病院、NPO 法人島の医療とくらしを考える会
 見学施設：五島市伊福貴診療所、五島市黄島出張診療所
 参 加 者：学生36名



第2回 長崎地域医療セミナー in GOTO 特別講演のご案内



「しまで学ぶ！感じる！つみあげる！」

地域医療の必要性が広く認識され、現場での教育が重要視されています。長崎大学では地域医療を志す学生に対し、医療を通じた地域との早期の関わり合いを提供し、離島やへき地で貢献できる医療人の育成を目指しています。この度「第2回 長崎地域医療セミナー in GOTO」を開催するにあたり下記の特別講演を企画いたしました。ご多忙の折、大変恐縮ではございますが、多数の出席を願いますようお願い申し上げます。

【特別講演】

「いのちを受けとめるまちづくり～在宅ホスピスのススメ」

医療法人 にのさかクリニック 院長 ニノ坂 保喜 先生

座長：長崎大学 地域医療学分野 前田 隆浩 先生

日 時：平成26年8月23日（土）15:00～

会 場：五島市富江町公民館3階ホール

住 所：五島市富江町富江170番地8 TEL:0959-86-1170

【連絡先】

〒853-8691

長崎県五島市吉久木町205番地（長崎県五島中央病院内）

長崎大学 離島・へき地医療学講座 離島医療研究所

TEL:0959-74-2673 FAX:0959-74-2635

E-mail:ritouken@vc.fctv-net.jp



主催：長崎大学、長崎地域医療セミナー実行委員会

共催：五島市、五島医師会、長崎県五島中央病院、長崎純心大学医療・福祉連携センター



4. 各種委員会

平成 25 年度

第 1 回長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会

日 時：平成 26 年 3 月 24 日（月）15:00 ～ 16:00

場 所：長崎大学医学部研修・打ち合わせ室

参加総数：17 名



1. 報告事項

- 事業内容概要について
- 平成 25 年度年次計画進捗状況について
次年度カリキュラム再編に参画
本事業の公表および推進のためのホームページ立ち上げ
NICE キャンパス科目設定
キックオフシンポジウムの開催
地域包括ケアシステムの課題分析のための調査

2. 協議事項

- 平成 26 年度事業計画について
連携大学院地域包括ケア学講座開講
長崎地域包括ケア教育評価委員会開催
- 長崎地域包括ケア教育評価委員会委員について

	氏名	機関名	職名
1	下川 功	長崎大学医学部	学部長
2	小路 武彦	長崎大学医歯薬学総合研究科	研究科長
3	河野 茂	長崎大学病院	病院長
4	松坂 誠應	長崎大学医学部保健学科	学科長
5	中山 浩次	長崎大学歯学部	学部長
6	中山 守雄	長崎大学薬学部	学部長
7	山田 幸子	長崎純心大学現代福祉学科	学科長
8	兼松 隆之	長崎みなとメディカルセンター市民病院	院長
9	奥 保彦	長崎市医師会	会長
10	松林 聰	長崎大学医歯薬学総合研究科	事務部長

平成 25 年度

第 1 回長崎地域包括ケア教育推進委員会

日 時：平成 26 年 3 月 31 日（月） 11:00 ～ 11:40

場 所：長崎大学医学部研修・打ち合わせ室

参加総数：17 名

1. 報告事項

- 事業内容概要について
- 平成 25 年度年次計画進捗状況について
 - 次年度カリキュラム再編に参画
 - 本事業の公表および推進のためのホームページ立ち上げ
 - NICE キャンパス科目設定
 - キックオフシンポジウムの開催
 - 地域包括ケアシステムの課題分析のための調査

2. 協議事項

- 平成 26 年度事業計画について
 - 連携大学院地域包括ケア学講座開講
- 長崎地域包括ケア教育評価委員会委員について

	氏名	機関名	職名
1	下川 功	長崎大学 医学部	学部長
2	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター	センター長
3	潮谷 有二	長崎純心大学 医療・福祉連携センター	センター長
4	大園 恵幸	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座総合診療学分野	教授
5	前田 隆浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野	教授
6	安武 亨	長崎大学 医学部先端医育支援センター	教授
7	浜田 久之	長崎大学病院医療教育開発センター	センター長
8	伊東 昌子	長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長

平成 26 年度

第 1 回長崎地域包括ケア教育推進委員会

日 時：平成 26 年 7 月 24 日（木）16:00～17:00

場 所：長崎大学医学部セミナー室 4・5

参加総数：20 名



1. 報告事項

- 平成 26 年度事業推進計画について
- 平成 26 年度事業進捗状況について
 - 医学科授業開始
 - 全学共修科目 NICE キャンパス長崎科目新規開講
 - 卒後臨床研修に地域包括ケア科目導入
 - 卒前教育共修
 - FD・SD
 - 大学院連携講座開講
 - フォーラム・研究会の開催
 - 社会活動
 - 平成 26 年度開催予定の委員会について

2. 協議事項

- 長崎地域包括ケア教育推進委員の変更について

	氏名	機関名	職名
1	下川 功	長崎大学 医学部	学部長
2	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター	センター長
3	潮谷 有二	長崎純心大学 医療・福祉連携センター	センター長
4	大園 恵幸	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座総合診療学分野	教授
5	前田 隆浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野	教授
6	安武 亨	長崎大学医学部先端医育支援センター	教授
7	浜田 久之	長崎大学病院医療教育開発センター	センター長
8	伊東 昌子	長崎大学病院メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長
9	伊東 博隆	長崎県福祉保健部	部長
10	吉峯 悦子	長崎市市民局福祉部	理事
11	高柳 公司	島原市池田病院	理学療法士
12	江田 佳子	長崎県佐々町住民福祉課 地域包括支援センター	係長

平成 26 年度

第 2 回長崎地域包括ケア教育推進委員会

日 時：平成 26 年 12 月 19 日（金）16:30 ～ 17:30

場 所：長崎大学医学部セミナー室 4・5

参加総数：23 名

報告事項

- 平成 26 年度事業推進計画について
 - 平成 26 年度事業進捗状況について
- 長崎大学
 教養教育（教養ゼミ・NICE キャンパス）
 医学部教育（医と社会・医学ゼミ）
 卒後臨床研修に地域包括ケア科目導入
 大学院連携講座開講記念市民公開講座
 研究・学会発表
 ICT を活用した臨床実習評価システム
- 長崎純心大学
 国内、海外視察・学会等への参加
 共修拡大に関する会議
 フォーラム・研究会の開催
 集中セミナーの開催



	委員	機関名	職名
1	下川 功	長崎大学 医学部	学部長
2	永田 康浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 地域包括ケア教育センター	センター長
3	潮谷 有二	長崎純心大学 医療・福祉連携センター	センター長
4	川崎 英二	長崎みなとメディカルセンター 市民病院 連携講座	教授
5	大園 恵幸	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科展開医療科学講座総合診療学分野	教授
6	前田 隆浩	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野	教授
7	安武 亨	長崎大学医学部先端医育支援センター	教授
8	浜田 久之	長崎大学病院医療教育開発センター	センター長
9	伊東 昌子	長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター	センター長
10	伊東 博隆	長崎県福祉保健部	部長
11	高柳 公司	島原市池田病院	理学療法士
12	江田 佳子	長崎県佐々町住民福祉課 地域包括支援センター	係長
13	吉峯 悦子	長崎市市民局福祉部	理事
14	坂本 良輔	長崎大学病院	研修医 1 年次
15	内田 直子	長崎大学医学部医学科	1 年生
16	赤瀬 温子	長崎純心大学現代福祉学科	4 年生
17	戸口 四郎	長崎純心大学現代福祉学科	3 年生

6

行

事



長崎純心大学

1. 研究会・講演会の開催

医療・福祉講演会

テーマ：「地域包括ケアシステムの構成要素について考える」

日 時：平成 26 年 3 月 25 日（火）13:00～17:00

場 所：長崎純心大学 S309 教室

主 催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

共 催：長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター

プログラム

- ① 長崎純心大学医療・福祉連携センター長 開会挨拶
- ② 講演Ⅰ（13:10～14:40）
演題：自己決定が困難な人への自己決定支援について
ー障がいがある人への地域生活支援からの学びー
講師：與那嶺司氏（神戸女学院大学 准教授 博士（学術））
（社団法人日本社会福祉士養成校協会国家試験合格支援委員会編集委員）
- ③ 休憩（14:40～14:50）
- ④ 講演Ⅱ（14:50～16:20）
演題：限界集落における地域包括ケアシステムへの取り組み
ー地域住民のエンパワメントに着眼してー
講師：渡辺裕一氏（武蔵野大学 准教授 博士（社会学））
（社団法人日本社会福祉士養成校協会国家試験合格支援委員会編集委員）
- ⑤ 討論とまとめ（16:20～16:55）
- ⑥ 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター長 閉会挨拶

参加者：57 名



なお、講演記録は長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。

(<http://www.n-junshin.ac.jp/study/research/>)

【平成25年度 講演会概要】

- ・長崎純心大学 潮谷 有二「地域包括ケアシステムの構成要素に関する講演会」(PDF)
- ・神戸女学院大学 與那嶺 司「自己決定が困難なひとへの自己決定支援について」(PDF)
- ・武蔵野大学 渡辺 裕一「限界集落における地域包括ケアシステムの取り組み」(PDF)



地域包括ケアシステムに関する研究会

テーマ：「地域包括ケアシステム構築への課題を探る」
 日 時：平成 26 年 7 月 31 日（木） 16:15 ～ 18:00
 場 所：長崎純心大学 J 棟大会議室
 主 催：長崎純心大学医療・福祉連携センター
 共 催：長崎純心大学ケアセンター扇町

プログラム

- ① 長崎純心大学長挨拶
- ② 発表 I
「地域包括ケアシステムの構築とケアセンター扇町」
長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二氏
- ③ 発表 II
「スクールソーシャルワーク活動から見える家族・地域」
長崎市教育委員会、純心中学校・純心女子高等学校
スクールソーシャルワーカー 木村 和子氏
- ④ 意見交換とまとめ
- ⑤ 長崎純心大学ケアセンター扇町所長 閉会挨拶

参加者：40 名



テキストマイニングに関する研究会

テーマ：「医療・福祉分野におけるテキストマイニングの可能性を探る」

日 時：平成 26 年 12 月 12 日（金）10:00 ～ 12:45

場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2

主 催：長崎純心大学医療・福祉連携センター

プログラム

① 長崎純心大学長挨拶

② 問題提起

「医療分野におけるテキストマイニングの可能性

ー長崎大学医学部学外地域医療実習を含めてー」

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野

教授 前田 隆浩氏

③ 講義

「医療・福祉分野におけるテキストマイニングの可能性」

長崎純心大学医療・福祉連携センター長 潮谷 有二氏

※ なお、テキストマイニングには、立命館大学の樋口 耕一氏が開発された KH Coder を
使用しました。

④ 意見交換とまとめ

参加者：22 名



2. 国内視察、地域包括ケアシステムに関する学会等への参加

地域医療フォーラム 2014

テーマ：「地域医療の未来への展開～多様な取り組みを共有し発展させる～」

日時：平成 26 年 9 月 14 日（日）10:00～19:30

場所：秋葉原ダイビル（東京都千代田区外神田）

主催：自治医科大学

後援：総務省、厚生労働省、文部科学省、全国知事会、公益社団法人日本医師会、公益社団法人全国自治体病院協議会、公益社団法人全国国民健康保険診療施設協議会、全国地域医療教育協議会

概要

- 開会
- 全体会Ⅰ 「小山市の取り組み」についての報告と課題の検討
 - ① フォーラム委員会からの報告 安田 是和氏（自治医科大学附属病院長）
 - ② 市行政からの報告 猿山 悦子氏（小山市保健福祉部健康増進課緑の健康づくり森推進室長）
 - ③ 拠点病院からの報告 島田 和幸氏（地方独立行政法人 新小山市民病院理事長）
 - ④ とちぎ地域医療支援センターの取り組みについて 渡辺 晃紀氏（とちぎ地域医療センター事務局長）
- 全体会Ⅱ 参考となる全国の事例の紹介
 - ① 秋田県の実例について 藤本 幸男氏（青森県健康福祉部次長）
 - ② 鹿児島県の実例について 前田 隆浩氏（長崎大学大学院医歯学総合研究科社会医療科学講座地域医療学分野教授）
 - ③ 新潟県の実例について 内田 健氏（医療法人社団 内田医院理事長）
 - ④ 岡山県の実例について 内藤 和世氏（京都市立病院長）
- 分科会 小山市の取り組みからの発展
 - 第1分科会 「秋田県の実例をもとにした検討」
座長 藤本 幸男氏 対馬 逸子氏（西北五地域医療研究会代表）
 - 第2分科会 「鹿児島県の実例をもとにした検討」
座長 前田 隆浩氏
大脇 哲洋氏（鹿児島大学医歯学総合研究科離島へき地医療人材育成センター教授）
 - 第3分科会 「新潟県の実例をもとにした検討」
座長 内田 健氏 今村 聡氏（公益社団法人 日本医師会福会長）
井口清太郎氏（新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座特任教授）
 - 第4分科会 「岡山県の実例をもとにした検討」
座長 内藤 和世氏 佐藤 勝氏（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座教授）
- 全体会Ⅲ 分科会からの報告 全員参加型ディスカッション
- 総括 北波 孝氏（厚生労働省医政局地域医療計画課長）
- 閉会

参加者：潮谷 有二教授、宮野 澄男准教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教



新潟大学医学部地域医療臨床実習視察

期 日：平成 26 年 10 月 20 日（月）～ 24 日（金）

場 所：新潟県立小出病院（新潟県魚沼市日渡新田）他

協 力：新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座

井口清太郎特任教授、吉嶺 文俊特任准教授、小川 洋平特任講師、黒川 允特任助教

佐藤 瞳技術補佐員、松山 景子技術補佐員

新潟県立小出病院 布施 克也院長、上村医院 上村 伯人院長 他

第1日目

- 井口教授による実習オリエンテーション
- 布施院長による禁煙教育打合せ
- 新潟大学「生活環境と健康についての聞き取り調査」住民説明会



第2日目

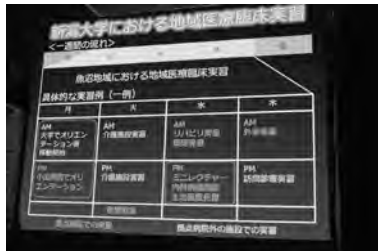
新潟大学医学部実習生とともに、以下の実習施設を訪問

- 社会福祉法人魚沼福祉会「ディサービスセンターひまわり」
 - ・青木 繁 センター長（介護支援専門員）による概要説明と介護実習視察
- 社会福祉法人魚沼市社会福祉協議会「在宅介護支援センター湯之谷」
 - ・大平 妙子 管理者（主任介護支援専門員）による概要説明
 - ・A（92 歳・女性）氏宅を訪問（月 1 回のモニタリング）
 - ・B（66 歳・男性）氏宅を訪問（サービス担当者会に同席）
 - ・C（92 歳・男性）氏宅を訪問（月 1 回のモニタリング、訪問看護と同席）



第3日目

- 井口教授による新潟大学医学部地域医療実習の概要説明
- ランチョンカンファレンス（新潟大学医学部とのテレビ会議）
- 魚沼市立中学校禁煙教育を参観
- 地域医療魚沼学校視察（概要説明会）
- 内科病棟回診見学
- 地域医療魚沼学校視察（医療従事者学習会）



第4日目

- 魚沼基幹病院職員集合研修会へ参加
 - ・ 講演Ⅰ「魚沼基幹病院に期待するもの」
新潟大学大学院医歯学総合研究科総合地域医療学講座
特任教授 井口清太郎氏
 - ・ 講演Ⅱ「麻酔管理とは」
新潟大学総合病院麻酔科教授 紙谷 義孝氏
 - ・ 講演Ⅲ「魚沼基幹病院救急センターの使命」
新潟大学総合病院高次救命救急センター助教 山口 征吾氏



第5日目

- 新潟大学医学部地域医療実習総括



参加者：宮野 澄男准教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

2014 年度全国社会福祉教育セミナー

テーマ：「生活困窮・地域自立生活支援をめぐる社会福祉教育の拡がりと核心」

期 日：平成 26 年 11 月 1 日（土）～ 2 日（日）

場 所：日本福祉大学美浜キャンパス（愛知県知多郡美浜町奥田）

主 催：（一社）日本社会福祉教育学校連盟、（一社）日本社会福祉士養成校協会
（一社）日本精神保健福祉士養成校協会

後 援：文部科学省、厚生労働省、法務省、（社福）全国社会福祉協議会、（公社）日本介護福祉士養成施設協会、（公社）日本社会福祉士会、（公社）日本精神保健福祉士協会、（公社）日本医療社会福祉協会、認定社会福祉士認証・認定機構、ソーシャルケアサービス従事者研究協議会他

概 要

第 1 日目

- 開会
- 基調講演 「地域自立生活支援とコミュニティソーシャルワーク」
大橋 謙策氏（東北福祉大学大学院教授・日本福祉大学客員教授）
- シンポジウム
「生活困窮者自立生活支援の政策と実践－社会福祉教育への期待－」
シンポジスト 熊木 正人氏（厚生労働省社会援護局地域課生活困窮者自立支援室長）
勝部 麗子氏（豊中市社会福祉協議会事務局次長）
新保 美香氏（明治学院大学教授）
コメンテーター 和田 敏明氏（ルーテル学院大学教授）
コーディネーター 原田 正樹氏（日本福祉大学教授）

第 2 日目

- 分科会
第 1 分科会 「スクール（学校）ソーシャルワーカーの活用をめぐる動向とさらなる実践力の向上に向けて」
司会者 潮谷 有二氏（長崎純心大学教授）
基調講演者兼コーディネーター 山野 則子氏（大阪府立大学教授）
報告者 幸重 忠孝氏（幸重社会福祉士事務所代表）
藤本 一人氏（名古屋市教育委員会子ども応援室）
内藤 敏也氏（文部科学省初等中等教育局児童生徒課長）
佐藤 博氏（厚生労働省社会・援護局生活困窮者自立支援室地域支援対策専門官）

第 2 分科会～第 8 分科会 一省略ー



- 特別シンポジウム
「社会福祉学を学ぶ学生が習得すべき基本的素養と福祉マインドー日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会提言・報告ー」
コーディネーター 白澤 政和氏（日本学術会議会員・桜美林大学大学院教授、日本福祉大学客員教授）
報告者 岩崎 晋也氏（法政大学教授）、牧里 每治氏（関西学院大学教授）
野口 定久氏（日本福祉大学教授）
- 閉会

参加者：潮谷 有二教授、宮野 澄男准教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

第 20 回長崎県介護老人保健施設研究大会

テーマ：「地域包括ケアシステム構築の中での老健の役割ー様々なニーズに対応できる専門性とはー」

日 時：平成 26 年 11 月 4 日（火） 13:00 ～ 17:30

場 所：長崎ブリックホール国際会議場（長崎市茂里町）

主 催：一般社団法人 長崎県老人保健施設協会

後 援：長崎県、長崎市

概 要

○ 開会 開会宣言

○ 主催者挨拶

○ 来賓挨拶

○ 市民公開講座

テーマ：「これからの地域包括ケアシステムの在り方」

講 師：潮谷 有二氏（長崎純心大学教授 長崎純心大学医療・福祉連携センターセンター長）

宮野 澄男氏（長崎純心大学医療・福祉連携センター 准教授）

座 長：田川 雅浩氏（一般社団法人 長崎県介護老人保健施設協会 副会長）



○ 長崎県老人保健施設協会 専門部研究発表

① 看護・介護部 座長 白崎 有子氏（中の里 介護主任）

県北地区代表 溝上 祥子氏（サン 看護長）

県央地区代表 大澤 真理氏（真寿園 介護主任）

県南地区代表 山下幸一郎氏（三原の園 介護福祉士）

② 栄養・給食部 座長 毛利 千鶴氏（コスモスガーデンさくらの里 管理栄養士）

県北地区代表 大石 尚代氏（長寿苑 管理栄養士）

県央地区代表 森屋 有紀氏（さざなみ 管理栄養士）

県南地区代表 北田 悟氏（エスポアルそとめ 管理栄養士）

③ リハビリテーション部 座長 澤田由井子氏（サクラ 作業療法士）

県北地区代表 池田 聖香氏（さざ・煌きの里 理学療法士）

県央地区代表 小川 謙一氏（恵風園 理学療法士）

県南地区代表 當麻 俊久氏（中の里 理学療法士）

④ 支援相談員・介護支援相談員 事務局 座長 伊藤 大輔氏（松寿園 支援相談員）

県北地区代表 三輪屋 静氏（サクラ 支援相談員）

県央地区代表 田中 拓朗氏（老健おばま 支援相談員）



○ 閉会

参加者：奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター

永田 康浩センター長・教授、濱口 由子助教、濱田 恵子連携調整員

平尾加奈子事務、小川 若菜事務

第3回 全国シンポジウム

日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、
理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2014

テーマ：「世界の視点から、日本の国情に合ったパフォーマンスレベルの医学教育／研修保証を考える
ー多職種連携教育／研修（Interprofessional education）から職種を超えた連携教育／研修（Transprofessional education）充実のためにー」

日時：平成26年11月15日（土）12:00～18:00

場所：秋田キャッスルホテル（秋田市中通）

主催：秋田大学医学部、秋田大学医学部附属病院

共催：全国地域医療教育協議会、あきた医師総合支援センター、秋田医学会

後援：秋田県、秋田県医師会、秋田県歯科医師会、秋田県薬剤師会、秋田県看護協会
秋田県病院協会、秋田県病院薬剤師会

概要

- 学生ポスターセッション ー学生の視点から医学教育改革を推進する 2014ー
 - ① 秋田大学
「すべての医師＝教育者」の理想に向けた医学生チューターの展開
 - ② 秋田大学
1年次英語医療面接 OSCE の意義を学生の視点から考える
 - ③ 秋田大学
1年次医学科・保健学科 PBL 合同セッションー多職種連携教育の充実に向けた学生視点からの提言ー
 - ④ 鹿児島大学
鹿児島大学地域枠制度による地域医療マインド形成
 - ⑤ 鹿児島大学
これまでの地域枠実習で見えてきたこと
 - ⑥ 長崎大学・長崎純心大学
第2回 長崎地域医療セミナー IN GOTO
島を訪ね、多職種の卵たちと学んだ2泊3日～セミナー概要～
 - ⑦ 長崎大学・長崎純心大学
第2回 長崎地域医療セミナー IN GOTO
地域包括ケアを知識から行動へ～ワークショップをきっかけに～
 - ⑧ 長崎大学
地域で多職種連携を体験し考えてみよう！
平戸の地域医療夏合宿、地域に出よう！ 地域で学ぼう！



- 主催者挨拶・来賓挨拶
- 基調講演 1 座長 伊藤 宏氏（秋田大学医学部長）
「医学教育の現状と課題 2014」
平子 哲夫氏（文部科学省高等教育局医学教育課 企画官）
- 基調講演 2 座長 羽瀧 友則氏（秋田大学医学部附属病院長）
「これからの卒後臨床研修と専門医制度 2014」
松崎 淳人氏（厚生労働省医政局医事課 課長補佐）
- 基調講演 3 座長 前田 隆浩氏（長崎大学大学院医歯学総合研究科社会医療科学講座
地域医療学分野教授 全国地域医療教育協議会代表世話人）
「21 世紀型社会のケアと医学教育…疾病転換とケアサイクル論からの提案」
長谷川敏彦氏（文部科学省 科学技術・学術政策研究所客員研究官 前 日本医科大学
医療管理学教室 主任教授）
- シンポジウム
「世界の視点から、日本におけるパフォーマンスレベルの医師・医療者研究者育成教育 /
研修保証を考えるー各分野横断的に必要な実践力修得へー」
座長 長谷川仁志氏（秋田大学大学院医学系研究科 医学教育学講座 教授）
大脇 哲洋氏（鹿児島大学医歯学総合研究科 国際島嶼医療学講座地域医療学分野教授）
- ① 「これからの家庭医療を考える 英国短期訪問プロジェクトで学んだ医療・多職種連携のしくみ」 増山由紀子氏（医療生協さいたま大井協同診療所 所長 日本医療福祉生協連家庭医学開発センター 福島県立医科大学大学院地域・家庭医療学専攻）
- ② 「医学教育の国際化におけるこれからの看護教育ーニューヨークからの提言ー」
手塚 ロンダリン氏（赤十字ボランティア極東代表 ニューヨーク看護師）
- ③ ネーティブ英語模擬患者による英語医療面接教育が日本の医学教育に及ぼす期待ー各大学医学部における私たちの取組からー」 芦田 ルリ氏（東京医科大学英語教室 講師）
- ④ 「マイアミ大学・ハーバード大学における臨床実習経験から日本の医学教育システムを考察する」 網谷真理恵氏（鹿児島大学医歯学総合研究科 離島へき地医療人材育成センター）
- ⑤ 「進む東南アジアの医学教育展開 日本への提言」 Loreto B. Feril, Jr 氏（福岡大学医学部解剖学講座 講師）
- ⑥ 「日本における Clinician-educator の養成とその役割について考える」 尾原 晴雄氏（沖縄県立中部病院総合内科 医長 内科研修プログラム副ディレクター）
- ⑦ 「ハーバード大での教員経験からみる日本の国情と医学・医療教育改革のヒント」
志賀 隆氏（東京ベイ・浦安 / 市川医療センター センター長補佐 救急科部長 地域医療振興協会シミュレーションセンター長）
- 特別講演 日本におけるチーム医療教育・研修の充実のために
「The future of Medical Education is now! Using simulation for team training ー医療教育の未来：シミュレーション教育による高いレベルのチーム医療育成のためにー」 Benjamin W Berg 氏（ハワイ大学医学部 SimTiki シミュレーションセンター 教授）

参加者：潮谷 有二教授、宮野 澄男准教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教
出雲 幸奈（長崎純心大学現代福祉学科 4 年）、加藤小百合（同 4 年）
戸口 四郎（同 3 年）



日本社会福祉学会第 62 回秋季大会

テーマ：「社会福祉は日本の未来をどう描くのか」
期 日：平成 26 年 11 月 29 日（土）～ 30 日（日）
場 所：早稲田大学 早稲田キャンパス（東京都新宿区）
概 要

第 1 日目

- 若手研究者のためのワークショップ
 - ・テーマ「研究法の違いによる研究の可能性と限界～多様なアプローチを学ぶ～」
 - ・研究計画発表者
 - 「研究計画の立案と分析」有村 大士氏（日本社会事業大学）
 - 「高等教育における福祉専門職の卒後教育の課題－アンケート調査を用いた量的研究方法によるアプローチ」畑 亮輔氏（北星学園大学）
 - 「ナラティブ・データを対象とした質的研究～テキストマイニングとナラティブ分析～」荒井 浩道氏（駒澤大学）
 - 「高等教育における卒後教育の課題－介護福祉士のキャリア発達プロセス・要因に基づく研修体系の構築を目指した研究デザイン－」鈴木 俊文氏（静岡県立大学短期大学部）
- 開会式
- 学会賞授賞式
- 大会シンポジウム
 - ・テーマ：「未来から求められる社会福祉の貢献を考える」
 - ・シンポジスト 木村 隆夫氏（日本福祉大学福祉経営学部・東海司法福祉研究会代表）
炭谷 茂氏（社会福祉法人恩賜財団済生会理事長・元環境事務次官）
佐藤 滋氏（早稲田大学理工学部・日本建築学会元会長）
白澤 政和氏（桜美林大学大学院・日本社会福祉学会前会長）
 - ・司会 田中 英樹氏（早稲田大学・日本精神障害者リハビリテーション学会会長）

第 2 日目

- □頭発表 A
- □頭発表 B
- 地域福祉 4 分科会
 - ・発表Ⅰ「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要（その 1）－関係機関等との連携状況に焦点を当てて－」（吉田 麻衣助教）
 - ・発表Ⅱ「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要（その 2）－地域ケア会議と業務状況に焦点を当てて－」（奥村あすか助教）



なお、発表資料は、長崎純心大学医療・福祉連携センターホームページに掲載している。
(<http://www.n-junshin.ac.jp/study/research/>)

【2014年11月30日（日）日本社会福祉学会 第62回秋季大会発表】

- ・「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要（その 1）」（PDF）
- ・「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要（その 2）」（PDF）

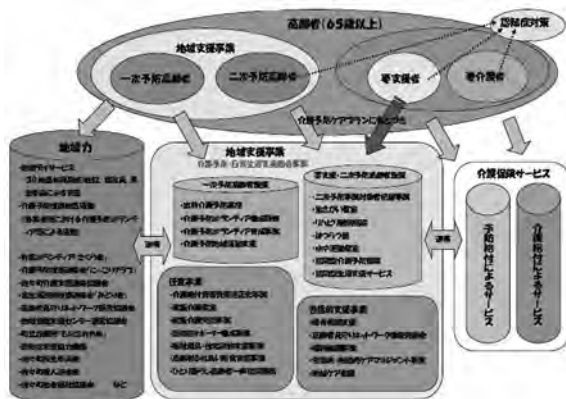
参加者：潮谷 有二教授、宮野 澄男准教授、奥村あすか助教、吉田 麻衣助教

3. 地域ケア施設等訪問

長崎県内

(1) 佐々町地域包括支援センター

- ・日 時：平成 26 年 2 月 12 日（水）16:00～17:40
- ・内 容 ① 地域包括ケアに向けた佐々町の取り組みについて
② 地域ケア会議開催について



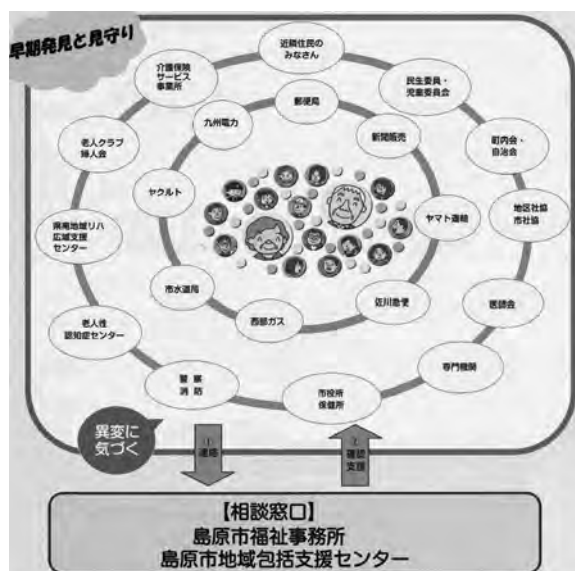
(2) 国民健康保険 平戸市民病院

- ・日 時：平成 26 年 2 月 13 日（木）9:40～12:10
- ・内 容 ① 平戸市民病院が取り組んできた地域包括医療・ケアの実践概要について（昭和60年～）
② 平戸市民病院による地域支援事業について
③ 超高齢社会に求められる医療について



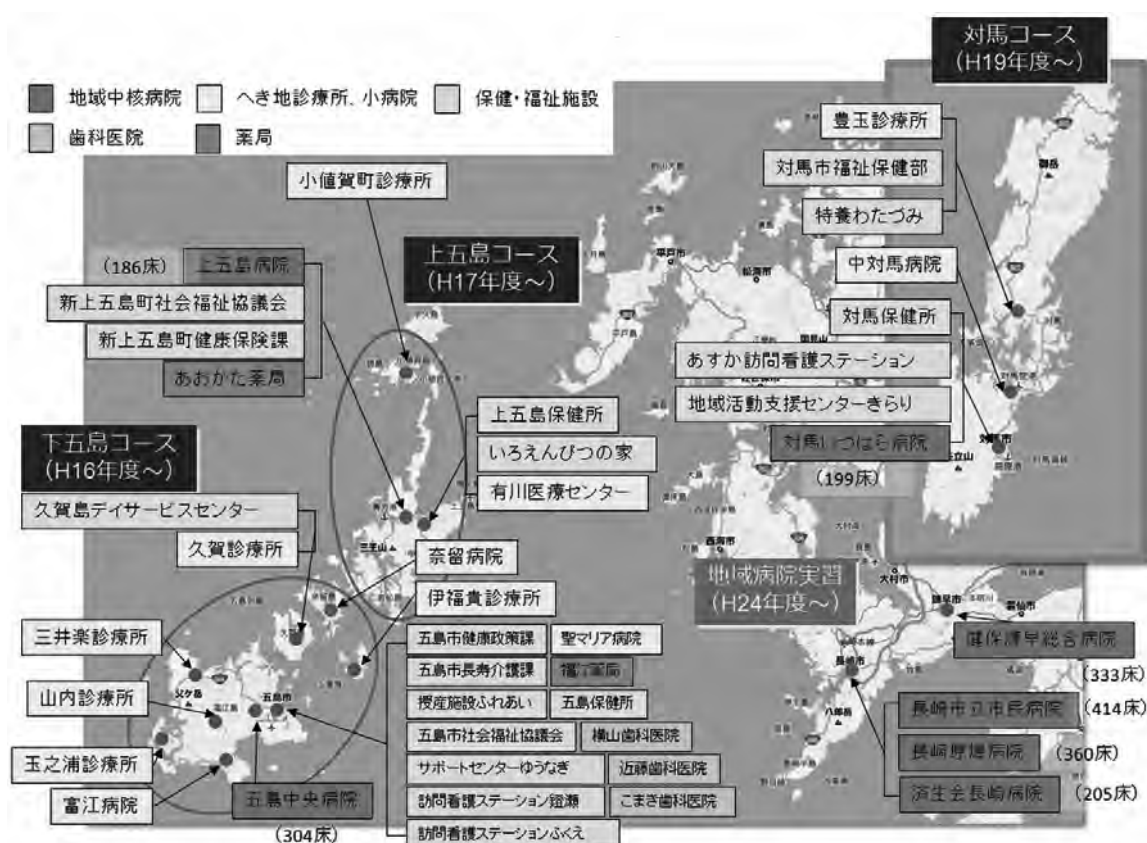
(3) 島原市地域包括支援センター

- ・日 時：平成 26 年 2 月 19 日（水）13:00 ～ 17:00
- ・内 容 ① 高齢者等見守りネットワーク構築ための先進的取組について
② 地域ケア会議開催について（オブザーバーとして地域ケア会議に参加）



(4) 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島・へき地医療学講座離島医療研究所

- ・日 時：平成 26 年 3 月 5 日（水）10:00 ～ 12:30
- ・内 容 ① 長崎大学の地域医療教育の概況について
② 離島医療・保健実習の実施概要について
③ 実習施設訪問
五島市健康政策課、五島市社会福祉協議会、訪問看護ステーション福江、デイサービスセンターはまゆう



(5) 五島市地域包括支援センター

- ・日 時：平成 26 年 3 月 5 日（水） 13:00 ～ 15:00
- ・内 容 ① 五島市における地域包括ケアの体制について
② 五島市高齢者見守りネットワーク連絡会について
③ 介護予防教室等の取り組み状況について



(6) 新上五島町地域包括支援センター

- ・日 時：平成 26 年 3 月 6 日（木） 14:00 ～ 16:00
- ・内 容 ① 介護予防教室等の取り組み状況について
② 地域連携の状況について－高齢者見守りネットワーク（どがんねっと）－



(7) 上五島町地区離島医療教育研究会

- ・日 時：平成 26 年 3 月 6 日（木） 17:30 ～ 19:00
- ・内 容 詳細は、99 ページを参照。

(8) 対馬市地域包括支援センター

- ・日 時：平成 26 年 3 月 10 日（月） 12:30 ～ 14:15
- ・内 容 ① 介護予防を含む支援事業の状況について

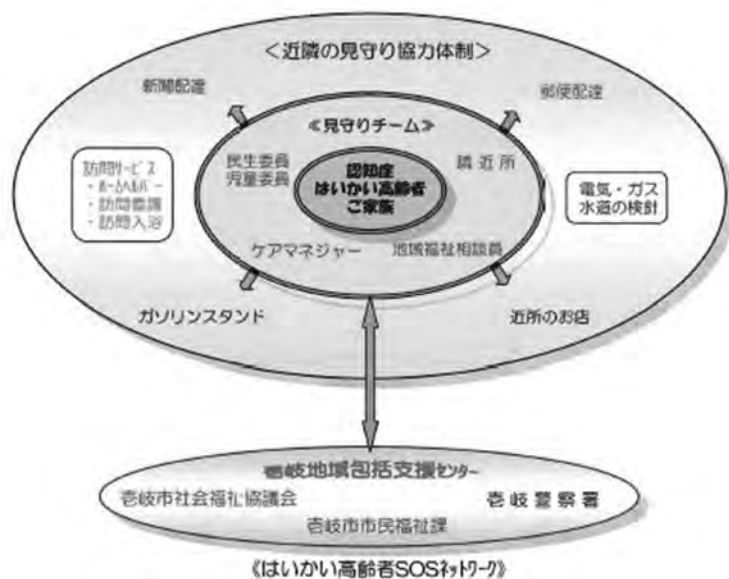
(9) 長崎県上対馬病院

- ・日 時：平成 26 年 3 月 10 日（月） 16:00 ～ 17:15
- ・内 容 ① 上対馬病院の地域包括医療について
- ② 退院カンファレンスについて



(10) 壱岐市地域包括支援センター

- ・日 時：平成 26 年 3 月 13 日（木） 10:00 ～ 11:00
- ・内 容 ① 広報活動について
- ② 介護予防支援事業等の状況について
- ③ 壱岐市はいかい高齢者 SOS ネットワークについて



1 ごあいさつ	(11) 医療法人 玄州会 居宅介護支援センター ・日 時：平成 26 年 3 月 13 日（木）16:00 ～ 17:00 ・内 容 ① 居宅介護支援センターの事業概要 ② 玄州会を中心にした多職種連携への取り組み状況について
2 事業概要	(12) 社会福祉法人 さゆり会 高齢者総合ケアセンター 只狩荘 ・日 時：平成 26 年 8 月 24 日（日）13:00 ～ 15:00 ・内 容 ① 施設見学（高齢者サポート実践状況） ② 自己啓発を促す職員研修体制について ③ 地域連携行事の状況について
3 実施計画書	長崎県外 (1) 板橋区健康生きがい部おとしより保健福祉センター ・日 時：平成 26 年 2 月 18 日（火）11:00 ～ 12:00 ・内 容 ① 総合相談から社会資源へのフローについて ② 総合相談における医療ニーズについて ③ 地域ケア会議について
4 教	(2) 練馬区福祉部高齢社会対策課高齢調整係（練馬区高齢者相談センター） ・日 時：平成 26 年 2 月 19 日（水）10:00 ～ 11:00 ・内 容 ① 練馬区における地域包括支援センター本所と支所の連携について ② 総合相談における医療ニーズについて ③ 地域ケア会議について
5 育	
6 研	(3) 富士宮市地域包括支援センター ・日 時：平成 26 年 2 月 20 日（木）13:00 ～ 14:00 ・内 容 ① 富士宮市における総合相談支援システムフローについて ② 医療と介護の連携課題について ③ 地域ケア会議について
7 究	
8 6	(4) 板橋区医師会在宅医療センター ・日 時：平成 26 年 2 月 21 日（金）10:00 ～ 11:00 ・内 容 ① 在宅医療連携拠点事業について ② 板橋区医師会における在宅療養相談支援のフローについて ③ 地域ケア会議について
9 行	
10 事	
11 7	
12 そ	
13 の	
14 他	

ラインラント・ファルツ州「健康と介護 2020」会議出席及び資料収集

期 日：平成 26 年 9 月 9 日（火）～ 9 月 24 日（水）

訪問者：荒木慎一郎 人文学部長・教授

9月11日

ラインラント・ファルツ州

厚生労働省（Mnisterium für Soziales, Gesundheit und Demografie）訪問

将来計画「健康と介護 2020」担当者とのインタビュー

9月12日

ラインラント・ファルツ州

マインツ市立図書館

マインツの福祉分野に関する資料収集

9月15日

ラインラント・ファルツ州の高齢者福祉・高齢者教育の視察

アイヒシュテット・ベネディクト女子修道会



9月17日

ラインラント・ファルツ州「健康と介護 2020 (Gesundheit und Pflege 2020)」会議

ab 13:00Uhr Einlass und Möglichkeit des Ausstellungsbesuchs

14:00Uhr Begrüßung

14:05Uhr Rede zum Zukunftsprogramm “Gesundheit und Pflege-2020”

14:30Uhr Gastbeitrag: “Wie viel Gesundheit brauchen wir wirklich?”

15:00Uhr Überleitung zu den Workshops

15:10Uhr Kaffeepause

15:40Uhr Workshops

WS 1: “Gute Versorgung braucht qualifizierte Fackkräfte”

WS 2: “Sektorenübergreifende Versorgungsmodelle im ländlichen Raum”

WS 3: “Telematik in der medizinischen und pflegerischen Versorgung”

18:00Uhr Ergebniszusammenfassung und politische Schlussfolgerungen
mit Minister Schweitzer

ab 18:30Uhr Ausklang im Foyer mit Umtrunk



9月18日

ラインラント・ファルツ州の高齢者福祉・高齢者教育の視察

マインツ大学医学部・認知症サービスセンター訪問

9月19日

マインツ・カトリック大学社会福祉学部 (Katholische Hochschule Mainz) 訪問

将来計画「健康と介護 2020」に対応する人材養成についてのインタビュー

9月22日

ラインラント・ファルツ州

厚生労働省 (Ministerium für Soziales, Gesundheit und Demografie) 訪問

将来計画「健康と介護 2020」担当者との意見交換

マインツ大学 (Universität Mainz) マインツ教会史研究所訪問

マインツの福祉分野における歴史的・宗教的背景に関する意見交換

4. 各種委員会

長崎純心大学医療・福祉連携センター 運営委員会

目 的

長崎純心大学医療・福祉連携センターの管理運営について審議する。

構成員

センター長、現代福祉学科教員、センター教員、総務部広報担当、総務部メディアオフィス室長、学事部入試広報課長、学事部教務課長、実習指導センター主事、ケアセンター扇町センター長
(平成 26 年 4 月 1 日現在)

平成 25 年度

(1) 第 1 回運営委員会

- ・日 時：平成 25 年 11 月 25 日 (月) 18:00 ～
- ・場 所：長崎純心大学医療・福祉連携センター
- ・議 題
 - ① 長崎純心大学医療・福祉連携センター規則 (案) について
 - ② 未来医療研究人材養成拠点形成事業について
 - ③ 地域包括支援センターの現状と課題について

(2) 第 2 回運営委員会

- ・日 時：平成 26 年 1 月 27 日 (月) 18:00 ～
- ・場 所：長崎純心大学医療・福祉連携センター
- ・議 題
 - ① 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」調査票作成
 - ② 長崎大学との連携
 - ③ 所管行政機関との連携
 - ・長崎県福祉部への事業説明
 - ・長崎市民政局福祉部への事業説明
 - ④ 今後の計画

(3) 第 3 回運営委員会

- ・日 時：平成 26 年 3 月 3 日 (月) 16:00 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・議 題
 - ① センター事業報告
 - ・公開フォーラム参加
 - ・関係機関との連携
 - ・キックオフシンポジウム
 - ・事業企画委員会
 - ・県内・県外先進地視察
 - ② 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」に関する中間報告
 - ③ 長崎純心大学医療・福祉連携センターによる未来医療研究人材養成拠点形成事業実施体制 (イメージ案)
 - ④ その他

1	ごあいさつ
2	事業概要
3	実施計画書
4	教
育	
5	研
究	
6	行
事	
7	そ
の	
他	

(4) 第4回運営委員会

- ・日 時：平成 26 年 3 月 31 日（月） 16:00 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・議 題

- ① 長崎純心大学医療・福祉連携センター規則の一部改正について
- ② センター事業報告
 - ・離島部における地域包括ケア体制の状況報告
 - ・事業企画委員会の開催
 - ・長崎純心大学医療・福祉連携センター医療・福祉講演会の開催
- ③ 長崎地域包括ケア教育管理・運営委員会
- ④ 長崎地域包括ケア教育推進委員会
- ⑤ 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」に関する中間報告
- ⑥ その他

平成 26 年度

(1) 第1回運営委員会

- ・日 時：平成 26 年 4 月 17 日（木） 16:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・議 題

- ① 長崎純心大学医療・福祉連携センター所属職員について（報告）
- ② センター事業報告
 - ・共修科目（NICE キャンパス）
 - ・「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」に関する報告
- ③ 平成 26 年度事業確認（文科省提出 長崎純心大学関係分）
- ④ 本事業に係る委員会等
- ⑤ 平成 25 年度実施報告書の公表

(2) 第2回運営委員会

- ・日 時：平成 26 年 5 月 31 日（土） 16:00 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・議 題

- ① 長崎純心大学医療・福祉連携センター事業計画案について
- ② ケアセンター扇町との連携について
- ③ ドイツ介護保険関係情報収集事業
- ④ 研究会開催計画
- ⑤ センター事業報告
 - ・対馬地区離島医療教育研究会参加報告
 - ・長崎純心大学医療・福祉連携センターにおける地域包括ケア調査研究への取組
 - ・調査研究報告Ⅰ「平成 25 年度地域包括支援センター実態調査結果に関する今後の分析方針について」
 - ・調査研究報告Ⅱ「平成 26 年度の調査への取組について」
- ⑥ 長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告
- ⑦ その他

(3) 第3回運営委員会

- ・日 時：平成 26 年 7 月 30 日（水） 16:00 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・議 題

- ① 平成 26 年度第1回地域包括ケア教育推進委員会参加報告
- ② 平成 27 年度開設「共修科目」の設置について

- ③ FD・SD の開催
 - ④ 平成 26 年度第 2 回長崎地域医療セミナー in GOTO
 - ⑤ 社会福祉士実習・演習担当教員養成講座参加報告
 - ⑥ 長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告
 - ⑦ その他
- (4) 第 4 回運営委員会
- ・日 時：平成 26 年 9 月 18 日 (木) 16:00 ～
 - ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
 - ・議 題
 - ① センター事業報告
 - ・「地域包括ケアシステムに関する研究会」報告
 - ・「第 2 回地域医療セミナー in GOTO」参加報告
 - ・「地域医療フォーラム 2014」参加報告
 - ・平成 25 年度調査研究報告
 - ② 社会福祉士実習・演習担当教員養成講座修了報告
 - ③ 長崎県地域包括ケアシステム構築支援委員会について
 - ④ 第 20 回長崎県介護老人保健施設研究大会（市民公開講座）について
 - ⑤ 全国シンポジウム「日本の国情・2 次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える 2014」への参加について
 - ⑥ 平成 27 年度共修授業の開講（案）について
 - ⑦ 本年度の報告書についての長崎大学との打ち合わせ
 - ⑧ 平成 26 年度調査研究計画について
 - ⑨ 第 3 回認知症ケースカンファランス
 - ⑩ 新潟大学総合地域医療学講座及び地域医療魚沼学校の視察予定
 - ⑪ シンポジウムの開催（仮）
 - ⑫ 長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告
 - ⑬ その他
- (5) 第 5 回運営委員会
- ・日 時：平成 26 年 11 月 19 日 (水) 16:15 ～
 - ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
 - ・議 題
 - ① センター事業報告
 - ・新潟大学地域医療実習視察報告
 - ・2014 年度全国社会福祉教育セミナー報告
 - ・第 20 回長崎県介護老人保健施設研究大会（市民公開講座）報告
 - ・長崎県・長崎市主管課への平成 25 年度調査研究報告
 - ・全国シンポジウム参加について
 - ② 今後の事業予定
 - ・日本社会福祉学会での口頭発表について
 - ・シンポジウム開催
 - ③ 平成 27 年度共修授業の開講（案）について
 - ④ 未来医療研究人材養成拠点形成事業・テーマ B（平成 25 年度実績報告書）疑義照会報告
 - ⑤ 長崎純心大学医療・福祉連携センター収支報告
 - ⑥ その他

長崎純心大学医療・福祉連携センター 事業企画委員会

目 的

- 保健医療分野と福祉分野との連携状況と課題把握
- センターが行う調査研究計画案の企画
- 保健医療分野と福祉分野との連携システム構築に関する調査研究計画の企画
- その他の地域包括ケア体制の推進に関する理論的かつ実践的な調査研究の企画

構成員

- センター長、センター教職員
- 学外有識者

原田奈津子	長崎国際大学人間社会学部社会福祉学科 准教授
永富 幸美	社団法人長崎医師会 長崎市桜馬場地域包括支援センター 社会福祉士
嶺 尚江	医療法人昭和会 長崎市戸町・土井首地域包括支援センター 社会福祉士
宮川 江利	地方独立行政法人長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター 市民病院 社会福祉士
井上加菜子	特別医療法人春回会 長崎北病院 社会福祉士

- 長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター関係者
- 長崎純心大学学部生、同大学院生、長崎大学医学部生

開 催

- 原則として、毎月第2・4月曜日に定例的に開催するものとする。

平成 25 年度

(1) 第1回事業企画委員会

- 日 時：平成 26 年 2 月 10 日（月）18:00～20:00
- 場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- 参加者：11 名
- 議 題
 - ① 委員紹介
 - ② 未来医療研究人材養成拠点形成事業概要説明
 - ③ 地域包括ケアの在り方に調査研究概要説明
 - ④ 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」
 - ⑤ 平成 26 年度事業計画について
 - ⑥ その他



(2) 第2回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 2 月 24 日 (月) 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・参加者：15 名
- ・議 題

- ① センター事業報告
 - ・公開フォーラム
 - ・関係機関との連携
 - ・県内先進地視察
 - ・キックオフシンポジウム
- ② 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」に関する中間報告
- ③ 未来医療研究人材養成拠点形成事業実施体制
- ④ 講義「地域包括ケアシステムを取り巻く政策動向」
- ⑤ その他

(3) 第3回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 3 月 12 日 (水) 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・参加者：15 名
- ・議 題

- ① 県外先進地視察報告
 - ・板橋区健康生きがい部おとしより保健福祉センター
 - ・練馬区福祉部高齢社会対策課高齢調整係（練馬区高齢者相談センター）
 - ・富士宮市地域包括支援センター
 - ・板橋区医師会在宅医療センター
- ② 長崎純心大学医療・福祉連携センター講演会の開催
- ③ その他

(4) 第4回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 3 月 17 日 (月) 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・参加者：16 名
- ・議 題

- ① 離島部における地域包括ケア施設視察報告
 - ・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科離島医療研究所
 - ・五島市地域包括支援センター
 - ・新上五島町地域包括支援センター
 - ・対馬市地域包括支援センター
 - ・長崎県上対馬病院
 - ・壱岐市地域包括支援センター
 - ・医療法人玄州会居宅介護支援センター訪問
- ② 医療と介護の一体化に関する協議
 - ・医療モデルから生活モデルへの円滑な移行
 - ・退院カンファレンス
 - ・多職種連携
- ③ その他

平成 26 年度

(1) 第 1 回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 4 月 14 日（月） 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・参加者：25 名
- ・議 題
 - ① 平成 26 年度事業確認（文科省提出 長崎純心大学関係分）
 - ② 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」に関する報告
 - ③ 本事業に係る委員会等センター事業報告
 - ④ 医療モデルから生活モデルへの円滑な移行（継続審議）
 - ⑤ その他

(2) 第 2 回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 4 月 28 日（月） 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・参加者：18 名
- ・議 題
 - ① 「地域包括支援センターにおける業務実態等に関する調査」に関する報告
 - ② 老年学及び介護福祉系の研究論文レビュー
 - ③ 今後の調査への取組について
 - ④ その他

(3) 第 3 回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 5 月 26 日（月） 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 1
- ・参加者：25 名
 - ※ 今回から長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センターからも事業企画委員会に参加
- ・議 題
 - ① 「平成 25 年度地域包括支援センター実態調査」結果の今後の方向性について
 - ② 対馬地区離島医療教育研究会参加について



- ③ 平成 26 年度の調査研究への取組について
 - ・質問項目
 - ・対象者属性
 - ・地域包括支援センターでの業務実態と評価
 - ・地域ケア会議の開催状況と評価
 - ・地域特性
- ④ その他
 - ・ケアセンター扇町との連携案について
 - ・長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域包括ケア教育センター長から

(4) 第4回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 6 月 9 日（月）18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：19 名
- ・議 題

- ① 在宅医療・介護連携の推進について
- ② 地域包括支援センターにおける各業務別関係機関等連携先についての因子分析結果

総合相談支援業務における因子分析の結果(n=818)

住民組織や地域の教育・福祉
関係組織等

居宅生活支援組織等

緊急時対応機関等

行政関係組織等

ハートン行列a				
因子				
	1	2	3	4
老人会などの老人クラブ	0.874	-0.074	-0.136	0.015
自治会 町内会	0.800	-0.048	-0.153	0.139
ボランティア団体	0.568	0.073	0.093	-0.134
家族会などの当事者団体	0.541	0.010	0.177	-0.150
公民館などの社会教育施設	0.507	-0.045	0.013	0.011
小・中学校などの教育機関	0.442	0.010	0.296	-0.118
老人福祉センター	0.333	0.038	0.163	-0.022
他の地域包括支援センター	0.297	0.109	0.058	0.196
訪問介護事業者	-0.030	0.911	-0.105	-0.013
訪問看護事業者	-0.043	0.806	0.096	-0.082
介護保険施設	-0.010	0.685	-0.019	0.102
居宅介護支援事業者	-0.005	0.507	-0.127	0.420
診療所	0.076	0.361	0.190	0.107
消防署救急車手配なし	-0.033	-0.030	0.591	0.042
警察署	0.042	-0.131	0.564	0.353
消防署救急車手配あり	0.000	0.051	0.534	0.132
弁護士	0.106	0.023	0.461	0.055
歯科診療所	0.247	0.197	0.375	-0.118
保健福祉センター・保健所	0.089	-0.013	0.303	0.244
市区町村	-0.141	0.092	0.140	0.525
福祉事務所	-0.175	-0.098	0.419	0.496
病院	-0.057	0.388	0.069	0.411
民生委員・児童委員	0.240	0.237	-0.060	0.367
社会福祉協議会	0.096	0.218	0.103	0.241
因子抽出法：最尤法				
回転法：Kaiser の正規化を伴うロータス法				
a 16 回の反復で回転が収束しました。				
適合度検定				
カイ2乗	df	有意確率		
	498.685	186	0.000	

因子相関行列				
	1	2	3	4
1	1			
2	0.587	1		
3	0.502	0.501	1	
4	0.370	0.551	0.367	1

- ③ 地域包括支援センターにおける業務の状況についての因子分析結果
- ④ 地域包括支援センター業務内容体系化
- ⑤ その他
 - ・ケアセンター扇町との研究会について
 - ・長崎純心大学医療・福祉連携センター広報パンフレット作成について
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター長から

(5) 第5回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 6 月 23 日（月）18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：15 名
- ・議 題

- ① ケアセンター扇町との研究会について
- ② 地域包括支援センターにおける各業務別ニーズに係る関係機関等との連携について
- ③ その他
 - ・長崎純心大学医療・福祉連携センター HP の開設
 - ・第 2 回長崎地域医療セミナー IN GOTO
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター長から

(6) 第6回事業企画委員会

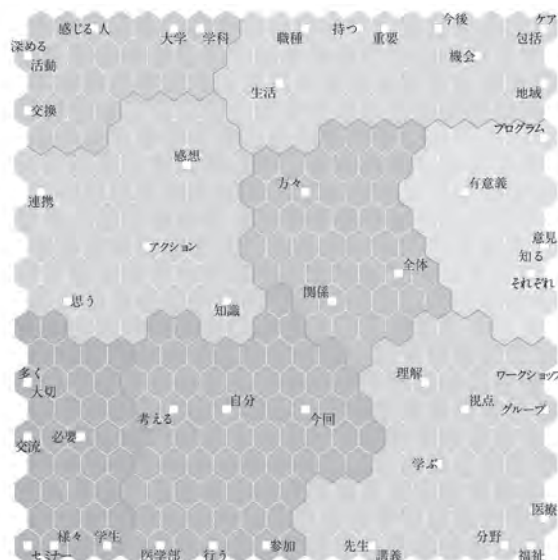
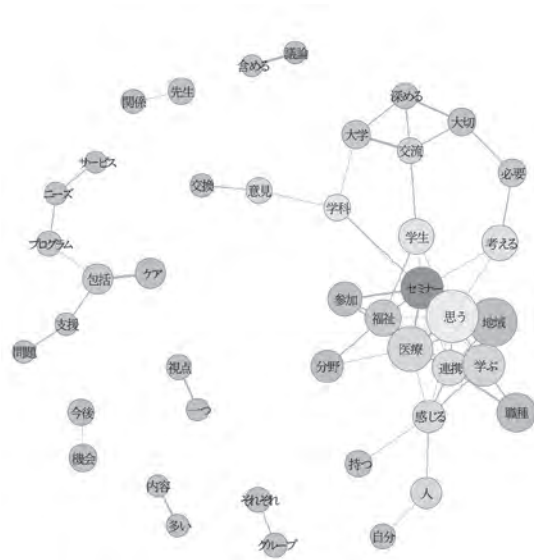
- ・日 時：平成 26 年 7 月 14 日（月） 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：18 名
- ・議 題

- ① 平成 26 年度第 1 回長崎地域包括ケア教育推進委員会報告事項
- ② 地域包括支援センターの設置者別（行政・委託）職員体制、業務状況、連携機関等の差異についての報告
- ③ 地域包括支援センターにおける各業務別ニーズに係る関係機関等との連携について
- ④ その他
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター長から

(7) 第7回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 9 月 8 日（月） 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：12 名
- ・議 題

- ① 講義「最近の政策動向について」
- ② 第 2 回地域医療セミナー報告



※ 長崎純心大学の参加学生 7 名の感想文から共起ネットワーク及び自己組織化マップを KH Coder で作成。なお、KH Coder は立命館大学の樋口耕一氏が開発されたものである。

- ③ 地域包括支援センターにおける各業務別ニーズに係る関係機関等との連携について（継続）
- ④ その他
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター長から

(8) 第8回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 9 月 22 日 (月) 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：14 名
- ・議 題
 - ① 地域医療フォーラム報告
 - ② 地域包括支援センターにおける各業務別関係機関等連携先について
 - ・社会政策と社会的ニーズについて
 - ・地域包括支援センターの業務内容と関係機関等との連携について
 - ・地域包括支援センターにおける各業務別ニーズに係る関係機関等との連携について (継続)
 - ③ その他
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センターから

(9) 第9回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 10 月 6 日 (月) 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：27 名
- ※ 今回から長崎大学医学部生もオブザーバーとして事業企画委員会に参加
- ・議 題
 - ① 地域包括支援センターにおける各業務別関係機関等連携先について
 - ・社会政策と社会的ニーズについて
 - ・地域包括支援センターの業務内容と関係機関等との連携について
 - ② 地域包括支援センターにおける各業務別ニーズに係る関係機関等との連携について (継続)
 - ③ その他
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センターから

(10) 第10回事業企画委員会

- ・日 時：平成 26 年 10 月 27 日 (月) 18:30 ～
- ・場 所：長崎純心大学 J 棟会議室 2
- ・参加者：26 名
- ・議 題
 - ① 新潟大学総合地域医療学講座地域医療臨床実習現地視察報告
 - ② 地域包括支援センターにおける各業務別ニーズに係る関係機関等との連携について (継続)
 - ③ 「平成 26 年度地域包括支援センター実態調査」の実施に伴う連携先の検討
 - ④ その他
 - ・長崎大学臨床実習ワーキンググループ報告
 - ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター長から



(11) 第11回事業企画委員会

- ・日 時：平成26年11月10日（月）18:30～
- ・場 所：長崎純心大学 J棟会議室2
- ・参加者：32名
- ・議 題

① 秋田全国シンポジウム 学生セッション プレゼン

- ・「第2回長崎地域医療セミナー IN GOTO 島を訪ね、多職種の卵たちと学びあった2泊3日 ～セミナー概観～」
- ・「第2回長崎地域医療セミナー IN GOTO 地域包括ケアを知識から行動へ ～ワークショップをきっかけに～」

② 日本社会福祉学会第62回秋季大会口頭発表プレゼン

- ・「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要（その1）－関係機関等との連携状況に焦点を当てて－」
- ・「地域包括支援センターに関する全国調査結果の概要（その2）－地域ケア会議と業務状況に焦点を当てて－」

③ 「2014年度全国社会福祉教育セミナー」報告

④ その他

- ・長崎大学大学院医歯学総合研究科地域包括ケア教育センター長から

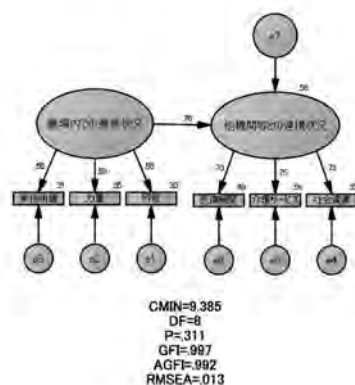


※ 秋田全国シンポジウム 学生セッションで発表した学生は、長崎純心大学教授会で成果を発表。
 日 時：平成26年12月3日（水）17:00～
 発表者：長崎大学医学部医学科 上原 裕規（3年）、荒倉 由佳（2年）、内田 直子（1年）
 松島 俊樹（1年）、林 はるか（1年）
 長崎純心大学現代福祉学科
 岩田真里亜（4年）、出雲 幸奈（4年）、加藤小百合（4年）
 戸口 四郎（3年）

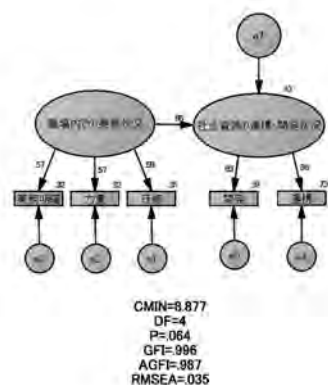
(12) 第12回事業企画委員会

- ・日時：平成26年12月8日（月）18:30～
- ・場所：長崎純心大学 J棟会議室2
- ・参加者：17名
- ・議題

- ① センター長あいさつ
- ② 「設置主体による関係機関等との連携状況」
- ③ 「設置主体による地域ケア会議の状況」



「総合相談支援業務」における「職場内での業務状況」と「他機関等との連携状況」に関する共分散構造分析の結果



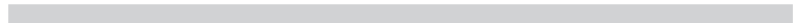
「総合相談支援業務」における「職場内での業務状況」と「社会資源の連携・開発状況」に関する共分散構造分析の結果

- ④ 日本社会福祉学会第62回秋季大会報告
- ⑤ その他





その他



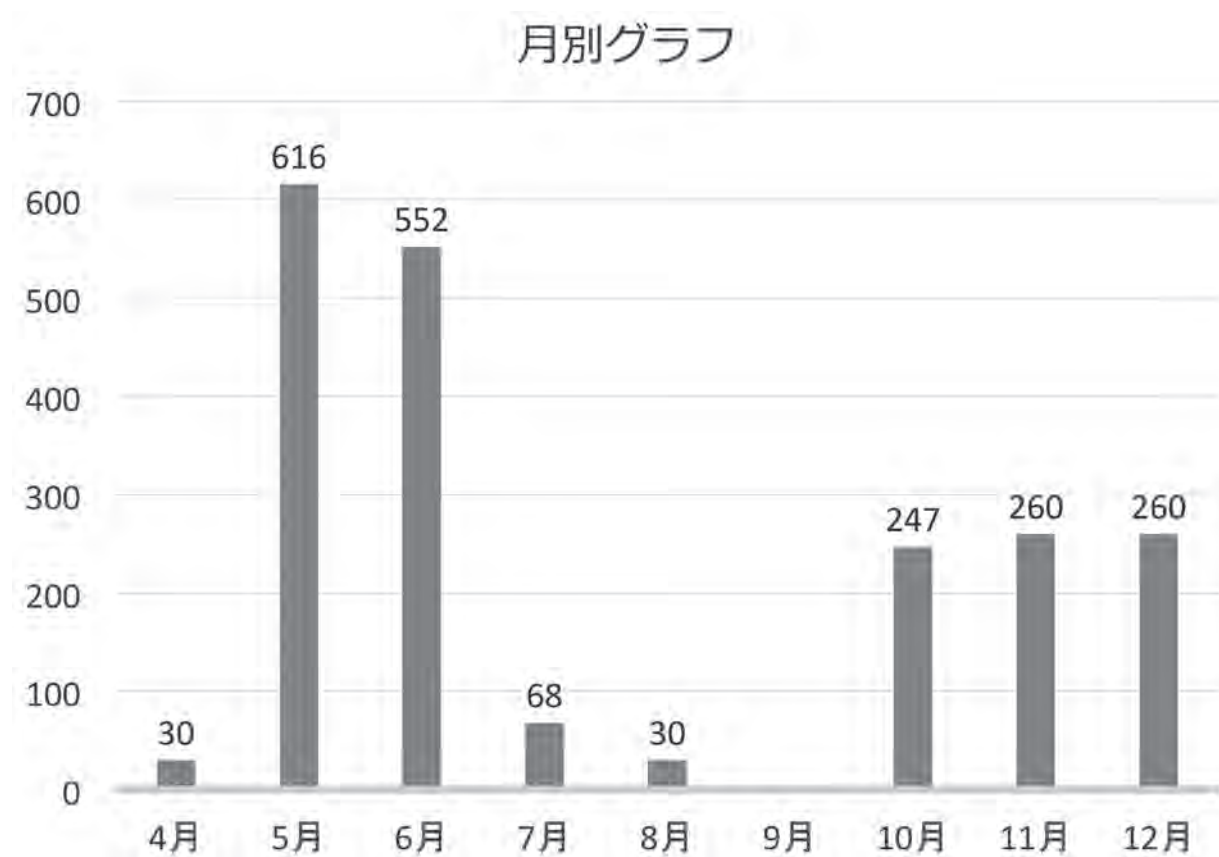
1. シミュレーター 一覧

No	品 名
1	外傷・救急用超音波診断トレーニングファントム “FAST/ER FAN”
2	上腹部解剖モデル ECHO-ZOU 型
3	乳房超音波診断ファントム “BREAST FAN”
4	超音波診断ファントム上腹部モデル “ECHOZY” セット
5	フィジカルアセスメントトレーニングモデル “Physiko” * ノート型パソコン、心電計、外部スピーカー付き
6	コードレス聴診教育システム送受信機 [HI-STETHO]
7	MMI マキュレス血圧計卓上型
8	リットマン聴診器
9	パルスオキシメーター
10	新お年寄り体験スーツ S サイズ
11	新お年寄り体験スーツ M サイズ
12	新お年寄り体験スーツ L サイズ
13	新お年寄り体験スーツ LL サイズ
14	片マヒ体験スーツ (M サイズ) 坂本モデル
15	片マヒ体験スーツ (L サイズ) 坂本モデル
16	心電計
17	スキルスラボ推奨診断セット
18	胸脇苦満 (漢方用腹診シミュレータ所見モデル)
19	腹直筋緊張 (漢方用腹診シミュレータ腹力モデル)
20	マルチディスカッション顕微鏡 (5 人用) 7 ケ穴レボ
21	顕微鏡デジタルカメラ
22	フル HD カラーカメラシステム
23	液晶 TV (46 型)
24	挿管シミュレータ MS-2 型 M34
25	血管吻合シミュレーター
26	胸腔・心嚢穿刺シミュレーター MW17
27	採血・静注シミュレータ シンジョー II
28	LAPX 腹腔鏡手術シミュレーター 日本ライトサービス
29	ALS Sim アドバンスド SimPad (モニター無)
30	シミュレーター用コンプレッサー (自動自発呼吸機)

No	品 名
31	男性導尿・浣腸シミュレータ
32	女性導尿・浣腸シミュレータ
33	吸引シミュレータ Q ちゃん
34	経管栄養シミュレータ（経管栄養ポンプ&注入用セット）
35	タイコス アネロイド血圧計
36	人工肛門シミュレータ
37	レサシアン全身スキルガイドモデル レールダル
38	呼吸音聴診シミュレータ ラング
39	超音波診断装置
40	標準トレーニングパッド
41	バードモノプティ（マックスコア）16G×160mm
42	乳腺バイオプシーファントム 1箱2個組（透明＋肌色）
43	乳腺バイオプシーファントム 1箱2個組（肌色）
44	乳腺バイオプシーファントム 1箱2個組（透明）
45	ダブルルーメンチューブ（自動自発呼吸機用延長チューブ）
46	心嚢穿刺 S 穿刺パッド 2個組 MW15
47	胸腔穿刺 S 穿刺パッド 左側胸部 2個 MW4
48	胸腔穿刺 S 穿刺パッド 右背部 2個 MW4



シミュレーター月別利用状況（平成 26 年 4 月～平成 26 年 12 月）



利用者数
月平均 172 名
合 計 2,063 名
平成 26 年 12 月 31 日現在



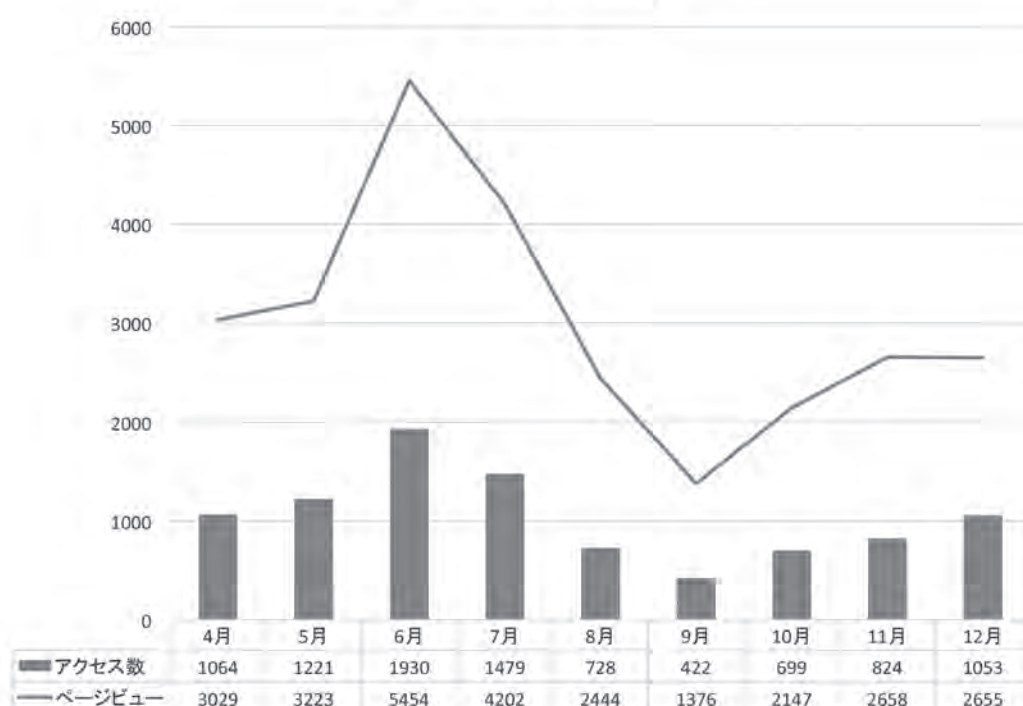
2. ホームページ

本事業の取り組みや成果の公表、学生に向けた地域包括ケア教育に関する情報提供のためホームページを立ち上げた。

長崎大学 <http://www.mdp.nagasaki-u.ac.jp/tsunagu/>



月別HPアクセス数



長崎純心大学 医療・福祉連携センター
Nagasaki Junshin Catholic University Medical and Welfare Liaison Center

・サイトマップ ・お問い合わせ ・個人情報

医療・福祉連携センターとは
About

ニュース
News

研究
Study

共修
Joint Course

講演会・シンポジウム
Public Lecture

誰もが安心して暮らせる地域社会
ー 医療・介護・福祉の統合化 ー

ニュース

2014年12月03日
秋田全国シンポジウムを本学教授会で報告

2014年11月30日
「日本社会福祉学会 第62回秋大会」で発表しました

未来へ繋がる医療と福祉
ー 関係者へのインタビュー ー

全国調査

平成23年の介護保険制度の発効以降、地域包括支援センターを基軸とした地域包括ケアシステムの構築が期待されています。

地域包括ケアシステムの構築には、高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進める「地域ケア会議」が重要な役割を担っており、その推進には市町村または地域包括支援センターが役割を担っています。

そこで、本センターでは調査研究活動の一環として、地域包括支援センターの現状と課題を明らかにするために、全国の地域包括支援センターを対象に調査を実施。



平成25年度

全国4,834の地域包括支援センターを対象に調査を実施。(2014年2月6日(木) 調査票発送)

回収された1,217件に対してコーディング作業、データ入力、データクリーニングを行い、最終的には1,206件に対し統計的分析を行いました。作業には、本学学部生及び大学院生の協力を得ています。

・平成25年度 調査票 (PDF)

調査研究の結果等

【平成25年度 講演会報告】

- ・長崎純心大学 報告 第二「地域包括ケアシステムの構築推進に関する調査報告」(PDF)
- ・神戸女学院大学 報告 第二「自己決定支援の推進に関する調査報告について」(PDF)
- ・筑波大学 報告 第二「介護保険制度における地域包括ケアシステムの取り組み」(PDF)

【平成25年度 全国調査結果】

- ・「地域包括支援センターに関する基礎調査の結果」(PDF)
- ・「地域包括ケア推進のための関係者に関する調査結果の分析」(PDF)
- ・「地域包括ケア推進の推進状況に関する調査結果の分析」(PDF)
- ・「地域包括ケア推進の推進状況に関する調査結果の分析」(PDF)

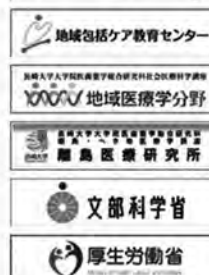
検索

・全国調査

・県内各地域包括ケア推進機関

・県立大学関係機関

・Homeへ戻る



3. ロゴマーク



デザイン提案
長崎大学医学部地域医療学講座
山口 真利奈さん

【ロゴマークコンセプト】

グリーン：緑豊かな長崎県、長崎の人々を示しています。

オレンジ：あたたかな色に託された優しい気持ちと医療への情熱を示しています。ハートと手のひらをモチーフとして、つながる医療・福祉・保健・介護生活を繋げています。また、他職種間との連携や、患者と医療スタッフが手を取り合って医療を行う姿勢を表しています。

ブルー：冷静なリサーチマインドと医療を育む先導的教育研究拠点である当センターを示しています。

ロゴマークはブルー（当センター）に支えられるオレンジ（多職種間のつながり・医療への情熱・相手への思いやりの心）、ブルーとオレンジに支えられるグリーン（長崎の人々）を表しています。また、まる（○）の3点を結ぶと、対馬・五島・島原半島を結ぶ三角形となり、長崎県を示す地図にもなります。

4. スタッフ名簿

長崎大学

	氏名	職名
1	永田 康浩	地域包括ケア教育センター長
2	久芳さやか	地域包括ケア教育センター副センター長
3	石居 公之	地域包括ケア教育センター 助教
4	相良（植木）郁子	地域包括ケア教育センター 助教
5	牟田（井生）久美子	地域包括ケア教育センター 助教
6	松坂 雄亮	地域包括ケア教育センター 助教
7	依田 周	地域包括ケア教育センター 助教
8	江口 正倫	地域包括ケア教育センター 助教
9	濱口 由子	地域包括ケア教育センター 助教
10	門村由紀子	地域包括ケア教育センター 連携調整員（長崎市役所）
11	濱田 恵子	地域包括ケア教育センター 連携調整員（長崎市医師会）
12	平尾加奈子	事務
13	山崎 美香	事務
14	小川 若菜	事務
15	舟越 純子	事務
16	實藤 英子	事務
17	陣内 恵子	事務
18	江崎 智子	事務
19	野田 美紀	事務
20	山崎 知恵	事務
21	森 美紀子	事務
22	安永 智子	事務
23	松本 知佳	事務
24	大田奈帆子	情報技術職員
25	松永 篤宜	情報技術職員

長崎純心大学

	氏名	職名
1	潮谷 有二	医療・福祉連携センター長
2	宮野 澄男	医療・福祉連携センター 准教授
3	田中美喜子	医療・福祉連携センター 助教（平成25年11月～平成26年6月）
4	奥村あすか	医療・福祉連携センター 助教
5	吉田 麻衣	医療・福祉連携センター 助教
6	森 万記	医療・福祉連携センター 専任事務

平成 25 年度文部科学省 未来医療研究人材養成拠点形成事業
「リサーチマインドを持った総合診療医の養成」

つなぐ医療を育む先導的教育研究拠点の構築

—人と人、場と場、ケアとリサーチをつなぐ総合診療医の養成—

事業報告書

平成 25 年 10 月～平成 26 年 12 月



長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
地域包括ケア教育センター

〒 852-8523 長崎市坂本 1 丁目 12-4 TEL : 095-819-7046



長崎純心大学
医療・福祉連携センター

〒 852-8558 長崎市三ツ山町235番地 TEL : 095-842-8787